

鉄代表（宇佐美貨物課長）トノ間ニ大体意見ノ交換ヲナンタルコトアル比率即チ南行（大連向）六割三五東行（浦潮向）三割六五ヲ主張シタルニ対シ烏鉄ハ南行四割東行六割ヲ主張シテ以来毎日論議ヲ為シタル結果最後ニ満鉄ハ南行六割東行四割ヲ先方ハ東南五分五分ヲ主張シテ互ニ譲ラススクテ双方ノ主張ニ十%ノ間隔ヲ残シテ遂ニ意見ノ一致ヲ見ル能ハス是亦本月五日夕決裂スルニ至レリ。

六四一 十二月十六日 在ハルビン大久保内務事務官ヨリ
広田欧米局長他宛

満鉄ト東支鉄道トノ運輸連絡交渉決裂ト露國

側ノ対応策ニ関スル件

哈秘第三三〇号 (十二月二十一日外務省接受)

大正十三年十二月十六日

在哈爾賓 大久保内務事務官

満鉄ト東支鉄道トノ運輸連絡交渉決裂ト露國側ノ

対策ニ關スル件

東支鉄道ノ北満貨物東行吸収策ニ対スル協調ノ為メ満鉄側ヨリ提議シ月余ニ涉リ交渉ヲ重ねタル両鉄道ノ運輸連絡問題モ明年五月頃再交渉ヲ口約ニテ留保スルノミニテ決裂ノ

事項一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係

六四二 二月二十九日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

中ソ交渉開催ノ模様報告ノ件

付記一 大正十一年九月二十六日着在ハルビン山内総領事発内田外務大臣宛電報第三三一號

中ソ交渉開催ニ關スルヨツフエ發本国政府宛

ノ電文大意ニツキ報告ノ件

二 大正十二年四月二十七日在ハルビン山内総領事発内田外務大臣宛電報第一四二號

中ソ交渉ニツキ王正廷ノ新聞記者ニ対スル声

明大要報告ノ件

三 大正十二年十一月五日在中國芳沢公使発伊集院外務大臣宛電報第一〇三八號

中ソ交渉ノ経過ニツキ王正廷ニ尋不タル件

大正十二年十二月七日在中國芳沢公使発伊集院外務大臣宛電報第一一二八號

中ソ正式交渉ノ開催ニ關スルカラバン・王正廷間ノ書翰交換ニツキ情報ノ件

第一一〇号

（三月一日接受）

去ル十七日王正廷帰京ト同時ニ二十日、二十二日及二十五

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六四二

悲運ニ陥リ各々競争ノ止ムナキ状態ナリ之ニ對シ露國側ニテハ本月十三日哈爾賓總領事館二階ノ一室ニ於テ共產党幹部数名ノ秘密会合ヲ催シタル由ナルカ其内容ニ付内偵スル

トコロニ依レハ今回ノ満鉄對東支、烏鉄ノ協議不調ノ結果満鉄ハ其機關タル国際運送会社ヲ利用シテ輸出特産物一頓ニ付四元ノ「プレミアム」ヲ付シ傳家甸方面ノ油房組合員ノ招待等種々ナル御氣嫌政策ヲ講シ盛んニ其吸收策ヲ企図シテ居ル場合之カ対応策ノ如何ハ東支鉄道經營上ニ齋ス影響甚大ニシテ引ヒテハ共產党勢力ノ消長ニ関スル重要問題ナレハ（一）此際積極的ニ外國特產物輸出商組合間ニ宣伝ヲ開始スルコト、（二）ニハ「モスクワ」中央委員会巨頭間ノ内証激烈ノ折カラ英露間ノ外交力行詰リ形勢憂惧サルモノアリテ北京會議モ熟シ來リ居ル際機ヲ逸スルコトナク日本ノ承認氣運ヲ促進スヘク連続的ニ運動ヲ振作スル為メ特ニ此時当地党員ノ團結ヲ要スト協議シタリ

之カ為メ今後東支鉄道沿線ハ「スヘシコフ」「ワルガノフ」ノ二名哈爾賓ハ「ウラジミロフ」、「ラゼーウイチ」ノ二名力専任的ニ其指導者タルニ決定シタリト云フ
通報先、前号同様

日ノ三回ニ亘リ「カラハン」ト會見シ露支問題ニ關スル交渉ヲ再開シタル次第ハ新聞電報等ニ依リ疾ク御承知ノコトト存スルモ右會見ニ際シ双方ノ提出シ若ハ提出セントスル案ノ内容ナルモノ若ハ此ノ際大綱ヲ協定シテ支那ハ直ニ「ソビエット」政府ヲ承認スヘシ等ノ報道支那新聞等ニ散見スルモ何レノ点迄真実ナルヘキヤ今日迄之ヲ確カムルヲ得ルニ至ラス依テ本使ハ最近ノ機会ニ於テ王正廷ニ面会シ直接同人ヨリ露支交渉ノ状態乃至支那側ノ態度等ニ關シ聽取スル積リニテ素ヨリ同人カ何ノ程度迄打明クヘキヤハ疑問ナルモ會見ノ模様ハ御参考迄ニ電報スル積リナリ尚北京及天津「タイムス」ハ二十八日ノ紙上ニ於テ Dipломat triangle ト題シ日露文ノ関係ヲ論述セルカ同紙ノ記者ノ見ル所ハ「ヨツフエ」當時ヨリ露國ハ日本トノ関係樹立ヲ第一トシ日露交渉ノ前ニハ支那トノ交渉ニハ左シテ重キヲ置カス此ノ点ハ「カラハン」又然リ今回王正廷トノ開談ノ如キ偏ニ日露交渉促進ノ餌タルニ過キスト為シ又「ザルツマン」カ「ミッショソ」側其他トノ會見ニ依リ得タル

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六四二

五六六

印象ニ依レハ「カラハン」ハ哈爾賓ニ於テ露西亞銀行カ領事團等ノ援助ニ依リ支那側ニ対シ交渉ヲ開始シ居ルコトヲ頗ル重要視シ王トノ開談ハ哈爾賓交渉牽制ノ為ニ外ナラサルヘシトノコトニシテ此ノ事ハ往電第一〇八号「カラハン」ノ外交部宛強硬ナル抗議及二十四日本使ト「カラハン」面会ノ際同人カ山内總領事ノ行動ニ関シ本使ノ注意ヲ喚起シタルコト等ニ思ヒ合スルモ全然根拠ナキ事ニモ非サルヘキ御参考迄

(付記一)

大正十一年九月二十六日着在ハルビン山内總領事発内田外務大臣宛電報第三三一號
中ソ交渉開催ニ関スルヨツフエ発本国政府宛ノ電文大意ニツキ報告ノ件

第三三一號

目下頻リニ交渉中トノ噂アル露支會議開催ノ件ニ關シ九月二十五日本官カ極秘ヲ誓ヒ一覽セル「ヨツフエ」発勞農政府宛電文二通(仮訳文)ノ大意左ノ通

(一)九月十四日長春「ヨツフエ」発「スタリン」宛

九月二日付ヲ以テ支那外交總長宛「ヨツフエ」ヨリ覺書ヲ提出セル処右ニ対シ九月七日付ヲ以テ外交總長ヨリ回

(二)九月二十一日付在長春「ヨツフエ」発「カラハン」宛

前記外交總長ノ覺書ニ対スル「ヨツフエ」ヨリノ回答ナル旨ヲ記シタル後

「哈爾賓ヨリノ報道ニ依レハ九月二十五日頃東支鐵道ノ自称株主總會開催サルル由ナルカ九月七日付外交總長ノ覺書中ニ所謂緊要ナル諸問題ナルモノノ内東支鐵道ニ関スル件ハ其ノ最モ緊要ナルモノノ一タルヲ疑ハス故ニ条

約又ハ何等カノ正当ナル規定ニ依リテ成立セス且不法ト認メラル前記総会ニ対シ勞農政府ノ全權ヲ有スル代表者ハ極力抗議シ且此ノ如キ事実ノ實現ハ決シテ支那政府ニ於テ允許セラレサルヘキヲ信シ右ニ關シ支那政府ノ執ラレタル措置ヲ通報セラレンコトヲ要求ス」

政務部、公使、奉天へ電報済

(付記二)

大正十二年四月二十七日在ハルビン山内總領事発内田外務大臣宛電報第一四二號

中ソ交渉ニツキ王正廷ノ新聞記者ニ対スル声明大要報告ノ件

第一四二號

四月二十六日王正廷ハ当地新聞記者ヲ引見シ大要左ノ通り

声明セリ

露支會議開催ノ件ハ未定ナルカ労農側代表者ノ來着ト同時ニ開始ノ筈ナリ會議ハ支那内政ノ変化如何ニ拘ハラス行ハルヘシ勞農政府承認問題モ審議セラルヘク先ツ以テ議題トナルヘキハ露支通商關係ノ樹立ニシテ次ニ：：蒙古問題第三ハ東支鐵道問題第四ハ支那船舶ノ黒龍江航行問題第五ハ支那臣民ニ(脱)スル損害賠償問題等ナリ王ノ來哈ニ対シ労農側ハ大体冷淡ナル態度ヲ持シ居レルカ「ルスキーロ

ス」記者「ベロブロツキー」ノ内話ニ依レハ労農側ハ巴里ニ於テ露西亞銀行株券買入ノ運動ニ從事中ニシテ其關係上露支會議ノ開催ヲ急キ居ラストノコトナリ
在支公使ヘ転電セリ

(付記三)

大正十二年十一月五日在中國芳沢公使発伊集院外務大臣宛電報第一〇三八號

中ソ交渉ノ経過ニツキ王正廷ニ尋ネタル件

第一〇三八號

(大正十二年十一月七日接受)

十一月三日王正廷本使來訪ノ際余談トシテ本使ヨリ最近新聞等ノ伝フル所ニ依レハ露支交渉ハ承認問題ノ為停頓セリトノ趣ナルカ如何ト尋ネタルニ王ハ交渉ハ繼續進行中ナリ承認問題ハ交渉案件ノ一ナルモ他ニモ幾多ノ問題アル次第ナリト答ヘ本使ヨリ蒙古問題ノ如キモ其一ナルヘキ處支那政府ニ於テハ遠カラス労農政府ヲ承認スル意向ナリヤ如何ト問ヘルニ王ハ承認問題ハ爾余ノ案件解決後ニ審議スル積リナリトノ趣旨ヲ述ヘタル上若シ支那カ労農政府ヲ承認スル場合ニハ日本ハ之ニ対シ如何ナル態度ニ出スヘキヤ又日支両國カ同時ニ労農政府ト交渉ヲ進ムルコトトナラハ或ハ露國ノ為ニ利用セラルルノ懸念ナカルヘキヤト述ヘタルニ

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六四二

六五八

付日本トシテハ特ニ支那ノ露国承認ヲ妨害スルカ如キコトモアラサルヘキカ露国ノ日支両國牽制若クハ利用ノ点ニ付テハ日支間常ニ緊密ナル親善關係ヲ維持シ共ニ其辺ニ対シ警戒スルニ於テハ斯ノ如キ懸念ナカルヘシト答ヘタルニ王ハ至極同感シ居リタリ尚聞ク処ニ依レハ露支交渉ト謂フモ未タ何等會議ノ形式ヲ以テ行ハレ居ルニアラスシテ個々ノ問題ニ付キ文書ノ往復若クハ臨時的会見ヲ為シ居ルニ過キス然ルニ勞農側ニ於テハ支那政府カ毫モ具体的意見ヲ表示セストテ其不誠意ヲ批難シ支那政府ハ勞農側カ動モスレハ其主張貫徹上種々ノ小策ヲ弄スルノ嫌アリシ最近年正廷辞任説ノ如キモ専ラ勞農側ノ宣伝ニ出テタルモノト觀察シ居レリ御参考迄

(付記四)

大正十二年十二月七日在中国芳沢公使堀伊集院外務大臣宛電報第一一二八号
中ソ正式交渉ノ開催ニ関スルカラハン・王正廷間ノ書翰交換ニツキ情報ノ件

第一一二八号 (大正十二年十一月八日接受)
十二月六日「ロスター」通信ハ王正廷日本へ出発前同氏ト「カラハン」トノ間ニ交換セラレタル書面ヲ発表セルカ右

六四三 三月二日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

中ソ交渉ノ現況ニ關シ王正廷へノ質問内容報

告ノ件

往電第一一〇号ニ関シ

王正廷トハ昨年暮对露交渉ニ關シテハ互ニ腹蔵ナキ意見ヲ交換シ「ソビエット」ニ乗セラレサル様スベシト話シ合ヒタルコトアルニ付二十九日同人ヲ訪問右ノ事実ヲ指摘スル

ト同時ニ差支ナキ程度ニ於テ日本側ノ態度ヲ説明シ次テ露交渉ノ現状ニ付推問シタルニ王ハ兎角「リザルブ」ノ態度ヲ持シ本使ノ質問ニ對シ明答ヲ避ケ或ハ話題ヲ他ニ転セント試ミ要領ヲ得サリンモ会談中ニ得タル處ヲ綜合スレハ交渉ニ關スル露支双方ノ「フォルミニラ」ハ既ニ交換シ右「フォルミニラ」中ニハ東支鐵道問題及承認問題ニ關スルコトヲモ含ミ居レル趣ナリ

尚米国公使去ル二十七日顧維鈞ニ面会セル際露支交渉ノ件ヲ尋ネタルニ「カラハン」ヨリ第一ニ「プリンシップ」ヲ協定シ次ニ第二ノ措置トシテ承認ヲナンシ次テ「スペシフィ

ニ依レハ最初王正廷ヨリ十一月二十一日付ヲ以テ「カラハン」ニ宛余ハ近日公用ニテ日本ニ赴クヘキ処二週間後ニハ帰来スヘキニ付帰来後直ニ交渉ヲ開始シ得ル様露国代表ニ於テ正式交渉開始ノ日取ヲ決定シ得ルコトヲ望ム旨ノ書翰ヲ送付シタルニ對シ「カラハン」ハ二十三日付ヲ以テ九月十三日付外交部「ノート」ニ依レハ大總統ニ對スル信任状提出問題ニ關シテハ目下考慮中ナル由ナリシカ既ニ二ヶ月ヲ経過スルモ未タ何等ノ回答ニ接セサル処之ニ依リ支那政府ハ余ノ信任状提出ノ時機未タ到達セス別言スレハ露支間ニハ未タ正式外交關係設定ノ時機ニ達セサルモノト思考シツツアルヤニ推察セラル然レトモ余ハ正式交渉開始ノ時機ニ關スル会談ニ際シ露国政府ハ第一ニ露支間ニ於ケル正式外交關係ノ速ナル復活ヲ要求シ此点ニシテ實現スルニ於テハ直ニ交渉ヲ開始スヘキ意向ナル旨數々指摘シ置タルヲ以テ王氏ノ今回ノ交渉開始ノ希望ハ即チ支那政府カ王氏帰來ノ頃ヲ以テ露国トノ間ニ正式外交關係ヲ設定スルコトニ決定シタルモノト解釈シ欣幸トスルモノナリトノ書翰ヲ送付シタリトノコトナリ

ク、クエッション」ヲ商議シタキ旨申出テ居ルモ支那側ヨリハ未タ回答シ居ラサル旨答ヘタル由二十八日同公使ニ面会ノ節内話アリタルカ其ノ節同公使ハ東支鐵道ニ關シテハ支那側トシテハ條約所定ノ何レカノ時機ニ於テ之ヲ回収スル方針ナルカ如キモ之ニ對シテハ露国側ヨリ何等意思表示ヲナシ居ラス又米国トシテハ他國ノ態度如何ニ拘ラス全然旨語リ居リタリ

六四四 三月五日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

中ソ交渉ノ成行ニ關シ外交總長ニ質問シタル件

第一二七号 (三月六日接受)

四日外交總長ニ會見ノ際露支交渉ノ成行ヲ質問シタルニ總長ハ王正廷、「カラハン」間ノ意見ノ交換ハ全部終了シ三日王ヨリ其結果ヲ政府ニ報告シ来レルモ四日ノ閣議ニハ之ヲ付議セス書類ハ目下予ノ手許ニ在ルモ未タ閲覧セスト答ヘタリ依テ本使ハ若シ閣議ニテ王ノ提出ニカカル報告ノ内容カ是認サルモノト仮定セハ露國承認問題ハ直ニ進行スヘキヤト尋ネタルニ總長ハ未タ報告ノ内容ヲ研究スルニ至

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六四四

六六〇

ラナルニ付何トモ返答シ難キモ仮ニ報告ノ内容全部ヲ其儘
是認スルトセハ或ハ右様ノ進行ヲ見ルニ至ルヘキ旨答ヘタ
リ

猶時事特派員小山カ三月四日上海以来ノ知己タル王正廷ヲ
訪問シテ得タルトコロトシテ岸田ニ語ルトコロニ拠レハ
(一)王正廷ハ帰京以来三月一日迄ノ「カラハン」トノ会見ニ
依リ東支鐵道及外蒙問題、治外法權問題等ニ亘リ一通り
所見ヲ交換シタル結果王トシテハ露文交渉ニ曙光ヲ認メ
タリ

(二)唯露支正式交渉ニ入ルニ就テハ王トシテハ先ツ露國ヲ承
認スルコト第一条件ナリト確信スルモ之ニハ政府部内ニ
反対アリ

(三)具体的問題ノ重大案件タル東支鐵道問題ニ関シ政府部内
ニ於テハ一九二〇年露清銀行トノ協定ヲ支持スヘシトノ
意見有力ナルモ王トシテハ一九一九年及二〇年「カラハ
ン」ノ声明ヲ基礎トシテ交渉スルヲ可ト信スルモノニシ
テ露亞銀行トノ協定ヲ基礎トスルニ対シテハ「カラハ
ン」ニ於テ断シテ承認セサル可シ「カラハン」カ露亞銀
行トノ協定ニ関シ最近外交部ニ公文ヲ送致シタルハ右等
行トノ協定ニ關シ最近外交部ニ公文ヲ送致シタルハ右等

政府部内ノ空氣ニ刺激セラレタルモノト思考ス云々ト語
リタル由ナリ右等情報ノ外數日前「カラハン」カ本使ニ
対シ自分モ愈々其ノ内南方ニ向ケ出発スヘキ旨語リタル
コト三月五日仏國公使來訪ノ節昨夜或支那人ハ同公使ニ
対シ露國承認ハ近ク実行ニ至ルヘキ旨ヲ王正廷ヨリ承知
シタル旨語リタル趣述ヘタルコト及三月二日「シュワル
サロン」其ノ他二、三「ソビエット、ミッショニ」ニ関
係アルモノカ「ザルツマン」ニ対シ同「ミッショニ」カ
「リゲーション、クオータ」ニ引移ルコトニ関シ二、
三重ナル公使ニハ異議ナキ模様ニテ或ハ近ク引越ヲ見ル
ニ至ルカ如キコトアルヘキ口吻ヲ洩シ「ザルツマン」ニ
於テハ支那側ノ承認案外ニ近キニアルニアラサルヤノ感
想ヲ得タルコト等ノ事実ヨリ想像スルニ少ク共「カラハ
ン」ト王正廷トノ間ニハ大体ノ話合付キタルモノナル可
シ唯支那政府部内ノ反対ハ王自身ニモ言明シ居ルカ如ク
ナルニ付一部新聞紙等ノ伝フルカ如ク承認カ果シテ近ク
實現スルヤ否ヤハ尚疑問ナリ尚三月五日仏國公使ハ更ニ
本使ニ対シ過日「カラハン」ハ伊國公使ニ対シ東支鐵道ヲ
支那ニ還付スルトキハ京浦線ノ如キ状態トナルヲ以テ露
ナカルヘシ

國トシテ之ヲ還付スルノ意思ナキ旨語リタル趣内話セリ
奉天、哈爾賓ニ転電セリ

六四五

三月十三日

在中國芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

中ソ協定案ハ近々内閣ノ討議ヲ經テ調印ノ運

ビノ模様ナル旨報告ノ件

第一五三号

往電第一二七号ニ関シ

王正廷「カラハン」間ノ協定案ハ四日ノ閣議ニハ付議セラ
レサリシモ其ノ後七日ノ閣議ニ於テ討議セラレ又十一日ノ

閣議後ニハ孫總理顧外交總長等打揃大總統ニ謁見シテ本件
ニ関シ報告スル所アリタル由ナルカ右ト前後シテ十一日及

十二日ニ瓦リ王正廷ハ屢々「カラハン」ニ会見シテ多少ノ

修正ヲ議シツツアルモノノ如シ明十三日ノ閣議ニハ右ノ結
果ヲ報告スヘキモ結局之ヲ承認スルコトトナルヘク從テ今

週中(多分十四日)ニ調印ノ運ヒトナリ之ト同時ニ支那ハ
莫斯科政府ヲ承認スルコトトナルヘシトノコトナリ又正式
會議ハ一ヶ月内ニ之ヲ開キテ細目ヲ協定スルコトトナルヘ

キ处右太綱中ニハ東支鐵道問題、外蒙撤兵問題、治外法權
問題、松花江航行問題、團匪賠償金還付問題、通商ニ関ス
ル事項、露西亞公使ノ回復ニ関スル問題等ヲ含ミ居ル由ナ
ルカ右ハ坂西中將及「ザルツマン」等ノ支那側ヨリ得タル
情報「ザルツマン」ノ「ミッショニ」側ヨリ得タル情報並
往電第一四七号末段所報露支交渉ニ関スル「カラハン」談
話ノ際支那側ヨリ今週中位ニハ何トカ返事アル筈ナル旨語
リ居リタル事実等ニ顧ミ大体ニ於テ事実ニ近シト見テ差支
ナカルヘシ

第六三号

六四六 三月十三日

在廣東天羽總領事ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

ボロディンノ廣東駐在ノ意図ニツキ推測ノ件

(三月十四日接受)

過日「ボロジン」カ「カラハン」ノ招電ニ依リ北上シタル
ハ予テ約束セシ金額支出方打合セノ為ナリト廖仲愷ハ今次
同國民黨員ニ話シタル趣ナル處「ボロジン」ノ廣東駐在ハ
既報ノ如ク主トシテ北京政府ノ對露交渉ニ對スル牽制ノ為
トモ思ハルヘキヲ以テ右ハ北京政府ノ露國承認問題ニ関連
シテ廣東態度ニ付打合セヲ為サンカ為ナルヘシト推測セラ

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六四七 六四八

六六二

在支公使へ転電セリ

六四七 三月十三日 在奉天船津總領事ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

ソ連政府承認問題ニ關シ張作霖ヨリ日本側ノ
意向問合セノ件

(三月十四日接受)

三月十三日張作霖ハ阪東顧問ヲ當館ニ遣ハシ大要左ノ通り
述ヘタリ

『北京ヨリノ情報ニ依レハ北京政府ハ労農政府ヲ承認スル
コトニ略々決定シタルモノノ如シ現ニ右ニ関シ間接的ニ自
分(張)ノ意見ヲ徵シ來レリ自分ハ未タ正式ニ意見ヲ發表
セサルモ労農政府ヲ承認スルニハ先ツ密接ノ關係アル東三
省當局ノ意見ヲ徵セサルカラサルコトヲ主張シ居ル次第
ナルカ自分ハ労農政府ヲ承認スル第一条件トシテハ支那人
カ所有シ居ル留紙幣ノ賠償問題ニ關シ相當話ヲ取極メ置ク
コト及東支鐵道ニ關シ今少シク支那側ニ有利ナル条件ヲ獲
得スル必要アリト考ヘ居レリ何レニシテモ労農政府承認問
題ハ日本ニモ緊密ナル關係ヲ有シ從テ日本ト相當協調ヲ保
ツ方双方ノ得策ナラント信スルニ依リ支那側ノ態度ヲ決ス

公使、哈爾賓へ転電セリ

六四八 三月十四日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

中ソ協定ノ調印行惱ミ狀態ニ關シ仏國公使ノ
談話報告ノ件

別電 同日在中國芳沢公使發松井外務大臣宛電報第一五
八号

東支鐵道ニ關スル露支交渉ニ對シ仏國公使ノ外交
部宛抗議要領

第一五七号

(三月十五日接受)

往電第一五三号ニ關シ其後仏國公使ヨリ露支協定中ノ東支
鐵道ニ關スル部分ニ付テハ支那側ニ抗議セル為支那政府部
内ニ於テ議論ヲ生シ王正廷等ハ仏國公使ノ抗議ニ拘ハラス

直ニ調印スヘキコトヲ主張シ之ニ対シテ王克敏ハ調印ヲ敢
行スルニ於テハ金法問題ハ更ニ紛糾シ且関稅予備會議ノ速
開モ望ミナキニ至ルヘシトテ之ニ反対シツツアリタル為十
三日ニ調印ノ筈ナリシ協定ノ調印モ行惱ミ居ル旨ノ情報ニ
接シタルニ付十四日仏公使ニ面会シテ真相ヲ尋不タル処同
公使ハ実ハ昨日本使ヲ來訪シタキ所存ナリシモ用向キノ為
之ヲ果ササリシ次第ナリトテ十一日夜同公使晚餐會ノ際外
交總長カ米國公使ニ対シ露支協定ノ調印モ行惱ミ中止シ居
ル旨語リ居タルヲ聞キタルニ付十二日外交總長ヲ訪問シテ
東支鐵道ニ關スル露支交渉ニ對シ口頭ニテ抗議シ東支
鐵道ニ付テハ從來屢々總長ニ説明シ置キタル次第アル處
モ政府ノ訓令ニ基キタルモノト同視サレ差支ナント断り置
ケルニ同総長ヨリ書面ニテ提出方勸メラレタルニ付早速覚
書ニ認メ送付シ置キタリトテ該覺書写ヲ本使ニ交付シタリ
其要領ハ別電第一五八号ノ通ナリ尚同公使ノ談ニ依レハ露
支協定ニ對シテハ支那政府部内ニモ反対論者アリトノコト
ニテ外交總長カ書面ニテ抗議提出方ヲ促シタル点ニ顧ミ同

ルニ当リ先ツ日本ノ意向ヲ承認シ置ク必要アリト思考スル

ニ付御差支ナキ限り何分ノ御意見申聞ケラル様當局へ電

票アリタシ云々』

右ハ張ニ於テ何等ノ魂胆アル次第ナルヤ一寸不明ナルモ或
ハ客年八月二十一日發拙電第一五〇号ト同様日本政府ノ意

向ヲ問合セ自己ノ参考ニ資セントスル位ノ程度ニ非スヤト
思料セラル

第六六号

(三月十四日接受)

三月十三日張作霖ハ阪東顧問ヲ當館ニ遣ハシ大要左ノ通り
述ヘタリ

『北京ヨリノ情報ニ依レハ北京政府ハ労農政府ヲ承認スル
コトニ略々決定シタルモノノ如シ現ニ右ニ關シ間接的ニ自
分(張)ノ意見ヲ徵シ來レリ自分ハ未タ正式ニ意見ヲ發表
セサルモ労農政府ヲ承認スルニハ先ツ密接ノ關係アル東三
省當局ノ意見ヲ徵セサルカラサルコトヲ主張シ居ル次第
ナルカ自分ハ労農政府ヲ承認スル第一条件トシテハ支那人
カ所有シ居ル留紙幣ノ賠償問題ニ關シ相當話ヲ取極メ置ク
コト及東支鐵道ニ關シ今少シク支那側ニ有利ナル条件ヲ獲
得スル必要アリト考ヘ居レリ何レニシテモ労農政府承認問
題ハ日本ニモ緊密ナル關係ヲ有シ從テ日本ト相當協調ヲ保
ツ方双方ノ得策ナラント信スルニ依リ支那側ノ態度ヲ決ス

公使、哈爾賓へ転電セリ

六四八 三月十四日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

中ソ協定ノ調印行惱ミ狀態ニ關シ仏國公使ノ
談話報告ノ件

別電 同日在中國芳沢公使發松井外務大臣宛電報第一五
八号

東支鐵道ニ關スル露支交渉ニ對シ仏國公使ノ外交
部宛抗議要領

第一五七号

(三月十五日接受)

往電第一五三号ニ關シ其後仏國公使ヨリ露支協定中ノ東支
鐵道ニ關スル部分ニ付テハ支那側ニ抗議セル為支那政府部
内ニ於テ議論ヲ生シ王正廷等ハ仏國公使ノ抗議ニ拘ハラス

総長自身モ反対者ノ一人ナリト認メタリ自分カ抗議ヲ提出
シタル後外交部内ノ或人ヨリノ内報ニ依レハ責任ノ地位ニ
在ル人ノ内ニテ露支協定ニ反対シ居ル者アルトノコトナル
ヲ以テ或ハ自分ノ推測ノ事実ナル証拠カトモ思ハル更ニ自
分ノ得タル情報ニ依レハ張作霖モ反対シツツアルニ非スヤ
ト思ハル過日米國公使ニ会談ノ際米公使ハ仏國政府ノ労農
政府ニ対スル態度ヲ尋ネタルニ付仏國政府ノ態度ニハ何等
変化ナシト答ヘタル上米國政府ノ態度ヲ反問シタル処同公
使ハ本国政府ヨリ自分ニ対シ外國政府カ労農政府ヲ承認ス
ルコトアルモ米國政府ハ之カ為動カサルルコトナキ旨ノ訓
示ニ接シ居レル旨語リ居リタリトノコトナリ尚仏國公使ハ
日本側ニ於テ露支問題ノ成立ニ対シ反対ノ声高ク甚タンキ
ハ日本政府ハ戰爭準備ヲ為シツツアリトノ情報スラアル位
ナリト語リタルニ付本使ハ日本政府ハ露支交渉ノ發展ニ対
シ興味ヲ以テ注意シ居ルニ相違ナキモ反対的意思表示ヲ為
シタルヲ聞カススノ如キ情報ハ全然根拠ナキコト勿論ナル
カ何レノ方面ヨリ之ヲ得ラレタルヤト尋ネタル処哈爾賓方
面ニ右ノ如キ風説頻ニ行ハレ居レリト語レリ仍テ本使ハ右
ハ露支協定ニ反対ナル露西亞人及支那人側ノ宣伝ナラント

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六四八

六六三

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六四九

答へ置キタリ

(別電)

三月十四日在中國芳沢公使堺松井外務大臣宛電報第一五八号

東支鐵道ニ閔スル露支交渉ニ対シ仏國公使ノ外交部宛抗議要

領

第一五八号

(三月十五日接受)

西中將ノ情報報告ノ件

目下進行中ノ露支交渉ニ閔連シ仏國公使ハ露亞銀行並ニ東支鐵道特殊ノ地位ニ対シ貴紹長ノ注意ヲ促サントス華府ニ

セラレタル同鐵道ノ地位ニ閔シテハ前任者等ニ於テモ書面又ハ会談ニ際シ屢々之ヲ指摘セル處ナルヲ以テ茲ニハ只支那政府カ露亞銀行ニ対シ東支鐵道ニ閔スル「コンセッション」ヲ与ヘ次イテ同銀行ト種々ノ協定特ニ一九二〇年ノ統約ヲ締結セルコトヲ指摘スルヲ以テ足ルヘン之等協定ノ結果タル制度ニ対シテハ露亞銀行ノ承諾ナクシテ変更セラルヘキニアラス同鐵道ノ法律上ノ権利者ヲ除外シテ行ハルル一切ノ変更ニ対シテハ露亞銀行及其株主並ニ其債権者ノ名ニ依リ仏國公使館側而已ナラス或ハ他ノ公使館ヨリノ抗議ヲ惹起シ從テ支那政府財政上ノ負担及困難ヲ増加スヘキ損害賠償等ノ要求ヲ見ルニ至ルヘシ仏國公使トシテハ現ニ露

テ之ヲ解決ス

(四)前項ノ鐵道買収金額及条件並受渡手続決定セサル以前ニアリテハ露支兩國政府ハ特ニ一ノ暫行管理弁法ヲ規定スヘシ

(五)露國政府ハ一九一七年二月革命以前ノ東支鐵道株主及債權者ニ対シ一切完全ナル責任ヲ負フヘン

(六)露支兩國政府ハ東支鐵道ノ前途ニ付完全ニ決定スヘク第ニ者ノ干渉ニ対シテモ其ノ何レノ方面ヨリスルヲ問ハス之ニ対シ相互ニ承認ヲ与ヘサルコトニ閔シ約ス

(七)一九二〇年十月二日東支鐵道ニ閔スル統約ニシテ本協定ト抵触セサルモノハ引続キ有効トス

尚同中將ノ得タル情報ニ依レハ前記第四項ノ規定ニ基キ東

支鐵道問題解決弁法商定前ニ於ケル臨時處理大綱トシテ付屬取極(郵送ス)ヲ締結スルコトトナリ居ル由

將又同中將ノ情報ニ十二日夜駐米支那公使ヨリ米國政府ハ支那側今回ノ態度ヲ以テ華府會議ノ精神ニ悖ルモノトシ若シ強ヒテ承認センカ米國ハ支那ニ対スル一切ノ援助ヲ停止スヘク又煙酒借款ノ期限満了セルニ依リ元利トモ直ニ償還

ヲ求ムルト申込來レル旨ノ電報アリタル為今回ノ露支協定

六六四

亞銀行ニ委任セラレタル任務ハ当ニ東支鐵道特殊ノ事情ニ適応スルモノト思考シ居ルモノナリ

六四九 三月十五日 在中國芳沢公使ヨリ

松井外務大臣宛(電報)

中ソ協定中ノ東支鐵道條項ノ内容ニ閔スル坂

第一六二号

三月十三日坂西中將ヨリノ情報ニヨレハ露支協定中ノ東支鐵道ニ閔スル条項左ノ如シト

第九条、東支鐵道問題ニ閔シテハ正式會議ニ於テ左記各項ニ依リ之ヲ商議決定ス

(一)露支兩國政府ハ東支鐵道ハ純然タル商業的性質ノモノタルコトヲ声明ス同鐵道自身ノ營業事務ハ該鐵道局ニテ直轄スルモ支那國家及地方主權ニ閔スル司法行政及土地(鐵道ノ管理スル土地ヲ除ク)等ノ各種事務ハ總テ支那官府之ヲ弁理ス

(二)露國政府ハ支那政府カ支那ノ資本ヲ以テ東支鐵道其ノ付属財產ヲ買収スルコトヲ承諾ス

(三)鐵道買収ノ金額及条件並受渡ノ手續ハ會議中特ニ約定シ

調印ハ一頓挫ヲ來シ兩院連合會議ノ上之カ対抗策ヲ決スルコトトナレリトアリ右ニ閔シ「ザルツマン」カ米國公使館側ニ問合セタル處右様ノ事絶対ニナシト否認シタル由ニテ同人力更ニ勞農代表側ヨリ聞込タル所ニ拠ルモ露支協定ニ閔シ仏國公使ノ抗議ニ拘ラス十四日朝王正廷「カラハン」ニ於テ「イニシャル」ヲ為シ十五日調印ノ手筈ニナリ居シリトノコトナルニ付精々取調中

第一六六号

(三月十六日接受)

往電第一五七号ニ閔シ當時仏國公使ハ同公使ノ公文ニ対スル本使ノ意向ヲ尋ネタルニ付本使トシテ別段異議ナキ旨答へ置キタル次第ナルカ東支鐵道問題ノ帰結如何ハ我方ニ取リ重大ナル影響ヲ及ホスコトアルヘキニ顧ミ左ニ差当リ卑見申進ス

(一)英國側ノ態度ハ未タ承知セサルモ現実ノ利害關係比較的繁密ナラス從テ今後飽迄モ仏國ト全然同一歩調ニ出ツヘキ

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六五一

六六六

ヤ否ヤ聊カ容疑ノ余地ナントセス現ニ仏國公使カ今次ノ抗議ニ当リ主ナル關係國公使ニ予メ謀ルコトナク之ヲ決行シタルニ徵シ同公使ニ於テモ略同様ノ觀測ヲ有スルモノナルヘキヤニ察セラルル処元來我方トシテハ露亞銀行ノ利益擁護ヲ主眼スル仏國ノ主張ト全然同一ノ立場ニアル次第ニハ非ナルモ東支鐵道ニ對スル我特殊ノ利害關係ニ顧ミ此際トシテハ兎ニ角現状ノ維持ヲ主張シ置クコト少クトモ無難ナルヤニ認メラルニ付今後必要ノ場合ニハ主義上仏國公使ト同様ノ歩調ニ出ツル方針ニテ適宜措置スルコトト致シタキ所存ナリ就テハ右ニ対シ何分ノ御意見折返シ御電示アリタン

(二)尤モ差當リ仏國側ト同一歩調ニ出ツルモ右ハ現状維持ノ共通目的ノ為ニ外ナラス從テ我方トシテハ東支鐵道ニ閔スル露支間ノ協定内容等モ略々判明シタル今日本問題ノ満鉄延イテ南滿ニ於ケル我特殊利益ニ及ホス現実ノ影響如何等ヲ攻究シテ至急対策ヲ確立セサルヘカラサルハ勿論ナル処其ノ辺ニ付テハ既ニ折角御考慮中ノ儀ト拝察スルモ卑見ニ依レハ例へハ大正六年十一月東支南線讓渡ニ閔スル本野「クルペンスキ」交換公文ノ処置ノ如キモ若シ帝国政府

ニ於テ其ノ効力ヲ主張セラレントスル次第ナルニ於テハ露支協定成立セントスル此機会ヲ捕ヘ断乎タル積極的措置ニ出ツルコト極メテ必要ト思考セラル貴見至急御電示アリタシ

哈爾賓ヘ転電セリ

六五一 三月十五日

在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

中ソ協定案ハ閣議ヲ通過シ一両日中ニハ調印

ノ運ビトナル旨報告ノ件

第一六九号

(三月十六日接受)

往電第一六二号中駐米支那公使來電ノ内容ニ閔シ右ハ「ヒュウズ」カ露支會議ハ華府會議ト東支鐵道協定トニ関連スル所ナキヤ否ヤヲ尋不タル故ニ速ニ回電アリタキ旨問合セ来リタルモノニテ米国政府ノ抗議ト謂フニハアラストノコトナリ

尚同中將ノ情報ニ露支協定ハ要スルニ十五日ノ閣議ニテ決セラルル次第ナルモ八分通り調印ノ氣運ニアリトノコトナルカ十五日王正廷ヨリノ使者周龍光カ本使ニ伝達方ヲ依頼シテ館員ニ語ル所ニ依レハ右ハ外交總長ニ多少ノ意見アル

モ多分十五日ノ閣議ヲ通スヘシトノコトナリ又同日本使「カラハン」ト會見ノ際同人ヨリ聽キタル所ニ依レハ露支交渉ノ大綱ハ既ニ確定シ本日夕方調印ノ運ヒニ至ルヤモ知レス唯目下比較的重要ナラサル諸点ニ付多少ノ修正ヲ加ヘツツアリ如何ニ遅クモ一両日中ニハ調印ヲ見ルヘシトノコトナリ

哈爾賓ヘ転電セリ

六五二 三月十六日 在中國芳沢公使(ヨリ)

松井外務大臣宛(電報)

中ソ協定ハ調印マデニ多少ノ曲折ハ免カレザ

ル旨觀察ノ件

第一七〇号

(三月十七日接受)

往電第一六九号ニ閔シ

其ノ後坂西側ノ情報ニ依レハ露支協定ハ十五日ノ閣議ニ於テ種々論議ノ末兎モ角之ヲ通過シテ孫總理、顧外交總長ノ

兩人大總統ニ秘密ニ報告(但シ新聞ハ閣議ニ於テ議纏ラス

大總統ノ裁決ヲ乞ヘルモノナリト報シ居レリ)シタル処大總統ハ外國トノ關係ヲモ顧念シ今直ニ決スルヲ得ストテ非公式ニ電報ヲ以テ吳佩孚ノ意見ヲ徵シタルカ未タ吳ヨリ回

第一七一號

(三月十七日接受)

六五三 三月十六日 在中國芳沢公使(ヨリ)

松井外務大臣宛(電報)

議ニヨルベシト顧維鈞提言ノ件

第一七一號

(三月十七日接受)

往電第一七〇号ニ閔シ

王ノ秘書周龍光カ池部ニ語ルトコロニ拋レハ十五日ノ閣議ニ於テ王督弁ハ「イニシャル」ヲ了シタル條文ニ就キ一応ノ説明ヲ為シタル処他ノ閣員ヨリ一、二ノ質問アリタル外

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係

六五一 六五三

六六七

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六五四 六五五

六六八

顧外交總長ハ本問題ニ就テハ仏國公使ヨリ異議ノ申出アリ極メテ慎重ニ審議スルノ必要アルニ付今日ノ閣議ニ於テ之ヲ決議セス日ヲ改メテ總統府側ト内閣ノ連合會議ヲ開キ決定スルコトシテハ如何ト提言シタルニ他ノ閣員一同之ニ贊同シタルヲ以テ孫及顧總長ハ直ニ大總統ニ謁見シ閣議ノ顧末ヲ報告シタル由ナリ

猶王督弁ハ既ニ責任ヲ致シタルト称シ十六日湯山ニ赴キタリ

六五四 三月十七日 在中国芳沢公使（ヨリ）
松井外務大臣宛（電報）

中ソ協定調印ニ關シカラハンヨリ中國側へ最

後通牒ヲ送リタル旨情報ノ件

第一七五号 (三月十八日接受)

三月十七日ノ「ファーライースタン・タイムス」ハ「カラハン」ヨリ支那側ニ対シ最後通牒ヲ送リタル旨報シ居レルニ付島田ヲシテ「ウォズネ」ニ確カメシメタルニ「ウォ」ハ極秘トシテ右ハ事実ニシテ其ノ内容ハ十七日ヨリ三日以内ニ露支協定ニ調印セサルニ於テハ依テ生スル結果ニ対シ支那側ニ於テ全部其ノ責ニ任セサルヘカラスト謂フニアリト内話シ又「オストロモフ」ノ浦潮逃走説ニ關シ「ウォズネ」

ハ「オ」ハ遁レタル次第ニハアラサルモ遠カラス露国内某要職ニ転任シ後任トシテ目下齊多ニ在ル「イワノフ」技師來任ノ筈ナリ「オ」ハ「イワノフ」ヲ尊敬シ居ルヲ以テ「イ」ノ言ニ服従スヘキハ明カナリト内話セル由ナリ
哈爾賓ヘ転電セリ

六五五 三月十七日 在中国芳沢公使（ヨリ）
松井外務大臣宛（電報）

第一七六号 (三月十八日接受)

往電第一七〇号ニ閑シ

前段ニ閑シ坂西情報ニ依レハ大總統ヨリノ電報ニ對スル吳佩孚ノ返電要領ハ「露國承認問題ハ専ラ中央ニ於テ決スルモノニシテ予ノ閑与スル處ニ非ラサルモ本件ハ重大ナルニ付一層慎重ナル考慮ヲ要スヘシ若シ承認ニ決定シ外蒙ヲ受取ル場合ニハ前國務總理張紹曾ニ馮玉祥及予ノ部下中ヨリ二旅ヲ選抜交付シテ受取ルコトヲ可トスヘシ」トノコトナリト

尚在米支那公使來電ニ「同公使十五日（ヒューズ）ニ面会ノ際（ヒ）ハ支那カ露國ヲ承認スルモ支那ハ承認後露國ヨリト

リ何等援助ヲ期待シ得サルト同時ニ各國ヨリノ援助ヲモ期待シ得サルニ至ルモノト思ハサルヘカラス故ニ支那トシテハ慎重考慮セサルヘカラスト述ヘタリ」トノコトナリ

六五六 三月十八日

松井外務大臣（ヨリ）
在中国芳沢公使宛（電報）

東支鐵道ノ地位変更ニ關シ日本政府トシテハ 仏國側ニ同調シテ強硬ナ反対態度ヲ執リ得ザ ル旨訓電ノ件

第一二九号

貴電第一六六号ニ閑シ

東支鐵道問題ニ対スル仏國側ノ立場ハ専ラ露亞銀行ノ利益擁護ヲ主眼トスルモノナルハ御申越ノ通ナル処露亞銀行ト東支鐵道トノ實際的關係カ露亞銀行主張ノ通ナルヤニ付キ

テハ疑問アリトノ議論モ勘カラサル次第ナルニ依リ我方ハ

ク從テ我方カ北滿发展及南滿鐵道ニ対スル關係上事實上同

鐵道カ元来露國ノ財產ニ屬スルコトハ之ヲ認ムルノ外ナク
本鐵道ニ對スル利害關係ノ緊要ナルハ素ヨリナルモ表面上ニ
於テハ同鐵道ニ對シ債權及南滿鐵道トノ接続ニ關スル條約

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六五六 六五七

六五七 三月十九日 在中国芳沢公使（ヨリ）
松井外務大臣宛（電報）

中國側閣議ニ於テ露蒙協約ノ取消、外蒙撤兵
ノ手段ニツキカラハント交渉方王正廷ニ訓令
決定ノ件

六六九

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六五八

六七〇

土肥原ノ探知シタル所ニ依レハ十八日ノ閣議ニ於テ支那政府ハ(一)取消スヘキ條約ニ露蒙協約ヲモ入ル事ヲ明カニスルコト(二)露支協定調印前ニ外蒙撤兵ノ手段ヲモ定メ置ク理ヨリ王正廷ニ訓令シ且万此二項ノ為交渉決裂ニ至ルトモ内閣ニ於テ責任ヲ負フ可キ旨王ニ申渡セル趣ニテ其結果十九日最後通牒期限終了前ニ王ヨリ「カ」ニ交渉ヲ遂クル筈ナリトノ事ナリ

六五八 三月十九日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛 (電報)

中ソ協定ニ對スル閣議ノ討議模様並ニカラハ

ノヨリ顧維鈞宛ノ書面内容ニツキ報告ノ件

第一八四号

(三月二十日接受)

露支会議ニ閲スル情報ヲ綜合スルニ「カラハン」ノ最後通牒的通告ニ接シタル支那政府ハ十七日閣議ニ於テ討議ノ結果稍々強硬ナル態度ニ出ツルコトトナリタリシ由ナリシカ同日「カラハン」孫寶琦ニ面会シタル結果總理ハ大總統ニ親謁シテ其裁決ヲ請ヒタルモ決定スルニ至ラス更ニ十八日ノ閣議ニ於テ討議ヲ重ネ結局東支鐵道買收額團匪賠償金ノ

使途教会其他不動産返還ノ件ニ就キ讓歩シ露蒙協約破棄ヲ大綱中ニ明記シ外蒙露軍撤兵手続ヲ調印前商定スルコトヲ主張スルコトニ決シ王正廷ハ右ノ結果ヲ齋シテ「カラハノ」ニ面会シ懇談ヲ重ネタル模様ナリ然ルニ十九日ノ「ロスター」通信ハ同日接受シタル莫斯科ヨリ訓電ニ基キ「カラハン」ヨリ顧維鈞ニ宛テタル書面ナルモノヲ發表シタリ右書面中ニハ先ツ王正廷カ支那側委員トシテ正式ニ任命セラレタルモノナルコトヲ指摘シタル上露國政府ハ

(一)支那ノ正式委員トノ交渉ヲ結了セルモノト思考スルコト(二)既ニ協定ヲ了シタル協定ヲ再ヒ討議ニ付スルコトヲ絶対ニ拒絶スルコト

(三)支那政府カ兩國ノ将来ノ国交ニ影響ヲ及ホスカ如キ重大行為ヲ為サムトスルニ付テ警告スルコト(四)期限経過ノ後ハ既ニ協定シタル条件ニ束縛セラルルコトナク将来支那トノ條約ニ閲スル条件ヲ自由ニ設定スルノ権利ヲ留保スルコト

(五)期限経過ノ後ハ支那ハ露國ト無条件ニ正式關係ヲ樹立シタル後ニアラスムハ商議ヲ再開スルコトヲ得サルコト云

云

ノ趣旨ヲ認メアリ

猶外交部ニハ王景春ヨリ此際速ニ調印然ルヘキ旨ノ意見ヲ上申シ來リ又在莫斯科支那代表ヨリハ莫斯科政府ヨリ支那カ予告期間内ニ決セサレハ自由行動ヲ執ルヘシトノ通告ヲ受ケタル旨並王景春及在哈爾賓交渉司ヨリハ勞農側カ東支鐵道ヲ占領スヘキコト及同鐵道両端付近ノ軍隊ニ動員令ヲ発シタル旨ノ情報ニ接シタル趣ノ情報モアリ為念

六五九 三月二十日 在中國芳澤公使ヨリ
松井外務大臣宛 (電報)

中ソ交渉進捗セザルル旨カラハン発言ノ件

第一八七号

(三月二十一日接受)

三月十九日「カラハン」往訪ノ際座談旁々本使ヨリ露支交渉其後ノ成行ヲ尋不タルニ「カ」ハ露支交渉最近行惱ノ裏面ニハ何等外國筋ノ圧迫アル様察セラルル處自分ノ入手セル情報並日本ノ新聞記事等ヲ綜合シテ考フルニ日本側ヨリモ此種圧迫ヲ加ヘタルヘシトノ結論ニ到達セサルヲ得スト語リ此際日本側ヨリノ圧迫ハ露國トシテモ甚タ苦痛トスル

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六五九

六七一

トコロナルカ日支兩國ノ關係ハ甚タ複雜ナルカ故ニ仮令外交機関ヲ經テ為サレタルモノニアラストスルモハ無責任ノ地位ニ在ルモノカ支那側ノ或方面ニ圧迫ヲ試ムルコトモアリ得ヘク自分ノ手許ニモ絶ヘス此種ノ情報到達スト言ヒ居レルニ付本使ハ右ハ必ス何等誤報ニ基ケルモノカ然ラスムハ何等為ニスルモノノ細工ニ出ツルモノト信スルノ外ナク本使ノ承知スル限り日本カ表裏トモ露支交渉ニ容喙スルカ如キコト決シテ無之「カ」ノ所謂無責任ノ地位ニ在ルモノノ行動トハ果シテ如何ナルコトヲ言フモノナリヤ其事実ヲ示サルレハ本使ニ於テ一応ノ調査ヲ為スモ差支ナシト述ヘタルニ日本側ニ於テ毫モ此種圧迫ヲ加ヘタル事実ナシトノ貴公使ノ言明ハ之ヲ莫斯科政府ニ報告シ差支ナキヤ將又貴公使ノ調査ヲ俟ツコトトスヘキヤト問ヒ本使ニ於テ今日迄ノ處何等承知スルトコロナキ旨ハ莫斯科ニ伝達セラルルコト勿論差支ナシ但本使ノ調査上貴方ノ有スル情報ハ参考ノ為承知シ置キタシト答ヘタルニ「カ」ハ日本ニ於テハ露支交渉ノ進捗ニ顧ミ三月十三日閣議ヲ開催セル趣ナルカ自分ノ得タル情報ヲ示スハ甚タ「デリケート」ナルカ故ニ之ヲ差控フヘキモ熟考ノ上調査方御依頼スルコトモアルヘシ

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六六〇

六七二

トテ具体的談話ヲ避ケタリ右ハ一種ノ探リト観ラレサルニ
アラサルカ先方ノ話振ハ余程熱心ノ模様モアリタルニ付御
参考迄稟報ス

六六〇 三月二十一日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

中ソ協定調印ノ目途立タザル模様ニツキ報告

ノ件

第一九一号

情報ニ依レハ十八日王「カ」会見ノ結果通牒ノ期限(十九日)ヲ延期スルコトトナリ「カ」ハ會議録中ノ意義ヲ变更セサル程度ニ於テ單ニ字句ノ修正ヲ許シタル由ナルカ十九日本使カ「カ」ニ尋ネタルニ通牒ノ期限ハ未タ経過シ居ラス支那側ハ体面ヲ重ンシ種々修正ヲ申込ミ来レルモ之ヲ拒絶シ居レル次第ナルカ午後十時ニハ顧維鈞ト会見ノ筈ナリト言ヒタルニ依リ翌二十日「カ」來訪ノ際本使ハ顧トノ会見ノ結果ヲ尋ネタルニ「カ」ハ顧ヨリ期限ヲ付スルハ無意ナリ期限内ニハ決定スルヲ得ス又王ノ委任権ハ交渉ヲ為スノ権限ヲ有スルノミニシテ愈調印トナレハ政府ニ於テ審議シタル上ノ事ニセサルヘカラス云々ト話アリタルモ既ニ莫斯科政府ヨリノ訓令ニ依リ重ネテ最後的通牒ヲ送リタル

今日期限ニ閑スル支那側ノ申出テニ応スル能ハス又王ノ委任権云々ハ内部的ノ問題ニシテ露国側ノ閑スル處ニ非スト答ヘタル處顧ハ兎ニ角莫斯科ニ取次カレ度シト申出テ「カ」ハ之ヲモ拒絶シ物別レトナリタリト言ヘリ依テ本使ハ聞ク処ニ依レハ(不明)撤兵、露蒙協約廢棄、在支露国教会財産等ノ問題カ問題トナリ居ル由ナルカ右ニ付テハ話シ如何様ナリタルヤト質問シタルニ「カ」ハ話ハ右諸問題ニ触ルルニ至ラスシテ終レリトテ顧ニ対スル反感ヲ諷シタルカ前後ノ口吻ニ微スルニ期限問題ニ付テハ「カ」ハ表面強硬態度ニ在ルモ王トノ間ニハ何等カ了解アルヤニ察セラル(本使二十日吳毓麟ニ面会ノ際同氏ハ露支交渉ニ閑シ王正廷カ調印ノ權無キニ拘ハラス既ニ調印セラレタル事發見セラレタルニ依リ支那トシテ外蒙撤兵、露蒙協約廢棄及露国教会財産ノ件等ハ更ニ商議ノ仕直シヲ必要トシ顧外交總長ヲシテ王ニ代ツテ交渉セシムル事トナレル旨語リ居タリ)要スルニ支那部内ノ調印反対論者ハ前頭諸問題ニ閑シ種々修正ヲ考ヘ焦思シ居ル由ナルモ露國側ハ依然強硬態度ニ在ルカ如シ右反対論者側ニハ王正廷排斥運動スラ起リ甚敷ハ王ノ收賄説スラ伝ハリ居ルモ確実ナラス他方在莫斯科李家鰲、駐

米公使、吳佩孚、王景春等ヨリ即時調印ヲ懇意シ来レルヤニ伝ヘラレ目下ノ処露支協定前途ノ見込ミ付カス

六六一 三月二十三日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

中ソ交渉事務ヲ王正廷ヨリ外務部ガ引継ギタ ル事情ニツキ報告ノ件

第一九七号

二十一日大總統令ヲ以テ露支交渉事務ヲ王正廷ヨリ外交部ニ引継同部ラシテ露国代表ト交渉ヲ継続セシムルコトヲ命シタルカ顧維鈞ハ一方「カ」ト引続キ折衝セムトスルノ外他方在莫斯科李家鰲ラシテ直接「チエリン」ト交渉ヲ再開セシメトスルヤノ報道伝ヘラレ居ル処王ハ二十一日付ヲ以テ交渉ノ経過ニ関シ諸方面ニ通電ヲ発シ自己ノ立場ヲ弁護セリ而シテ右ニ拠レハ当初露国側ハ先ツ国交ヲ樹立シ次テ會議ヲ開キ懸案ヲ討議スルコトナリシカ東支鐵道果先ツ會議ヲ開キ懸案ヲ討議スルコトナリシカ東支鐵道問題及外蒙問題最重キヲ為セリ其後折衝ノ末大體協定案成立シ三月三日之ヲ大總統ニ報告シ六日之ヲ内閣ニ移牒シ王ハ閣議ニ列席シテ充分報告スルトコロアリタルモ閣員中異

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六六二 六六三

六七四

条約取極等ニシテ露国ノ主権利益ヲ害スルモノヲ無効トス
ルコト之ト同時ニ両国トモ将来相手方ノ主権利益ヲ害スル
条約取極ヲ締結セサルヘキヲ約シ居リ又第九条東支鉄道ニ
関スル部分ハ分テ七項トシ既報ノ外
(イ) 東支鉄道ノ将来ハ露支両国ニ於テ之ヲ決定シ第三者ヲ干
与セシメサルコト

(ロ) 正式会議ニ於テ東支鉄道ニ関スル問題解決セラルニ至
ル迄一八九六年九月ノ協定ヨリ生スル建設及運行ニ関ス
ル両国政府ノ権利ヲシテ本協定暫行規定ニ抵触セス且支
那ノ主権ヲ害スルモノナキモノハ有効存続ス
トアルヲ異レリトスルノミ委細郵報

六六二 三月二十三日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

中ソ交渉停頓ノ原因ニツキ王正廷秘書語リタ

ル件

第一〇〇号

王正廷ノ秘書周竜光カ池部ニ語リタル處ニ依レハ露支交渉
ノ頓挫ニハ種々込入リタル原因アリ孫寶琦カ露国ノ現状ニ
顧ミ之カ承認ハ害アリテ利ナキヲ持論トセルコト顧維鈞カ

第一九号

三月二十六日王正廷ノ代理齊巡閱使ヲ訪ヒ露支交渉行詰リ
ノ經緯ニ付報告スル処アリタルカ右ニ関シ温世珍ノ小官ニ
語ル處ニ依レハ王正廷失脚ノ原因ハ呉佩孚ト李福林ノ勢力
争ニモ依レトモ顧維鈞ノ嫉妬カ其主因トモ言フヘク顧ハ王
正廷ニ対スル日本側ノ同情諒解アルコトヲ知ラス対露交渉
進捗ニ伴ヒ日本側ヨリ有力ナル故障起リ行惱ムヘク結局自
分ノ手ニテ纏ムルコトナルヘシト思考セシニ其仮調印ヲ
了スルニ至ルモ日本側ヨリ何等苦情出テ斯テハ王ヲシテ
独リ名ヲ為サシムルノミナラス将来自己ノ地位ヲモ危クス
ルモノナリトシ急ニ高圧手段ニ出テ王ヲ陥レタルモノニシ
テ顧ニ何等成算アルニアラス今後此内容暴露スルニ至ラハ
輿論ノ攻撃甚タシク遂ニ顧ハ失脚スルヤモ計リ難シ云々尚
三月二十六日ハ旅大回収ノ記念日ナリシモ当方面至極平穏
ナリキ御参考迄

北京ニ転電シ上海、奉天、天津、漢口ニ暗送セリ

六六四 三月二十九日 在奉天船津總領事ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

中ソ交渉決裂ニ対スル張作霖ノ態度報告ノ件

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六六四 六六五

王ノ成功ヲ嫉ミ陰險ナル術策ヲ弄シテ極力妨害シタルコト

等ノ外金法問題トノ関係モアリ即若シ露支交渉成立シ露国
承認ノ曉ニハ露亞銀行ハ絶大ノ危険ニ陥ルコト必然ナルヲ

以テ該銀行側ヨリ仏國公使ニ泣付キ同公使ヨリ異議ノ提出
ヲ見ルニ至リタルモノニシテ右露亞銀行側ノ関係等ニハ王

克敏モ關係シ居ルコト勿論ニシテ此真相暴露スレハ同人ニ
対スル議会方面ノ感情ハ益々悪化スヘン同人ハ從来金法問
題ニ関シ間接ニ露亞銀行ヲ通シテ鉅額ノ運動費ヲ引出シ居

リ結局金法問題ヲ承認セントスル底意アル關係上露亞銀行
ヲ困難ナラシムルヲ欲セス自然露支交渉成立ヲ擇ハサル立

場ニ在ルヲ以テ顧ノ王ニ対スル嫉妬心ヲ巧ニ利用シタルコ
トアリ又閣議ニ於テハ夙ニ顧維鈞ノ主張ヲ援助シ巧ニ孫總

理ヲ導イテ露支交渉ヲ外交部ニ摂弁セシムルコトニ漕キ付
ケタル次第ナリ事情斯ノ如キヲ以テ本問題ハ将来益々紛糾
スヘク既ニ參衆兩院ニテハ内々政府彈劾ノ材料ヲ蒐集シツ

ツアリ又政府ニテハ王ノ感情融和ノ為全国棉業督弁ニ特任
セントスル運動起リツツアルモノノ如シ云々

六六三 三月二十七日 在南京林出領事ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

王正廷失脚ノ原因ニツキ温世珍語リタル件

第七一号

三月二十八日張作霖ノ宴会ニ赴キタル序ヲ以テ貴電第五五
号ノ趣旨ヲ伝ヘタル所張ハ今回北京ニ於ケル露支交渉決裂
ニ了リタル由聞込タルヲ以テ直ニ自分カ予テ北京ニ派遣シ
アル代表ヲ召還シ詳細該地ニ於ケル交渉顧末ヲ聴取シタル
ニ北京ニ於ケル露支關係ハ外間ニ伝フル如ク全然決裂シタ
ルニアラス尚挽回ノ見込アル如シ何レニシテモ自分ハ直隸
派トノ關係上深思熟考ノ結果勞農政府ヲ承認スル方得策ナ
ルヤニ思料スルヲ以テ再ヒ自分ノ代表ヲ北京ニ引返サシメ
「カラハン」ノ意向ヲ探ルコトシタリ

在支公使、在哈爾賓總領事ヘ転電セリ

(欄外註記)

東支鉄道ニ於ケル露側ノ権利讓歩ハヤガテ南滿鉄道ニ対ス
ル支那側ノ要求ト為ル虞レアリ注意ヲ要ス

六六五 三月三十日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

中ソ交渉ノ顧末ニ関スル政府通電ニ対シ中國
要人ノ反応報告ノ件

第二二二号

六七五

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六六六

露支交渉停頓ノ結果政府ハ其ノ顧末ヲ各省ニ通電シテ事件ノ真相ヲ報告シタルモ吳佩孚其ノ他ノ有力筋ヨリハ政府難詰的ノ來電アリ殊ニ吳ヨリハ此通電ニ対シ反駁的ノ電報アリ議会方面ノ空氣モ稍陰惡ノ兆アル処吳佩孚ヨリハ更ニ二

十五日付ヲ以テ本交渉問題ニ關シ若シ外交總長遷延決セサルカ或ハ交渉ノ結果前者ト大差ナキトキハ外交總長ハ國家ヲ誤ルノ責任ヲ負ハサル可カラス又二十六日電ニハ今回交渉ノ決裂ハ露亞銀行ト關係アリトノ説アリ若シ事實トセハ財政總長其ノ責ヲ負ハサル可ラス云々ノ來電アリタル由ニ

テ王財政總長ハ已ニ辭職ヲ決心シタリトノ風説ヲ生ミ又孫寶琦、顧維鈞ノ両三日來ノ病氣引籠リノ事實ト付会シテ急転的ノ政變アルヘシトノ風説アリ然ルニ三月二十八日池部カ所用ニテ王克敏ニ面会シタル際夫レトナク話シ掛ケタルニ王ハ即座ニ否認シ右ハ多分例ノ謠言ナルヘクソノ反証トシテ目下洛陽ノ重要代表財政部ニ來リ毎日接合シ居ル事實アリ又露支交渉ハ外交部ノ責ニシテ財政部トハ全ク關係ナシ露亞銀行云々ハ事實無根ナリ尚孫ト顧ハ實際病氣ニテ殊ニ顧ハ發熱アリ從テ閥員モ出揃ハサル次第ナリト語リタル由ナルカ王ノ談ハ何處迄信用シ得ヘキヤ又吳ヨリノ來電力

六七六

果シテ對人的ニ言及シ居ルヤ未タ確メ難キモ不取敢電報ス

ノ真相ヲ報告シタルモ吳佩孚其ノ他ノ有力筋ヨリハ政府難

詰的ノ來電アリ殊ニ吳ヨリハ此通電ニ対シ反駁的ノ電報ア

六六六 四月一日 在広東天羽總領事ヨリ

松井外務大臣宛（電報）

中ソ交渉停頓ニ対シボロディンヨリ孫文宛電

報大要ニツキ廣東紙發表ノ件

第八二号

（四月三日接受）

四月一日「カントン・ガゼット」ハ三月二十三日北京Borodin ヨリ孫文ニ宛テタル大要左ノ如キ電報ヲ發表シタ『過般來北京ニ於テ協議中テアツタ露支協約ハ三月十四日兩国全權ノ調印ヲ了シタニ拘ラス北京政府ハ之ヲ承認シナカツタ該協約ハ國民黨ノ外交政策ヲ包括スルモノテ即チ支那ノ主權ヲ剝奪セル帝政露西亞ト支那間ノ旧條約ヲ廢棄シ治外法權其他各種利權ヲ撤廃シ蒙古ニ對スル支那ノ主權ヲ認メ支那カ財政整理ノ上東支鐵道ヲ買戻シ得ル迄同鐵道ノ管理權ヲ与ヘ及團匪賠償金ヲ返還シテ支那ニ於ケル教育事業ニ充當セムトン露支兩國ヲ同等ノ地位ニ措クモノテアル斯ノ如ク有利ナル條約ヲ帝国主義的國家トノ間ニ締結セムトセハ支那ハ多大ノ國帑ト生命ヲ犠牲トセナケレハナラナ

イ故ニ北京政府ニ於テ該協約カ國民ノ利益ニ背反スト言フニアラシテ本協約カ一月二十三日國民黨大會ニテ採用セラレタ國民黨ノ外交政策ヲ基礎トスルハ明白テアル革命露西亞ハ支那ヲ今日ノ半獨立ノ狀態ヨリ救出セムト努力シ其第一歩トシテ今回ノ協商ヲ提議シタノニ北京政府ハ遂ニ之ヲ拒絶シタスノ如クニシテ國民黨ノ大理想ハ國民ノ休戚ト更ニ相闘セサル他ノ事情ノ為ニ其發展ヲ妨害セラレムトシテ居ル之レ支那ニ取り由々數大事テアル云々』尚同紙ハ其社説ニ於テ右ニ付今般ノ北京當局ノ行動ヲ極力批難シテ居ル

北京へ転電セリ

六六七 四月三日 在中國芳澤公使ヨリ

松井外務大臣宛（電報）

中ソ交渉ノ推移ニ關連シ中國政局ノ觀測ニツ

キ報告ノ件

（四月四日接受）

當地方政局推移ニ就テハ隨時ノ報告並報道等ニ依リ大体御承知ノ通ナルモ諸般ノ情報ヲ綜合シ本使観測ノ一端ト共ニ御参考迄ニ左ニ申進ス

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六六七

六七七

長江沿岸及其ノ以北ノ治安ハ張作霖ノ勢力圈ヲ除ヒテハ吳佩孚、齊燮元及馮玉祥ノ三大威力ニ依リ實際上維持セラレ曹總統ノ傳統的權勢ノ下ニ統理セラレツツアル現狀ナル近來曹總統ノ健康ニ関シ兔角ノ報道流傳セラレテヨリ政局ニ対スル蜚語臆測漸ク起リ殊ニ最近露支交渉ニ一頓挫ヲ生スルニ及ヒ同問題ヲ中心トシ政局亦緊張ノ度ヲ加ヘ昨今頗ル機微ナル情勢ニ在リ露支交渉ノ經緯ニ付テハ迭次具報ノ通ニシテ今日迄ノ処停頓ト認ムルノ外ナキ処之ニ對シ吳佩孚ハ既ニ八回ニ亘ツテ中央ニ打電シ最モ強硬ナル態度ヲ宣明シ一方張作霖亦露支交渉促進ニ好意的態度ヲ表示シツツアルヲ以テ現内閣中本問題ノ速決ニ反対ノ立場ニ在ル顧維鈞、王克敏等ハ今ヤ殆ト腹背ニ敵ヲ受ケ差向キ從来ノ態度ヲ変更セサル限り或ハ勢ノ赴ク所内閣一部ノ改組ヲ余儀ナクセラルニ至ル可キヤモ計リ難キノミナラス所謂保定派内閣ノ擁立ヲ計ラントシテ芻カニ画策ヲ廻ラシツツアルヤノ報道モアリ彼是綜合スルニ孫總理カ病ト称シテ其ノ自邸ニ籠居シ國務會議ニモ列席セサルカ如キ亦以テ政局内部ノ機微ナル消息ヲ語ルモノト思考セラル、而シテ吳佩孚、

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六六七

六七八

張作霖カ如上ノ態度ニ出テソツアルハ露支交渉ノ初期ニ於テ王正廷ヨリ右等巨頭トノ間ニ意思疏通ヲ計リ既ニ或種ノ諒解ヲ得タルニモ依ルモノト認ムルヲ得可ク現ニ王正廷一両日中再ヒ洛陽ニ赴キ一切ノ情形ヲ吳ニ面陳スヘシト伝ヘラレ旁露支交渉ニシテ依然停頓ノ現状ニ放任セラル限リ吳佩孚ニ於テ中央ニ対スル追迫ヲ緩ウスルコトナカルシ

吳巡閱使カ露支交渉ヲ捉ヘテ強硬ナル態度ヲ持シツツアル真因ニ閔シ或ハ近來飲酒ニ耽リ動モスレハ幕僚ノ進言ヲ鶴飲ミニシ之ニ左右セラルコト鮮カラス露支交渉ニ対スル態度ノ如キモ畢竟一部幕僚ノ建議ニ動カサレツツアルニ過キスト為スマノアルモ或ハ又(一)曹錕昨今ノ健康ヲ慮リ私カニ自家勢力ノ拡充ヲ企図シ自派ノ要人ヲ其ノ勢力圏内ノ隨処ニ配置スルニ力ムル一方偶々露支交渉ノ難閻ヲ捉ヘテ自己ニ有利ナル内閣ノ組織ヲ断行セシメントスルノ底意ニ出ツルモノナリトシ、(二)王克敏カ露亞銀行ヨリ鉛額ヲ融通シタルニ対スル憤怒及露支交渉ノ解決ヲ促進シテ自己ノ軍隊ヲ蒙古方面ニ侵入セシメントスル魂胆ノ如キモ夫々原因ノ一ナリト伝フルモノアリ更ニ、(三)吳ノ真意ハ実ハ進ンテ露

ノ攪乱ヲ喚起スルニ至ルコトナキヲ保セヌ要スルニ曹總統ノ病勢如何ハ政局ノ将来ニ対シ重大且緊切ナル関係ヲ有スルモノト認メラル

天津、奉天ニ転電シ上海、漢口、南京へ暗送セリ

六六八 四月三日 在中国芳沢公使ヨリ

松井外務大臣宛(電報)

中ソ交渉ニ関スル中国側照会ニ対シカラハン

ノ意向ニツキ坂西情報報告ノ件

第二四三号 (四月四日接受)

外交總長ヨリ「カラハ」宛ノ四月一日付照会要旨ハ東方

通信等ニ拠リテ御承知ノ通リナルカ坂西情報ニ拠レハ「カ」

ハ外交部員ニ対シ支那側照会ハ莫斯科ニ打電セリ支那カ協

約案ヲ認ムル点ニ就テハ稍々誠意ヲ認ムルモ三點ニ関スル

交換公文ノ要求ハ之ヲ以テ協定批准ノ条件ト為サムトスル

モノニシテ容認シ難シト述ヘタル由

又「ザルツマン」ノ報告ニ拠レハ勞農代表側ニ於テハ數日

経過後ニアラサレハ何トモ確言出来サルモ蒙古ニ関スル点

ハ露國トシテ讓歩シ兼ヌル處ニシテ支那側照会ヲ其儘承認

スルコト困難ナル口吻ヲ洩ラシ居タリトノコトナリ

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六六八 六六九 六七〇

支交渉ノ解決ヲ計リ以テ勞農政府ト良好ナル関係ヲ保持シ依テ以テ一ハ仇敵タル張作霖ヲ北方ヨリ牽制シ之力圧迫ニ利用セントスルノ意図ニ胚胎スルモノナリト観測スルモノアリ

要スルニ諸説紛々タルモ吳ハ今後俄カニ其ノ從来ノ態度ヲ翻スカ如キコトナカル可シト認メラル而シテ一方齊變元ハ比較的冷静ノ態度ヲ持シ只管政府及民衆ノ歎心ヲ買ハントシ盧亦齊ノ意ヲ迎ヘントシツツアルモノノ如キモ其ノ真意ニ至テハ未タ俄カニ推断ヲ許ササルモノアルノミナラス、如上渾沌タル情勢ニ乘シ段祺瑞一派ノ策士中飛躍ヲ試ミツツアルヤノ報道亦盛ニシテ觀シ来レハ露支交渉ヲ當面ノ問題トシテ當地方政局ニ暗雲低迷シツツアルハ覆フ可カラサル事実ニシテ差当リ時局ノ收拾安定ハ一二懸ツテ曹總統ノ双肩ニ在リト云フヲ得可シ然ルニ同總統ノ健康ハ決シテ樂觀ヲ許ササル狀態ニ在ルモノノ如ク(此点極秘ニ願ヒタシ委細郵報セリ)從テ露支交渉ヲ境トシテ醸釀セラレタル政局ノ発展如何ハ頗ル注目ヲ要ス可ク即チ露支交渉ニシテ如上永ク現状ノ儘ニ放任セラルニ於テハ勢ヒ現内閣ノ改造ニ政局動搖ノ端ヲ發シ少ク共曹總統ノ健康狀態ニ依リ幾分

六六九 四月八日 在奉天船津總領事ヨリ

松井外務大臣宛(電報)

中ソ協定ハ吳佩孚ノ圧迫ニヨリ王正廷ノ調印

ヲ認ムル形勢ナル件

(四月九日接受)

第一〇二号

四月九日張作霖ノ小官ニ語リタル処ニ依レハ露支協商ニ關シテハ其後吳佩孚ノ圧迫ニ由リ遂ニ王正廷ノ調印ヲ認ムルニ立至ルヘキ形勢ナリトノコトナリ

北京ヘ転電セリ

六七〇 四月十五日 中山閔東府警務局長ヨリ

出淵亞細亞局長他宛

中ソ交渉ニ対スル東三省ノ意向ニ關スル件

閨機高収第七四八九号ノ一 (四月二十一日接受)

大正十三年四月十五日

中山閔東府警務局長

出淵亞細亞局長殿

別府拓殖事務局長殿

川田閔東軍參謀長殿

峰 閔東憲兵隊長殿

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六七一

中露会議ニ対スル東三省ノ意向

中露会議決裂後北京政府ニ於テハ顧外交總長自ラ「カラハソ」トノ交渉ノ任ニ当リツツアル一方張總司令ハ該會議進行ノ如何ハ東三省ニ及ホス影響重大ナリトノ見地ヨリ過般來奉天ニ於テ孫吳両督軍楊子両總參議王省長其他ノ文武首脳者ヲ招致シ是レカ善後策ヲ講シソアリンカ東三省側ノ意向トシテハ具体的判明セサルモ大要左ノ如ク意見一致セルモノノ如シ

一、東支鐵道ハ須ラク現状ヲ維持シ時機ノ到来ヲ待ツテ回収スル事

二、中國領土内ニ於ケル共產党各機關ハ之ヲ一律ニ禁止シ厳重取調ル事

三、凡ソ露国人ニシテ中國領土内ハ勿論國境ニ於テ擾乱セントスルモノハ赤白何レヲ問ハス一律ニ查禁シ國境外ニ駆逐スル事

四、東三省内ニ於テハ何国人タルヲ問ハス秘密集会又ハ結社ヲ組織スル事ヲ嚴禁ス

五、松黒両航行權問題ニ關シテハ兩國ノ主權ヲ尊重シ兩國船舶カ中國領土内ニ入リタル際ハ中國ノ法令ヲ以テ弁理

タルカ右労農政府代表者ハ今回

(一)直接鐵道經營上必要ナル土地ヲ除キ其他ノ土地ハ全部支那政府ニ返付スルコト

(二)司法權ヲ放棄シ支那ノ課稅權及警察權ヲ認ムルコト

(三)松花江航行禁止ヲ認ムルコト(先般露國ニ對シ松花江ノ航行ヲ禁止シタル処露國側ハ報復手段トシテ支那汽船ノ黒龍江航行ヲ禁止シタル為今尚実行シ得サル由)

(四)嘗テ獲得シタル森林伐採權及鉱山採掘權等ヲ放棄セシム

ル等我ニトリ極メテ有利ナル条件ヲ提出シ来リンニ付自分

トシテハ此際直隸派ニ先シソ労農政府ト何等カノ協定ヲ遂

クル方得策ナルヤニ思考スルモ從来累次日本政府ノ意向ヲ

問合セタル行懸モアリ此際自分カ労農ト協商ヲ遂クル事カ

日本ニ於テ別(脱)差支ナキヤ否ヤニ關シ更ニ日本政府ノ意向至急問合セ方船津總領事ニ依頼アリ度シ云々

右ニ対シ本庄ハ労農政府ヨリ提案シタル条件ヲ今少シ具体的ニ承知セサル限り日本政府トシテモ何等ノ意見ヲ述フルコト能ハサル可シト答ヘタルニ対シ張ハ前述各項ヲ繰返スコトヲ殊更ニ避クル模様アリ且此際余リ詳細ナル条件ヲ明示スル事困難ナルモ露國側提案條件ノ内容ハ何レモ日本ノ

六八〇

スル外中國ノ國旗ヲ掲クル事

中國船舶カ露國領土内ニ入リタル際ハ右ニ準拠スル事

六、露國カラハん代表否認後ニ於ケル各種ノ説法及防禦其他ニ關シ東三省ニ關係アルモノニ対シテハ北京政府ト同一步調ヲ取ル事

六七一 五月二十日

在奉天船津總領事ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

奉ソ交渉ニ關スル日本側ノ意向ニツキ張作霖

ヨリ問合セアリタル件

(無号)

五月十九日夜張作霖ハ本庄顧問ニ大要左ノ如ク語リタル由ナリ

吳佩孚ハ最近頻ニ中央ニ向テ露支交渉ノ促進ヲ強要シ一面吳ノ親戚吳佩洸(張ハ吳ノ弟ナリト言ヒ又其名ヲウペーカント称スルノミニテ如何ナル文字ナルヤ不明)ヲ浦鹽駐在總領事ニ任命シタルヲ以テ今後露國側ト相當連絡ヲ保チ往年嘗テ高士賓ヲ使嗾シテ東支沿線ヲ攪乱セントシタル措置ヲ再演スルヤモ計リ難キ虞アリ依テ自分(張)ハ近來哈爾賓ニ駐在シ居ル有力ナル労農代表者ト常ニ非公式ニ往来シ居リ

利害ト何等衝突スル様ノ事ナシト信スルニ付右可然伝達ヲ請フト述ヘタル由惟フニ張ハ最近北京ニ於テ日露間ニ交渉再開ノ報アルト同時ニ吳佩孚カ頻ニ労農政府ト接近セントスル形勢アルヲ聞知シ遽ニ右ノ如キ態度ニ出ツルニ至リシモノナラント察セラル尚張ハ本件ニ對スル帝國政府ノ意向ヲ至急承知シタキ旨繰返シ居リタル由ニ付何分ノ儀御回電ヲ請フ

在支公使、哈爾賓へ転電セリ

六七二 五月二十四日

在奉天船津總領事宛(電報)

張作霖ヨリ奉ソ協定ニ關シ我方ノ意向問合セ

ニツキ回答方訓令ノ件

第九八号

張作霖ヨリ我方意向問合ニ關スル貴電ニ關シ在哈爾賓労農代表者カ果シテ張作霖ニ斯ノ如キ条件ヲ提出シタルモノナリヤ又若シスカル申出ヲ為シタリトスルモ其ノ真意如何ハ當方ニ於テ之ヲ判断スルヲ得サルノミナラス本件ハ直接張ヨリ貴官ニ對シ申出テタル次第ニアラスシテ本庄ヲ介シテノコトニモアリ立入りタル我方意向ヲ回示スル必要ナカル

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六七三 六七四 六七五

六八二

ヘント思考スルニヨリ貴官ハ右ノ次第ヲ含ミ直接貴官ヨリ
又ハ本庄ヲ通シテ張作霖ニ対シ同氏カ滿蒙ニ於ケル日本ノ

地位ニ顧ミ毎度乍ラ此種事件ニ付我方ノ意向ヲ求メ来ルハ

我方ノ大イニ諒トスル所ナルカ本件ニ付勞農側カ張氏ニ如
何ナル交換条件ヲ要求スルヤ等「ロシア」側ノ真意ヲ充分

ニ承知セサル限り當方ハ贊否ニ付何等ノ意見ヲ開示シ得サ
ル次第ナルカ露國側ニ於テハ或ハ奉天派ト直隸派トノ乖離
ヲ利用シ双方ヲ牽制セント企テ居ルモノニ非スヤトモ推察
シ得ヘキニ付此等ノ点ニ付テハ相當注意ヲ要スヘシトノ趣
旨ニテ適宜回答シ置カレタシ

六七三 五月三十一日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

顧維鈞・カラハン問ニ中ソ協定調印ヲアシタ
ル件

第四三九号 至急
「ザルツマン」ノ外交部ヨリ得タル報道ニ依レハ五月三十

一日午前十時外交部ニ於テ顧維鈞ト「カラハン」トノ間ニ
露支協約ノ調印ヲ了セリトノコトナルカ三十一日午後本使
「カラハン」ニ会見ノ際確カメ追報スヘキモ不取敢

貴電第九八号ニ閲シ
張作霖ハ五月三十一日夜深更本庄阪東両顧問ヲ招キ北京ニ
於ケル露支交渉ハ其後吳佩孚ノ督促ニ依リテ益々進捗シ終
ニ五月三十一日調印ヲ了シタル旨北京ヨリ來電ニ接シタル
カ自分（張）ハ是迄日本政府ノ意向ヲ問ヒ直隸派ノ先手ヲ
打たムト思ヒ居リシモ日本政府ノ回答ハ常ニ要領ヲ捕捉シ
難ク從テ如何セムカト躊躇シ居ル際終ニ直派ニ先セラレ実
ニ遺憾千万ナリ此上ハ日本政府ヨリ更ニ明確ナル方針乃至
意向ヲ明示サルレハ兎ニ角然ラサレハ自分ノ信スル処ニ依
リテ臨機応変ノ措置ヲ執ル外ナシトテ頗ル不満ノ意ヲ洩ラ
シ居リタル趣ナリ

北京、哈爾賓へ暗送セリ

六七五 六月一日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

中ソ協定ハ顧維鈞ノ名ニテ調印ノ旨並ビニ同
協定ノ中國側修正点ニツキ報告ノ件

第四四三号

「ザルツマン」ノ追報

往電第四三九号ニ閲シ

五月三十日國務會議ニ於テ新協定ノ調印ニ付協議セルカ何

人カ支那側ヲ代表シテ調印スヘキヤニ関シ各員ノ意見一致

セス顧維鈞ハ王正廷ヲシテ調印ノ任ニ当ラシメント提議セ

シモ容レラレス結局當該協定案ハ支那側調印者ノ名ヲ「ブ

ランク」ニシテ大總統ニ提出セル處大總統ハ自分ニテ顧維

鈞ノ名ヲ「ブランク」ノ箇所ニ書入レタル為該協定ハ三十一

日午前十一時十分外交部ニ於テ顧維鈞「カラハン」間ニ調印
セラレタリ支那側ノ申出ニ依リ修正セラレタルハ三点ニシ
テ（蒙古領土内ニ於ケル軍隊ノ撤廃ニ付テハ“condition”
ノ文字ヲ“question”トスルコト）諸外國ノ不干涉ノ項ニ
付テハ「カラハン」ハ支那側ノ提議ニ同意シ（露國境界ノ

財產ニ付テハ精神ヲ變更スルカ如キ条文ノ變更ナシトノ事
ナルカ右修正ハ三個ノ公文交換ニ依リテ行ハレタリト云フ
尚支那側ハ公文ヲ以テ「カラハン」ニ対シ「外交總長顧維

六七四 六月一日 在奉天船津總領事ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

中ソ交渉ニ對スル日本側ノ方針乃至意向明示

方ニツキ張作霖ヨリ要請ノ件

第一七五号

六八三

スル事トセリ又今回極メテ秘密ニ調印ヲ為セルハ主トシテ
外国ノ干渉ヲ避ケンカ為ノ用意ニ出テタルモノニシテ交渉
ハ常ニ仲介者ニ依リ行ハレ顧維鈞トハ今日調印ニ際シ始メ
テ会見セルニ過キス最近世界ノ視聽カ日本トノ交渉ニノミ
集中シ居レルニ当リ極メテ迅速ニ行ヘルハ本交渉ノ成功ヲ
齎セル所以ナリトテ本使ヨリ日露交渉ノ御陰ナラント述ヘ
タルニ其通ナリト語リ居タリ

(付記)

露支交渉ノ経過

(外務省欧米局)

支那ト勞農露国トノ交渉ハ數年来折衝ヲ重ネテイテ局面
シバンバ紛糾シ容易ニソノ解決ヲ見サリシモ最近ニ至ツテ
漸ク協定成立スルニ至ツタノテアルカ茲ニハソノ経過ノ概
略ヲ記述スル。

労農政府ノ対支宣言

露国ハ一九一九年七月支那国民及支那南北政府ニ對スル
宣言ヲ発シテ公式關係ヲ結フタメ交渉ヲ開カンコトヲ提議
シタ。ソノ翌年九月ニハ更ニ支那共和国外交總長ヘ宛テ露
支協定ノ主要点ヲ記載シタ提議ヲ送ツタ。コノニツノ提議
ハ共ニ外務人民委員代理カラハン氏カ署名シタモノテ、爾

トシタカ、交渉カマタ何等ノ進展ヲ見ナイ内ニヨツフエ氏
ハ翌年一月日本ヘ渡来スルタメ北京ヲ去ツタ。其後日露間
ニ予備交渉カ開始セラレルト支那政府テモ王正廷氏ヲソノ
督弁ニ任命シテ交渉ノ準備ヲシタ。
一九二三年八月ヨツフエ氏カ病氣ノタメニ日本カラ帰露
スルコトトナルヤ勞農政府ハカラハン氏ヲ全權代表トシテ
北京ヘ向ハシメタ。氏ハ前記勞農政府ノ対支宣言ノ署名者
テアルノテソノ來東ハ一般ニ注目サレタ。

カラハン氏ハ九月北京ニ到着シタカ先ツ露支正式交渉ノ
開始前ニ、正式外交關係ノ回復即チ勞農政府ヲ正式ニ承認
スルコトヲ求メ、之ニ対シテ支那側ハ蒙古問題、東支鐵道
問題ナトノ先決ヲ主張シ、為ニ一時交渉停頓ノ情勢テアツ
タカ、本年二月英伊等ノ諸國カ勞農政府ヲ正式ニ承認シタ
コトハ支那ノ輿論ニ多大ノ刺戟ヲ与ヘタルモノノ如ク、茲
ニ露支交渉ニ一進展ヲ見ルコトトナリ、三月十四日カ氏ト
王氏トノ間ニ纏ツタ協定文書ニ両氏ハ署名ヲ為スニ至ツ
タ。

露支協定ノ大綱

カラハン氏ト王正廷氏トノ間ニ成立シタ露支協定ノ大綱

後露支交渉ノ基礎トナツティル。

勞農政府ノ宣言中ニハ旧條約ノ廢棄、團匪賠償金ノ拋棄、治外法權ノ撤廃其ノ他支那ニ有利ナ条件ヲ掲ケテアルカ、當時支那政府ハ露西亞ノ政情ノ不安定ナルト列國ノ對露態度カ強硬テアツタ等ノ事情ニ顧ミテ容易ニ具体的ノ措置ヲ執ラナカツタ。

ユーリン氏ノ交渉

然ルニ露国側ハ前記一九一九年ノ宣言ニ次テ一九二〇年ニ極東共和国ノ代表者トシテユーリン氏ヲ北京へ派遣シ、支那モマタ使節ヲモスクワヘ送ツタノテ、ココニ露支交渉ハ具体的ニナツテ來タ。

爾後ユーリン氏ト北京政府トノ間ニ折衝ヲ重ネタカ交渉ハ久シク行惱ミ一九二一年ノ秋ユーリン氏ハ遂ニ北京ヲ退去シテシマツタ。次テ勞農政府ハ同年十二月特使バイケス氏ヲ更ニ北京ニ派遣シタカコレマタ依然トシテ問題ニ新生面ヲ啓クニ至ラナイテ停頓シテ居タ。
ヨツフエ氏トカラハン氏

茲ニ於テ勞農政府ハ一九二二年八月ヨツフエ氏ヲ新ニ全權代表トシテ北京へ派遣シテ支那政府ト交渉セシムルコト

トシテ報セラレタ中ノ主要ノ条項ヲ摘記スレハ左ノ通リテ
アル

- (一) 協定調印後直チニ正式外交關係ヲ回復シ一箇月以内ニ正式會議ヲ開キ六箇月以内ニ次ノ諸項ノ趣旨ニ従ヒ細目ヲ協定スル。
- (二) 露支間ノ旧條約ソノ他ノ協定一切ヲ廢棄シテ新條約協定ヲ締結スル。
- (三) 外蒙古ニ於ケル支那ノ主權ヲ尊重シ外蒙古ノ露軍ハ正式會議テ撤兵条件ニ関スル協定成立スレハ撤退スル。
- (四) 露国ハ支那カ自國ノ資金ヲ以テ東支鐵道ヲ回収スルコトヲ承認シ其ノ条件等ハ正式會議テ決定スル。
- (五) 露国ハ租界等ニ關スル權利特權及團匪事件賠償金ヲ拠棄シ治外法權ノ取消ヲ承認スル。

支那政府ノ協定案不承認ト交渉ノ停頓
然ルニ前掲ノ協定ハ前記ノ如クカラハン王正廷両氏ノ間ニ署名ヲ了シタカ支那政府部内ニ異論カ出テ閣議ハソノ承認ヲ与ヘナカツタノテアル。茲ニ於テカラハン氏ハ支那政府ニ對シ嚴重ニ協定ノ承認ヲ迫リ、期日ヲ定メソノ回答

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六七八

六八六

ソノ結果ニ対シテハ支那政府カ全責任ヲ負フヘキモノテア
ルト通告シタカ支那政府ハ右期間内ニ正式調印ヲシナカツ
タタメ、カ氏ハ更ニ外交総長ニアテ、露支交渉ハ終結シタ
ト認ムル、今後ハ無条件テ正式関係ヲ樹立シタ後テナケレ
ハ交渉ヲ再開シナイト通告シタ。コレテ露支交渉ハ一旦決
裂ノ情況ニ陥ツタ。

露支協定ノ成立

ソノ中支那側テハ露支交渉事務ヲ王正廷氏カラ外交部ヘ
引継キ、顧外交総長ハカ氏ニ対シ交渉繼續ヲ提議シタカ、
カラハン氏ハ之ヲ拒絶シテ支那政府ニ交渉再開ノ誠意アラ
ハ先ツ両国間ノ正式関係ヲ即時ニ回復スルヲ要スル旨ヲ回答シ、更ニ支那側ヨリ前記露支協定大綱中或点ニ付適當ノ
変更ヲ加ヘレハ之ヲ基礎トシ得ル旨ヲ申入レタニ対シテモ
露国側ハ強硬ナ態度ヲ示シ為ニ四月以来引続キ交渉ハ停頓
ノ姿ニアツタカ其後露支間ニ秘密裡ニ交渉ノ結果曩ニ王正
廷氏トカラハン氏トノ間ニ出来上ツタ協定ニ多少ノ修正ヲ
加ヘタ上五月三十一日ニ至リ顧外交総長トカラハン氏トノ
間ニ協定成立シタ。斯ノ如クニシテ多年糺余曲折ヲ経タル
露支交渉モ漸ク一段落ヲ告ケ支那政府ハ労農露国ヲ承認シ

六七八 六月三日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

中ソ協定成立及ビ東支鐵道ニ関スル我方ノ権利、利益ノ留保ニツキ中ソ双方ニ通告方訓電

ノ件

六七八 六月二日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

露支協約五月三十一日成立セル趣ナル處今回ノ協約中三月
二十二日付貴信公第一一四号御報告ノモノト異ナレル点ア
ラハ電報アリタク又協約全文郵報アリタシ尚露支協約成立
ノ場合ニツキ東支鐵道ニ関スル我方権利利益ノ留保方ニ就
キテハ往電第一二九号ヲ以テ申シ置キタルヲ以テ御措置
濟ノコトトハ存スルモ万一然ラサル場合ニハ前記往電第一
二九号ノ趣旨ニヨリ我方ノ権利及利益ヲ留保スル旨支那政
府及「カラハン」ニ対シ通告セラレタシ

六七八 六月三日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

中ソ協定成立ニ伴イ東支鐵道ニ対スル我方ノ
利益確保ニ際シ考慮ヲ要スル点ニツキ意見上
申ノ件

第四五三号

（六月四日接受）

露支問題成立ノ結果南滿ニ及ホス影響及右ノ場合ニ処スヘ
キ我方針如何ニ付テハ引続キ露支間ニ組織セラルヘキ細目
會議ニ於ケル討議ノ進捗ニ伴ヒ慎重考究ヲ要スル儀ト思考
スル処差当リ我方トシテ考慮ヲ要スルハ東支鐵道ニ対スル
我利益ノ確保ニシテ右ニ付テハ曩ニ貴電第一二九号ヲ以テ
御來示ニ接シタルカ実ハ鉄道ニ対スル我債權及南滿鐵道ト
ノ接続關係ノ各項丈ナラハ此際直ニ露支兩國ニ申入レスト
モ我現実ノ利益關係ヲ危殆ニ陥ラシムルカ如キコトアルヘ
シトハ思料セラレス却テ此際右様ノ措置ニ出スルハ日露交
渉ノ現状ニ頗ル機微ナルモノアル折柄寧ロ露支兩國ノ感情
ニ面白カラサル影響ヲ及ホスノ惧無キニシモ非ラスト思料
スルモ今般貴電第三六七号ヲ以テ重テ御訓示ノ次第モアリ
タルニ付此機會ニ於テ露支兩國ニ申入ノ内容ハ債權及鉄道
接続關係ノミニテ然ルヘキヤ例ヘハ東支南線讓リ受ケニ関
タル

六七八 六月三日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

スル密約ノ如キ如何処置シ然ルヘキヤ或ハ右等ヲモ願念シ
貴電第一二九号訓電御来示ノ通此際ノ申入ハ東支鐵道ニ関
連スル我方既得ノ権利及利益ハ今次ノ露支協定及右ニ基ク
諸協定ニ依リ何等不利ナル影響ヲ受クルモノニアラストノ
概括的保留ヲ以テシ置クコトモ得策ナルヘキヤニ思考セラ
ル就テハ右ニ関シ帝國政府ノ御意見折返シ御電報ヲ請フ尚
序テ乍ラ一部ニ於テハ東支鐵道根本ノ地位ニ変動ヲ來シタ
ル結果トシテ支那政府ヨリ南滿鐵道守備隊ノ撤退ヲ提議シ
来ルコトアルヘシトノ懸念ナキヲ保セサルモ仮令同鐵道ノ
管理者ニ変革アルモ鐵道守備隊ノ駐留ヲ必要トセル本来ノ
事由即チ地方治安ノ状態ニハ变更ヲ見タル次第ニアラサル
ノミナラス支那国内ニ於ケル鐵道守備隊等ノ駐屯カ條約又
ハ協定ニ準拠スルト否トニ論ナク外国人ノ生命財産ノ保護
ヲ目的トスルモノタルハ既ニ華府會議ニ於テ列國ノ認メタ
ル處ナルヲ以テ仮令支那側ヨリ前記ノ如キ提議ニ接スルコ
トアルモ我方トシテハ之ヲ峻拒スルニ充分ノ理由アリト思
考セラル御参考迄ニ申添ユ

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六七八 六七九

六八七

一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六八〇

露亞銀行代表者ハ中國側ニ対シ中ソ協定ガ東

支鐵道建設條約・統約並ビニ華府決議ニ違反

スル旨抗議ノ件

第四五四号

(六月四日接受)

露亞銀行代表者ハ六月二日付外交總長宛書翰ヲ以テ東支鐵道ニ対スル露支協定カ一八九六年ノ同鐵道建設條約、一九二〇年ノ統約並華盛頓決議ニ違反ナリトシテ抗議ヲ提出シ同時ニ華盛頓決議參加國代表者ニ対シ右ノ趣前記書翰写ト共ニ通牒シ越セリ写郵報ス

六八〇 六月四日(着)

在中国芳沢公使ヨリ

松井外務大臣宛(電報)

中ソ協定原案ニ修正ヲ加工タル經緯ニツキ報

告ノ件

第四五二号

五月三十一日北京政府ハ全國ニ露支協約調印ニ關シ通電ヲ發シタルカ右ニ拵レハ今回調印ノ協定ハ去ル三月十四日仮調印ヲ見タル協定原案ニ數個ノ修正ヲ加ヘタルモノニシテ其ノ經緯左ノ通ナリ

(1)支那側ヨリ修正ヲ要求シタルモノ

(2)三月十四日ノ協定原案第四条第一項ハ一方的ナリシヲ

散在シ居リ短期間ニ其ノ所在ヲ明スルコト困難ナルヲ以テ外交部ハ右ノ点ヲ説明シ本件ハ追テ審議スルコトヲ提議シ結局現在「Soviet」政府ニ属スル露國正教

會ノ建物及ヒ土地ノ引渡シ又ハ其他ノ通法ノ処分方法ニ付キ将来ノ會議ニ於テ支那ノ法律ニ從ヒ協同審議スルコトトン北京及ヒ西山所在ノ露國正教会ノ建物及ヒ土地ニ關シテハ露國政府ニ於テ支那人又ハ支那團体ハ指定スル土地ニ於テハ支那政府ハ所有權ニ關スル支那現行法規ニ基キ即時引渡シノ措置ヲトルコトセリ

(2)露國側ヨリ修正ヲ要求セルモノ

(1)露支協定原案第一〇条ニヨリ「Soviet」政府カ放棄セ

ル露國ノ從前有セル「Concession」並ニ其他ノ特權ニ

関シ「Soviet」側(2)支那カ更ニ之ヲ第三者ニ譲渡スルコトナカラソコトナリ支那ハ從来利權回収ヲ希望シ居リ「Soviet」ノ要求ハ支那側提議ノ精神ト一致スルヲ以テ多少字句ノ修正ヲ加ヘタル後之ヲ應諾セリ

(2)團匪事件ノ賠償金ニ關シ「Soviet」側ハ最初原案ヲ変更スルカ如キ条件ヲ提議シタルモ支那政府カ教育基金ヲ作ルコトヲ重要視シ居ルコトヲ説明シタル為メ賠償金ヲ担保トセル從前債務ヲ償還シタル殘余ノ賠償金ハ

六八八

以テ支那側ニ於テハ此点ヲ双方的ト為サンコトヲ主張シタル結果「カラハン」ハ本項ヲ協定中ヨリ削除スルコトニ同意セリ

(2)支那ノ主權ヲ侵害スル「ソヴィエット」ト外蒙間ノ協定ニ關シテハ支那ノ主張ヲ容レ露支兩國政府ハ支那政府ハ露國カ帝政時代ヨリ第三者ト締結シタル條約ニシテ支那ノ主權及利益ヲ侵害スルモノハ現在及将来トモ有効ト認メサル旨宣言スルコトトセリ

(3)支那ハ外蒙ノ即時撤兵ヲ固執シ撤兵ノ方法ニ付テハ追テ審議スルコトニ異議ナキモ撤兵條件トシテ支那ノ主權及領土權ヲ侵害スル如キコトナカラソコトヲ欲シ原案中 conditions ナル字句ノ削除ヲ主張シタルニ「カラン」ハ終ニ支那側ノ主張ヲ容レタリ

(4)露支協定原案ニ依レハ在支露國正教会ノ財產ハ凡テ完全ニ露國政府ニ引渡スヘキコトヲ規定シアル處支那ノ法律ニ依レハ基督教伝道國以外ハ外國政府人民何レモ支那内地ニ於テ土地ヲ購入スルコトハ得サルコトトナリ居リ本規定ヲ存置スルトキハ将来ニ亘リ惡例ヲ貽スコトトナルノミナラス露國正教会ノ財產ハ支那内地ニ

全部教育基金ニ充ツルコトニ同意セリ

(奉天經由六月四日前八、五〇分)

六八一 六月五日 在奉天船津總領事ヨリ

松井外務大臣宛(電報)

張作霖ハ中ソ協定ヲ全然無視スル態度ヲ持ス

ル旨報告ノ件

第一八二号

三日夜張作霖ハ本官ニ對シ露支交涉成立ニ關シテハ未タ北京ヨリ其内容ニ付何等ノ公電ニ接セサルモ當方ノ承認ヲ経サル限り如何ナル協約成立シタリトモ當方ノ關知スル處ニ非ラス東三省トシテハ露國代表ヨリ別ニ正式ノ申出ナキ限リ右協約ハ無キモノニ等シク從テ東支鐵道モ現状ヲ維持スヘント語リ右協約ヲ全然無視スルノ態度ヲ持シ居リタリ右何等御参考迄 北京、上海、哈爾賓、長春ニ転電セリ

六八二 六月五日 松井外務大臣ヨリ

在中国芳沢公使宛(電報)

中ソ協定成立ニ當リ我方既得ノ權利及ビ利益ノ留保ニツキ通告方訓令ノ件

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定關係

六八一 六八二

六八九

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六八三 六八四

六九〇

貴電第四五三号ニ閲シ

当方訓令トシテ申進シ置キタル通露支双方ニ対シ東支鉄道ニ閲連スル我方既得ノ権利及利益ハ今次ノ露支協定及之ニ

基ク諸協定ニ依リ何等不利ナル影響ヲ受クヘキモノニアラス帝国政府ハ此際右ニ付明確ナル留保ヲ為ス旨ヲ速ニ通告セラレタシ

六八三 六月五日(着) 在ハルビン山内總領事ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

中ソ協定成立セルモ在哈ソ連公館ハ未ダ赤旗ヲ掲揚セザル件

第一〇四号

露支協定ニ対スル張作霖ヨリノ訓電ハ往電第一〇三号所報ノ通ナルカ当地勞農公館ニ於テハ曩ニ「カラハン」來哈ノ際赤旗ヲ掲ケタルコトアリ今回ノ露支協定ノ報一度伝ハルヤ「ラキーチン」ハ直ニ北京ニ照電ヲ發シ其結果ニ依リ五月五日頃ニハ赤旗ヲ掲クルニ至ルヘキ旨道尹公署李外交課長ニ語リタル由ナルモ今日モ未タ赤旗ヲ掲ケ居ラサルハ或ハ前記訓電ノ結果支那官憲ニ於テ何等カノ措置ヲ執リタルモノト思考セラル從テ當地「ラキーチン」カ正式ニ外交使節

得タリトシテモ少ク共今ノ内ハ同鉄道ヲ動カスノ考ヲ有セサルヘシ

英、仏、独、波、漢堡へ暗送セリ

六八五 六月八日 松井外務大臣ヨリ
在奉天船津總領事宛(電報)

中ソ協定成立ニ閲連シ張作霖ヲシテ北京側ニ

対シ確執ヲ避ケ適宜連絡ヲ取ラシメ置クコト

然ルベキ旨訓電ノ件

第一〇六号

貴電第一七五号ニ閲シ

東支鉄道カ将来露国及支那ノ孰レノ実勢力ノ下ニアルヲ我方ノ利益トスルヤニツキテハ慎重考慮ヲ要スル点アルモ支那カ東支鉄道ヲ回収スルノ結果ハ其利權回収率ヲ高メ南滿鉄道ニ波及スヘキハ明瞭ナルヲ以テ露国側ニモ東支鉄道ニ付相当ノ地位ヲ有セシメ置クコト大体ニ於テ我ニ有利ナルヘシト思考セラルニヨリ右ノ趣旨ヲモ考慮ニ加ヘタル上今回露支協定成立ニ際シ芳沢公使ニ対シ東支鉄道ニ閲連スル我方既得ノ権利及利益ハ今次ノ露支協定及之ニ基ク諸協定ニヨリ何等不利ナル影響ヲ受クヘキニ非ル旨ヲ帝国政府

トシテ認メラルハ何時ナリヤ目下ノ処予測スルヲ得ス在支公使、奉天ヘ転電セリ

(鉄長春中繼六月五日後、五、四五)

六八四 六月六日 在リガ上田書記官ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

ソ連側ガ急遽中ソ協定ヲ締結セシ事由ニツキ

新聞主筆ガンフマン談報告ノ件

(六月七日接受)

新聞主筆「ガンフマン」本官ニ語リテ曰ク労農政府カ蒙古撤兵迄モ約シ大讓歩ニ出テ而モ大急キニテ支那ト條約ヲ締結セシハ東支鉄道ノ支配権ヲ得ンカ為ニシテ其目的ハ第一同鐵道ヲ競売シテ財政ヲ支ヘ第二鐵道ニ利害關係ヲ有スル諸國ヲ互ニ争ハシムルニアリ現在新公債募集ニ必要ナル担保品ハ無政府状態タル労農露国内ニアル為何人モ之ヲ担保トシテ公債ニ応スルヲ欲セサルモ独リ東支鉄道ハ露領ノ外ニアリテ唯一ノ担保品ナルヲ以テ同政府ハ先ソ第一ニ同鐵道ノ担保乃至売却ヲ昨行詰リタル倫敦會議ニ持出シ同時ニ仏國ヘモ賣却ヲ提議シ場合ニ依リテハ日本ヘモ提議スルニ至ルヘシト信ススル關係上同政府ハ右鐵道ノ支配権ヲ

ノ訓令トシテ露支双方ニ申入ルヘキ旨訓令ニ及ヒタル次第ナリ尚一方在京町野代議士ニ対シテモ張作霖ヨリ貴電第一七五号ト同様ノ申出アリタル旨ヲ以テ六月七日同人來省本大臣ノ所見ヲ求メタルニ付本大臣ハ東支鉄道ニ閲シ露支協定成立セリト云フモ右ハ大綱ヲ定メタルノミニテ實際ノ解決ハ細目協定ノ決定等之ヲ今後ノ成行ニ徵セサルヘカラサル次第ナルニ依リ我方トシテハ此際直ニ何等確定的意見ヲ述フルヲ得サル次第ナルカ張作霖ニシテ若シ今後ノ事態推移ニ伴ヒ具体的ノ問題ヲ提示シテ我方ニ相談シ来ル場合ニハ我方トシテモ出来得ル限り「アドヴァイス」ヲ与フルヲ辞セサルヘシトノ趣旨ヲ述ヘタル上尚東支鉄道カ支那側ニ閲スル限り且下張作霖ノ勢力ノ下ニアルハ事実ナルニヨリ何等カ他ノ勢力カ侵入セサル以上事實上ノ変更ヲ見ルコトナカルヘク從テ其ノ經營方法及役員ノ顔振等ニ付テモ現在ノ儘トシテ変更セサルヲ可トスヘキカ本露支協定成立ニ閲連シ若シ張ニ於テ北京側ト充分ノ了解ヲ遂クルコトナク徒ラニ確執スルニ於テハ却テ露国側ニ漁夫ノ利ヲ制セラルヘキ懸念アルニ依リ張作霖ニ於テモ適宜中央トノ間ニ連絡ヲ取リ

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六八六 六八七

六九二

置クコト然ルヘント思考スル旨付言シ置ケリ

北京及哈爾賓ニ転電アリタシ

六八六 六月九日

在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

東支鐵道ニ対スル我方ノ権利・利益ニ関シ
ソ側ヨリ説明ヲ求メ來レル場合ノ応酬振りニ

ツキ請訓ノ件

第四七七号

貴電第三七五号ニ閲シ

六月七日付ヲ以テ露支間ニ締結セラレタル協約中東支鐵道

ニ関スル条項並右協約ニ基キ同鐵道ニ關シ今後両國間ニ行
ハル可キ協定事項ニ依リ帝國政府及臣民カ同鐵道ニ關連シ
テ保有スル権利並利益ハ何等ノ影響ヲ受クルモノニアラサ
ルヲ以テ明ニ留保スル旨外交總長及「カラハン」ニ申入レ
且「カラハン」ニハ右ノ次第本國政府ニ伝達アリ度キ旨付
言シ置キタルカ(全文写シ郵送ス)六日本使「カラハン」
ト會見ノ際本件ニ言及シタルニ「カ」ハ日本ニ於テ保有ス
ル権利及利益トハ如何ナルモノナルヤト尋ネタルニ付例ヘ
ハ同鐵道ニ対スル債券、満鉄ノ壳掛代金ノ如キ其一ナリト
輕ク答へ置キタルカ愈公文ヲ以テ正式ニ申入レタル上ハ露
支鐵道ニ對スル露亞銀行ノ権利ヲ勞農政府ニ

讓渡シタル趣ナルカ右ハ一八九六年露亞銀行カ支那政府ヨ
リ得タル利權及一九二〇年支那政府ノ承認シタル株主等ノ
資格ヲ無視スルモノナリ尚支那政府カ華府會議ノ際關係列
國ノ表明シタル希望及日、英、米、仏其後ノ警告ニ反シ東
支鐵道ノ株主及債權者ノ権利ヲ保障スル為何等ノ措置ヲ執
ラサリシカ如シ支那政府ニ於テ勞農露國承認ノ結果一九二

六八七 六月九日

在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

中ソ協定調印ニ伴イ露亞銀行ハ四國政府ニ覺

書ヲ送付シ援助方懇願ノ件

第二五〇号

(六月十日接受)

露支協定調印ノ報道伝ハルヤ露亞銀行ハ左記趣旨ノ日英米
仏四國政府宛覚書ヲ當館ニ送付シ帝國政府ノ援助ヲ懇願セ
リ

支那政府ハ東支鐵道ニ對スル露亞銀行ノ権利ヲ勞農政府ニ

讓渡シタル趣ナルカ右ハ一八九六年露亞銀行カ支那政府ヨ

リ得タル利權及一九二〇年支那政府ノ承認シタル株主等ノ

資格ヲ無視スルモノナリ尚支那政府カ華府會議ノ際關係列

國ノ表明シタル希望及日、英、米、仏其後ノ警告ニ反シ東

支鐵道ノ株主及債權者ノ権利ヲ保障スル為何等ノ措置ヲ執

ラサリシカ如シ支那政府ニ於テ勞農露國承認ノ結果一九二

○年十月ノ取極メハ廢棄セラレタルト主張ストセハ支那政

府ノ利益ノ為ニ株主側ノ承諾シタル權利制限ヲ解除スルコ

トトナルヲ以テ株主ハ其ノ権利ヲ完全ニ行使シ得ヘシ元來

露國政府ハ直接鐵道會社ノ經營ニ當リタル事ナク會社重役

ノ選任ハ株主總會ニ於テ之ヲ行ヘリ株主タル露亞銀行カ重

役選任ニ際シ露國政府ノ希望ヲ斟酌シタルノ事實ハ同銀行

ノ権利ヲ变更スルモノニ非ス故ニ若シ支那政府ニシテ露亞

銀行ノ代リニ勞農政府ヲ以テ東支鐵道株主タラシメタリト

セハ支那ニ於ケル私有財産ヲ勞農政府ノ為ニ沒收シタルモ

ノニシテ其ノ結果ハ鐵道會社ト關係ヲ有スル代務者ニ取り

頗ル重大ナリ東支鐵道ハ承認セラレタル露國政府ニ對シ会

社定款ニ定ムル義務ヲ履行スルコト勿論ナルモ會社ノ株主

及債權者ノ権利ヲ專横ニ処分スルコトヲ承認スルヲ得ス而

シテ支那司法制度ノ現状ニ於テハ権利ノ保護ヲ支那ノ裁判

所ニ期待スル能ハサルヲ以テ露亞銀行及東支鐵道ニ閲スル

露支協定ニ對シ支那政府ニ抗議ヲ提出セリ然レトモ右抗議

ハ關係國政府ノ支持ヲ受クルニ非サレハ有効ナラサルヘキ
ヲ以テ露亞銀行ハ關係國政府ニ於テ從來ノ通露亞銀行及東
支鐵道ノ株主及債權者ノ権利保護ノ為援助ヲ与ヘラレン事
支鐵道ノ株主及債權者ノ権利保護ノ為援助ヲ与ヘラレン事

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六八八 六八九

六九三

第四九六号

六八九 六月十一日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中ソ協定成立ニ當リ両國ニ對スル声援ノ望マ

シキ旨申進ノ件

(六月十二日接受)

東支鐵道ニ關シ何等カ我方ノ利益ノ為取極メ置クヘキコト
アリトスレハ同鐵道ニ關シ露文間ノ話合纏マラサル際ニ於

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六九〇 六九一

テスルコト得策ナルヘキ次第ハ往電第一六六号(二)及往電第

二三二号末段等ヲ以テ上申ニ及ヒタル通ナル處露支協定モ

最近愈成立スルニ至リタルヲ以テ我方トシテハ乗スヘキ好

機会ヲ逸シタルヤノ感ナキニアラサルト同時ニ将来支那中

央政府ノ勢力漸次同鐵道ニ及フモノト見サルヘカラス從テ

右ハ我国ノ立場ヨリ考ヘ元ヨリ好マシカラサル次第ナル処

張作霖ノ態度ニシテ奉天總領事報告ノ通トスレハ此際同人

ノ中央政府及「ソビエット」政府ニ対スル氣勢ヲ挫カシメ

サル様相当ノ声援ヲ与ヘ少クトモ現状変更ノ時期ヲ遅延セ

シムル様仕向クルコト必要ナルヘシト思考セラル尤モ張ニ

対スル声援等ノ方法巧妙ナラサルニ於テハ日本カ露支協定

ノ実施ヲ妨クルモノトシテ露支両國ノ怨ラ買ヒ差向キ当地

ニ於ケル日露交渉ニモ影響ヲ及ホス惧無キニ非サルヘキニ

付其辺ハ慎重ナル用意ヲ必要トスヘキハ勿論ナリ御同意ナ

ルニ於テハ奉天總領事ニ可然御訓令アランコトヲ希望ス

奉天、哈爾賓へ転電セリ

六九〇 六月十七日

在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中ソ協定成立ニ關シ奉天省議会、各団体等ノ

両國間ノ關係ニ係リ露支協定締結以前ニ在リテハ華府會議宣言ノ通代管ニ伴フ責任ヲ負フヘキモ露支國交既ニ成立セ

ル今日ニ於テハ頗ル事態ヲ異ニセリ、露支両國ノ處理セン
トスル処ハ只両國ニ關係ヲ有スル東支鐵道問題ノミニシテ
即チ両國ノ當然有スヘキ權利ナリ今次締結セラレタル該鐵道暫行弁法ノ如キモ又両國ノ權利ニ妨害アルモノニ非ス從
テ日本ノ保留声明ハ遺憾ナカラ承認シ難シトノ趣旨ヲ照復シ來レル処右ハ我方申入レニ對スル回答トシテハ甚タ筋違ヒナルニ付此際更ニ我方ノ声明ハ露支両國間ニ於ケル商議ノ進行ヲ阻害シ若クハ之ニ容喙セントスルノ趣旨ニ出テタルモノニ非サル事ヲ指摘シテ我方保留ヲ繰返ヘシ右ハ特ニ声明ヲ付シ迄モ無ク当然且自明ノ事理ナルモ将来無用ノ國際紛議ヲ防止スル為支那政府ノ注意ヲ喚起セル次第ニ外ナラス右ノ趣旨ヲ重ネテ申入レ置ク事ト致度シ御異存ノ有無折返シ電報アリタシ

奉天、哈爾賓へ転電シ長春へ暗送セリ

六九一 六月十八日 在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中ソ協定成立ニ對スル張作霖等ノ意向ニツキ

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六九二 六九三

通電要旨報告ノ件

六九四

第一九五号

露支協定成立ニ關シ省議会ヲ初メ当地各団体ハ各方面ニ通電ヲ發シタルカ其要旨ハ今回ノ国交回復ニハ根本上ヨリ決シテ反対スルモノニアラサルモ露國カ何等利害關係ヲ(脱)

提出セサル北京政府ト直接協定ヲ遂ケタルコトニ反対ス蓋シ東三省ハ現ニ独立自治ノ地域ニシテ民國十一年五月一日

以來北京政府ノ締結セル條約ハ東三省ニ於テ承認セサルコトハ曩ニ声明セル処ナリ我張總司令ト雖一致反対セル民意ニ悖ルカ如キコトナカルヘシ云々ト言フニ在リ漢字紙モ社

説ニ於テ略々同様ノ論評ヲ掲載シ就中東支鐵道及松花江航行權問題ヲ最重要視シ居レリ

六九一 六月十八日 在中国太田臨時代理公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中ソ協定ニ對スル日本ノ保留声明ニツキ外交

総長ヨリ遺憾ノ意表明ノ件

第五二一号 (六月十九日接受)

往電第四七七号ニ關シ

六月十六日付公文ヲ以テ外交總長ヨリ東支鐵道ハ元來露支

第一九六号
十八日吳督軍カ本官ニ語リタル所ニ依レハ今回孫烈臣ノ葬儀ニ参列シタル東三省ノ首腦者カ今尚当地ニ滯在シ居ルハ全ク露支協定成立ノ対策ヲ協議スルカ為ニシテ先般露國ノ代表者ハ露支協定ノ条文ヲ持參シ張作霖ノ承認ヲ求メ来リタルカ張ハ言下ニ之ヲ拒絶セリ當方トシテハ東支鐵道問題ヲ初メトシテ松花江航行、^{ループル}紙幣ノ後始末、鉱山問題等利害關係ノ切実ナルモノアリ更ニ細目ノ協定ヲ得サル可カラス本件ニ關シ張總司令ハ態度幾分軟弱ノ嫌アリ云々トテ興奮ノ模様アリ右會議ノ内容ニ付テハ之ヲ知ルヲ得サルモ昨十七日張作霖ハ本官ニ對シ露支問題ニ關シ吳督軍ハ意見一致セストテ余程不愉快ナル様見受ケラレタリ察スルニ該會議ニ於テ吳ハ相當強硬ノ主張ヲ為シタルモノト推測セラル右何等御参考迄
在支公使、哈爾賓へ転電セリ

六九三 六月十八日(着) 在米國植原大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

米國政府ハ中ソ両國間ノ大使交換ニ關連シ在

六九五

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六九四 六九五 六九六

中米国公使館ノ昇格方ヲ考慮中ノ趣ナル件

定ノ成立事情ヲ説明シ其ノ了解ヲ求メツツア

六九六

第五三六号

ル件

最近情報ニ依レハ過般支那カ露国ヲ承認シタル結果露国支那両国間ニ大使交換行ハルヘキ了解アリトノコトニテ右ニ

関連シ当地國務省トノ間ニ往復アリ其結果米國政府モ在支那米國公使館ノ大使館昇格方ニ付キ目下考慮中ナル趣ナリ右真相ニ付テハ尚探聞ノ上報告スヘキモ右不取敢

六九四 六月十九日(着)

在中国太田臨時代理公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中ソ協定及ビ付属文書ノ大總統批准・公表等

二閥スル件

第五一〇号

露支協定及付属文書ハ十六日大總統ノ批准ヲ得別ニ日ヲ定メ批准交換ヲ行フヘキ旨公布セラレ同時ニ協定及付属書全

部ヲ公表セリ

(奉天中継六月十八日後九、一〇)

六九五 六月十九日 在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北京政府ハ外交部員ヲ奉天側ニ派遣シ中ソ協

第四一一号

中ソ協定ニ対スル我國ノ留保声明ノ趣旨ニツ

キ中國側ニ申入方訓令ノ件

六九六 六月二十日 在中国太田臨時代理公使宛(電報)

支那側公文ニ対シテハ六月七日付ヲ以テ申入レタル東支鐵

露支協定及付属文書ハ十六日大總統ノ批准ヲ得別ニ日ヲ定メ批准交換ヲ行フヘキ旨公布セラレ同時ニ協定及付属書全

部ヲ公表セリ

(奉天中継六月十八日後九、一〇)

六九五 六月十九日 在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北京政府ハ外交部員ヲ奉天側ニ派遣シ中ソ協

第四一一号

中ソ協定ニ対スル我國ノ留保声明ノ趣旨ニツ

キ中國側ニ申入方訓令ノ件

六九六 六月二十日 在中国太田臨時代理公使宛(電報)

支那側公文ニ対シテハ六月七日付ヲ以テ申入レタル東支鐵

道ニ関連シ帝国政府及臣民ノ有スル権利及利益ノ留保ハ特ニ声明ヲ俟ツ迄モナク当然且自明ノ事柄ナルモ将来無用ノ國際紛議ヲ防止スル為支那政府ノ注意ヲ喚起セル次第ニ外ナラサル旨申入レラレタシ

六九七 六月二十一日(着) 在米國埴原大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中ソ協定成立ニ対スル米國新聞論評報告ノ件

第五四一号

往電第五三九号ニ閲シ

其後本問題ニ付一般ノ論評ヲ見サルモ只二十日ノ Public Ledger ハ今次支那側ノ遣口ニハ莫斯科外交ノ臭味アリ「ソヴィエット」政府ハ最初東支鐵道ノ獲得ニ失敗シタル處今ヤ支那ノ助勢ニ依リ成功セントス露支両國ハ華府會議ニ於テ解決ヲ試ミラレシ所謂極東問題ノ上ニ更ニ新問題ヲ提起シツツアリト論評シ尚別ニ「ソヴィエット」政府ハ本

トノ策戦ニ出テタルモノナルヘキモ日本及米國ハ北京ニ於ケル露國氣勢ノ擡頭並ニ支那政府ノ責任無視ヲ看過スル能

ハサルヘシトノ記事ヲ掲ケタルカ一方ニ於テ同日ノ Daily

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六九七 六九八

本官発在支公使宛電報第五七号

六九八 六月二十一日 在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

領事団會議ノ結果上海ニ於ケルロシア人ノ地位

二閑シ外交團ニ電訓ヲ仰グコトニ決シタル件

第一四九号

六九七

11 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六九九

本官発大臣宛電報第一四五号「闇」

領事団會議開催ノ結果交渉員ヨリ領事団へノ通知ノ内容力
曩ニ外交団ノ承認ヲ経タル上海ニ於ケル露國人ノ地位ニ關

スル交渉員ト領事団トノ取極メ（大正十年四月三十日付上
海發在支公使宛機密第三二号参照）「如何ナル影響ヲ及ホ

セヤ不明ニ付右ニ闇シ外交団ヘ電報ヲ仰ク事ニ決シ且交渉
員ニ対シテハ其面回答スルコトニナリ

外務大臣へ転電セリ

六九九 六月二十一日 在中国太田臨時代理公使ニハ

中ソ協定書送付ニ關ヘル件

付屬書 右協定書（英・文）

付記 右和訳文

公第二四五号

（大正十三年六月二十一日）

在支那

臨時代理公使 太田 炎吉（印）

露支協定書送付ノ件

Agreement on General Principles for
the Settlement of the Questions
between the Republic of China
and the Union of Soviet
Socialist Republics.

The Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics, desiring to re-establish normal relations with each other, have agreed to conclude an agreement on general principles for the settlement of the questions between the two countries, and have to that end named as their Plenipotentiaries, that is to say: His Excellency the President of the Republic of China:

Vi Kyuin Wellington Koo

The Government of the Union of Soviet Socialist Republics:

Lev Mikhailovitch Karakhan

Who, having communicated to each other their respective full powers, found to be in good and due form, have agreed upon the following Articles:

Article I. Immediately upon the signing of the present Agreement, the normal diplomatic and consular relations between the two Contracting Parties shall be re-established.

The Government of the Republic of China agrees to take the necessary steps to transfer to the Government of the Union of Soviet Socialist Republics the Legation and Consular buildings formerly belonging to the Tsarist Government.

Article II. The Governments of the two Contracting Parties agree to hold, within one month after the signing of the present Agreement, a Conference which shall conclude and carry out detailed arrangements

本月十六日大總統ノ批准ヲ経タル露支協定書一部及送付候
間御査閱相成度此段申進候也

編註 漢文ヲ省略、英文ヲ採録ス（左掲付屬書参照）
(付屬書)

中ソ協定書英文

relative to the questions in accordance with the principles as provided in the following Articles.

Such detailed arrangements shall be completed as soon as possible and, in any case, not later than six months from the date of the opening of the Conference as provided in the preceding paragraph.

Article III. The Governments of the two Contracting Parties agree to annul at the Conference as provided in the preceding Article, all Conventions, Treaties, Agreements, Protocols, Contracts, etcetera, concluded between the Government of China and the Tsarist Government and to replace them with new treaties, agreements, etcetera, on the basis of equality, reciprocity and justice, as well as the spirit of the Declarations of the Soviet Government of the years of 1919 and 1920.

Article IV. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics, in accordance with its policy and Declarations of 1919 and 1920, declares that all Treaties, Agreements, etcetera, concluded between the former

Tsarist Government and any third party or parties affecting the sovereign rights or interests of China, are null and void.

The Governments of both Contracting Parties declare that in future neither Government will conclude any treaties or agreements which prejudice the sovereign rights or interests of either Contracting Party.

Article V. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics recognizes that Outer Mongolia is an integral part of the Republic of China and respects China's sovereignty therein.

The Government of the Union of Soviet Socialist Republics declares that as soon as the questions for the withdrawal of all the troops of the Union of Soviet Socialist Republics from Outer Mongolia—namely, as to the time-limit of the withdrawal of such troops and the measures to be adopted in the interests of the safety of the frontiers—are agreed upon at the Conference as provided in Article II of the present Agreement

ing Parties agree to regulate at the aforementioned Conference the questions relating to the navigation of rivers, lakes and other bodies of water which are common to their respective frontiers, on the basis of equality and reciprocity.

Article IX. The Governments of the two Contracting Parties agree to settle at the aforementioned Conference the question of the Chinese Eastern Railway in conformity with the principles as hereinafter provided:

- (1) The Governments of the two Contracting Parties declare that the Chinese Eastern Railway is a purely commercial enterprise.

The Governments of the two Contracting Parties mutually declare that with the exception of matters pertaining to the business operations which are under the direct control of the Chinese Eastern Railway, all other matters affecting the rights of the National and the Local Governments of the Republic of China-

ment, it will effect the complete withdrawal of all the troops of the Union of Soviet Socialist Republics from Outer Mongolia.

Article VI. The Governments of the two Contracting Parties mutually pledge themselves not to permit, within their respective territories the existence and/or activities of any organisations or groups whose aim is to struggle by acts of violence against the Governments of either Contracting Party.

The Governments of the two Contracting Parties further pledge themselves not to engage in propaganda directed against the political and social systems of either Contracting Party.

Article VII. The Governments of the two Contracting Parties agree to redemarcate their national boundaries at the Conference as provided in Article II of the present Agreement, and pending such redemarcation, to maintain the present boundaries.

Article VIII. The Governments of the two Contract-

such as judicial matters, matters relating to civil administration, military administration, police, municipal government, taxation, and landed property (with the exception of lands required by the said Railway)—shall be administered by the Chinese Authorities.

(2) The Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees to the redemption by the Government of the Republic of China, with Chinese capital, of the Chinese Eastern Railway, as well as all appurtenant properties, and to the transfer to China of all shares and bonds of the said Railway.

(3) The Governments of the two Contracting Parties shall settle at the Conference as provided in Article II of the present Agreement, the amount and conditions governing the redemption as well as the procedure for the transfer of the Chinese Eastern Railway.

(4) The Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees to be responsible for the entire claims of the shareholders, bondholders and creditors

of the Chinese Eastern Railway incurred prior to the Revolution of March 9th 1917.

(5) The Governments of the two Contracting Parties mutually agree that the future of the Chinese Eastern Railway shall be determined by the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics, to the exclusion of any third party or parties.

(6) The Governments of the two Contracting Parties agree to draw up an arrangement for the provisional management of the Chinese Eastern Railway pending the settlement of the questions as provided under Section (3) of the present Article.

(7) Until the various questions relating to the Chinese Eastern Railway are settled at the Conference as provided in Article II of the present Agreement, the rights of the two Governments arising out of the Contract of August 27th, 1896, for the Construction and Operation of the Chinese Eastern Railway, which do not conflict with the present Agreement and the

Parties in accordance with the principles of equality and reciprocity.

Article XIV. The Governments of the two Contracting Parties agree to discuss at the aforementioned Conference the questions relating to the claims for the compensation of losses.

Article XV. The present Agreement shall come into effect from the date of signature.

In witness whereof, the respective plenipotentiaries have signed the present Agreement in duplicate in the English language and have affixed thereto their seals. Done at the City of Peking this Thirty-First Day of the Fifth Month of the Thirteenth Year of the Republic of China, which is, the Thirty-First Day of May One Thousand Nine Hundred and Twenty-Four.

(Seal) V. K. Wellington Koo
(Seal) L. M. Karakhan

Agreement for the Provisional

11 廿八總規及^上卷之二總規條款 千九百一

Agreement for the Provisional Management of the said Railway and which do not prejudice China's rights of sovereignty, shall be maintained.

Article X. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees to renounce the special rights and privileges relating to all Concessions in any part of China acquired by the Tsarist Government under various Conventions, Treaties, Agreements, etcetera.

Article XI. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees to renounce the Russian portion of the Boxer Indemnity.

Article XII. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees to relinquish the rights of extraterritoriality and consular jurisdiction.

Article XIII. The Governments of the two Contracting Parties agree to draw up simultaneously with the conclusion of a Commercial Treaty at the Conference as provided in Article II of the present Agreement, a Customs Tariff for the two Contracting

Management of the Chinese Eastern Railway

The Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics mutually recognizing that, inasmuch as the Chinese Eastern Railway was built with capital furnished by the Russian Government and constructed entirely within Chinese territory, the said Railway is a purely commercial enterprise and that, excepting for matters appertaining to its own business operations, all other matters which affect the rights of the Chinese National and Local Governments shall be administered by the Chinese Authorities, have agreed to conclude an Agreement for the Provisional Management of the Railway with a view to carrying on jointly the management of the said Railway until its final settlement at the Conference as provided in Article II of the Agreement on General Principles for the Settlement of the Questions between the Republic of China and the Union of the Soviet Socialist Republics of May 31, 1924, and

11 廿八總規及^上卷之二總規條款 千九百一

have to that end named as their Plenipotentiaries, that is to say:

His Excellency the President of the Republic of China:

Vi Kyuin Wellington Koo

The Government of the Union of Soviet Socialist Republics:

Lev Mikhailovitch Karakhan

Who, having communicated to each other their respective full powers, found to be in good and due form, have agreed upon the following Articles:

Article I. The Railway shall establish, for discussion and decision of all matters relative to the Chinese Eastern Railway, a Board of Directors to be composed of ten persons, of whom five shall be appointed by the Government of the Republic of China and five by the Government of the Union of Soviet Socialist Republics.

The Government of the Republic of China shall appoint one of the Chinese Directors as President of

Directors, and in that of the Assistant Director-General, by one of the Russian Directors).

Article II. The Railway shall establish a Board of Auditors to be composed of five persons, namely two Chinese Auditors, who shall be appointed by the Government of the Republic of China and 3 Russian Auditors who shall be appointed by the Government of the Union of Soviet Socialist Republics.

The Chairman of the Board of Auditors shall be elected from among the Chinese Auditors.

Article III. The Railway shall have a Manager, who shall be a national of the Union of Soviet Socialist Republics, and two Assistant Managers, one to be a national of the Republic of China and the other to be a national of the Union of Soviet Socialist Republics.

The said officers shall be appointed by the Board of Directors and such appointments shall be confirmed by their respective Governments.

the Board of Directors, who shall also be the Director-General.

The Government of the Union of Soviet Socialist Republics shall appoint one of the Russian Directors as Vice-President of the Board of Directors, who shall also be the Assistant Director-General.

Seven persons shall constitute a quorum, and all decisions of the Board of Directors shall have the consent of not less than six persons before they can be carried out.

The Director-General and Assistant Director-General shall jointly manage the affairs of the Board of Directors and they shall both sign all the documents of the Board.

In the absence of either the Director-General or the Assistant Director-General, their respective Governments may appoint another Director to officiate as the Director-General or the Assistant Director-General (in the case of the Director-General, by one of the Chinese

The rights and duties of the Manager and the Assistant Managers shall be defined by the Board of Directors.

Article IV. The Chiefs and Assistant Chiefs of the various Departments of the Railway shall be appointed by the Board of Directors.

If the Chief of Department is a national of the Republic of China, the Assistant Chief of Department shall be a national of the Union of Soviet Socialist Republics, and if the Chief of Department is a national of the Union of Soviet Socialist Republics, the Assistant Chief of Department shall be a national of the Republic of China.

Article V. The employment of persons in the various departments of the Railway shall be in accordance with the principle of equal representation between the nationals of the Republic of China and those of the Union of Soviet Socialist Republics.

Article VI. With the exception of the estimates

and budgets, as provided in Article VII of the present Agreement, all other matters on which the Board of Directors cannot reach an agreement shall be referred for settlement to the Governments of the Contracting Parties.

Article VII. The Board of Directors shall present the estimates and budgets of the Railway to a joint meeting of the Board of Directors and the Board of Auditors for consideration and approval.

Article VIII. All the net profits of the Railway shall be held by the Board of Directors and shall not be used pending a final settlement of the question of the present Railway.

Article IX. The Board of Directors shall revise as soon as possible the statutes of the Chinese Eastern Railway Company, approved on December 4, 1896, by the Tsarist Government, in accordance with the present Agreement and the Agreement on General Principles for the Settlement of the Questions between the Republic

effect from the date of signature.

In witness whereof, the respective Plenipotentiaries have signed the present Agreement in duplicate in the English language and have affixed thereto their seals.

Done at the City of Peking this Thirty-First Day of the Fifth Month of the Thirteenth Year of the Republic of China, which is, the Thirty-First Day of May, One Thousand Nine Hundred and Twenty-Four.

(Seal) V. K. Wellington Koo

(Seal) L. M. Karakhan

Declaration (I)

The Government of the Republic of China and the Government of the Union of Soviet Socialist Republics declare that immediately after the signing of the Agreement on General Principles between the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics of May 31, 1924, they will reciprocally hand over to each other all the real estate and movable property owned

of China and the Union of Soviet Socialist Republics of May 31, 1924, and in any case, not later than six months from the date of the constitution of the Board of Directors.

Pending their revision, the aforesaid statutes, insofar as they do not conflict with the present Agreement on General Principles for the Settlement of the Questions between the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics, and do not prejudice the rights of sovereignty of the Republic of China, shall continue to be observed.

Article X. The present Agreement shall cease to have effect as soon as the question of the Chinese Eastern Railway is finally settled at the Conference as provided in Article II of the Agreement on General Principles for the Settlement of the Questions between the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics of May 31, 1924.

Article XI. The present Agreement shall come into

by China and the former Tsarist Government and found in their respective territories. For this purpose each Government will furnish the other with a list of the property to be so transferred.

In faith whereof, the respective Plenipotentiaries of the Governments of the two Contracting Parties have signed the present Declaration in duplicate in the English language and have affixed thereto their seals.

Done at the City of Peking this Thirty-First Day of the Fifth Month of the Thirteenth Year of the Republic of China, which is, the Thirty-First Day of May, One Thousand Nine Hundred and Twenty-Four.

(Seal) V. K. Wellington Koo

(Seal) L. M. Karakhan

Declaration (II)

The Government of the Republic of China and the Government of the Union of Soviet Socialist Republics hereby declare that it is understood that with regard

to the buildings and landed property of the Russian Orthodox Mission belonging as it does to the Government of the Union of Soviet Socialist Republics the question of the transfer or other suitable disposal of the same will be jointly determined at the Conference provided in Article II of the Agreement on General Principles between the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics of May 31, 1924, in accordance with the internal laws and regulations existing in China regarding property holding in the inland. As regards the buildings and property of the Russian Orthodox Mission belonging as it does to the Government of the Union of Soviet Socialist Republics at Peking and Patachu, the Chinese Government will take steps to immediately transfer same as soon as the Government of the Union of Soviet Socialist Republics will designate a Chinese person or organization, in accordance with the laws and regulations existing in China regarding property-holding in the inland.

Declaration (III)

The Government of the Republic of China and the Government of the Union of Soviet Socialist Republics jointly declare that it is understood that with reference to Article IV of the Agreement on General Principles between the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics of May 31, 1924, the Government of the Republic of China will not and does not recognize as valid any treaty, agreement, etcetera, concluded between Russia since the Tsarist regime and any third party or parties, affecting the sovereign rights and interests of the Republic of China. It is further understood that this expression of understanding has the same force and validity as a general declaration embodied in the said Agreement on General Principles.

In faith whereof, the respective Plenipotentiaries of the Governments of the two Contracting Parties have signed the present Declaration in duplicate in the English language and have affixed thereto their seals.

Done in the City of Peking this Thirty-First Day of Fifth Month of the Thirteenth Year of the Republic of China, which is, the Thirty-First Day of May, One Thousand Nine hundred and Twenty-Four.

(Seal) V. K. Wellington Koo
(Seal) L. M. Karakhan

Declaration (IV)

The Government of the Republic of China and the Government of the Union of Soviet Socialist Republics jointly declare that it is understood that the Government of the Republic of China will not transfer either in part or in whole to any third Power or any foreign organization the special rights and privileges renounced by the Government of the Union of Soviet Socialist Republics in Article X of the Agreement on General Principles between the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics of May 31, 1924. It is further understood that this expression of understanding has the same force and

Meanwhile the Government of the Republic of China will at once take measures with a view to guarding all the said buildings and property and clearing them from all the persons now living there.

It is further understood that this expression of understanding has the same force and validity as a general declaration embodied in the said Agreement on General Principles.

validity as a general declaration embodied in the said Agreement on General Principles.

In faith whereof, the respective Plenipotentiaries of the Governments of the two Contracting Parties have signed the present Declaration in duplicate in the English language and have affixed thereto their seals.

Done at the City of Peking this Thirty-First Day of the Fifth Month of the Thirteenth Year of the Republic of China, which is, the Thirty-First Day of May, One Thousand Nine Hundred and Twenty-Four.

(Seal) V. K. Wellington Koo

(Seal) L. M. Karakhan

Declaration (V)

The Government of the Republic of China and the Government of the Union of Soviet Socialist Republics jointly declare that it is understood that with reference to Article XI of the Agreement on

understanding has the same force and validity as a general declaration embodied in the said Agreement on General Principles.

In faith whereof, the respective Plenipotentiaries of the Governments of the two Contracting Parties have signed the present Declaration in duplicate in the English language and have affixed thereto their seals.

Done at the City of Peking this Thirty-First Day of the Fifth Month of the Thirteenth Year of the Republic of China, which is, the Thirty-First Day of May, One Thousand Nine Hundred and Twenty-Four.

(Seal) V. K. Wellington Koo

(Seal) L. M. Karakhan

Declaration (VI)

The Government of the Republic of China and the Government of the Union of Soviet Socialist Republics agree that they will establish equitable provisions at the Conference as provided in Article II of the Agree-

General Principles between the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics of May 31, 1924:

1. The Russian share of the Boxer Indemnity which the Government of the Union of Soviet Socialist Republics renounces, will after the satisfaction of all prior obligations secured thereon be entirely appropriated to create a fund for the promotion of education among the Chinese people.
2. A special Commission will be established to administer and allocate the said fund. This Commission will consist of three persons, two of whom will be appointed by the Government of the Republic of China and one by the Government of the Union of Soviet Socialist Republics. Decisions of the said Commission will be taken by unanimous vote.
3. The said fund will be deposited as it accrues from time to time in a Bank to be designated by the said Commission.

It is further understood that this expression of

ment on General Principles between the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics of May 31, 1924, for the regulation of the situation created for the citizens of the Government of the Union of Soviet Socialist Republics by the relinquishment of the rights of extraterritoriality and consular jurisdiction under Article XII of the aforementioned Agreement, it being understood however that the nationals of the Government of the Union of Soviet Socialist Republics shall be entirely amenable to Chinese jurisdiction.

In faith whereof, the respective Plenipotentiaries of the Governments of the two Contracting Parties have signed the present Declaration in duplicate in the English language and have affixed thereto their seals.

Done at the City of Peking this Thirty-First Day of the Fifth Month of the Thirteenth Year of the Republic of China, which is, the Thirty-First Day of May, One Thousand Nine Hundred and Twenty-Four.

(Seal) V. K. Wellington Koo

(Seal) L. M. Karakhan
Declaration (VII)

The Government of the Republic of China and the Government of the Union of Soviet Socialist Republics, having signed the Agreement on General Principles between the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics of May 31, 1924, hereby agree, in explanation of Article V of the Agreement for the Provisional Management of the Chinese Eastern Railway of the same date, which provides for the principle of equal representation in the filling of posts by citizens of the Republic of China and those of the Union of Soviet Socialist Republics, that the application of this principle is not to be understood to mean that the present employees of Russian nationality shall be dismissed for the sole purpose of enforcing the said principle. It is further understood that access to all posts is equally open to citizens of both Contracting Parties, that no

special preference shall be shown to either nationality, and that the posts shall be filled in accordance with the ability and technical as well as educational qualifications of the applicants.

In faith whereof, the respective Plenipotentiaries of the Governments of the two Contracting Parties have signed the present Declaration in duplicate in the English language and have affixed thereto their seals.

Done at the City of Peking this Thirty-First Day of the Fifth Month of the Thirteenth Year of the Republic of China, which is, the Thirty-First Day of May, One Thousand Nine Hundred and Twenty-Four.

(Seal) V. K. Wellington Koo

(Seal) L. M. Karakhan

Exchange of Notes

Peking, May 31, 1924.

Dear Mr. Karakhan:

On behalf of my Government, I have the honour to declare that, an Agreement on General Principles for the Settlement of the Questions between the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics having been signed between us to-day, the Government of the Republic of China will, in the interests of friendship between the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics, discontinue the services of all the subjects of the former Russian Empire now employed in the Chinese army and police force, as they constitute by their presence or activities a menace to the safety of the Union of Soviet Socialist Republics.

If you will furnish my Government with a list of such persons, the authorities concerned will be instructed to adopt the necessary action.

I have the honour to remain,

Yours faithfully,

V. K. Wellington Koo

Minister for Foreign Affairs

of the Republic of China
Mr. L. M. Karakhan,
Extraordinary Plenipotentiary Representative
of the Union of Soviet Socialist Republics
to the Republic of China,
Peking.
Peking, May 31, 1924.

Dear Dr. Koo,

I have the honour to acknowledge the receipt of the following Note from you under this date:

"On behalf of my Government, I have the honour to declare that, an Agreement on General Principles for the Settlement of the Questions between the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics having been signed between us to-day, the Government of the Republic of China will, in the interests of friendship between the Republic of China and the Union of Soviet Socialist Republics, discontinue the services of all the subjects of the former

Russian Empire now employed in the Chinese army and police force, as they constitute by their presence or activities a menace to the safety of the Union of Soviet Socialist Republics. If you will furnish my Government with a list of such persons, the authorities concerned will be instructed to adopt the necessary action."

In reply, I beg to state, on behalf of my Govern-

ment, that I have taken note of the same and that I agree to the propositions as contained therein.

I have the honour to be

Very truly yours,

L. M. Karakhan

Extraordinary Plenipotentiary Representative of the Union of Soviet Socialist Republics to the Republic of China.

(右記)

中ハ協定書和訳文

支那共和国「ソヴィエト」社会主义共和国連邦間

第 11 条
両締約国政府ハ本協定署名後一月内ニ左ノ諸条ニ規定スル原則ニ従ヒ諸問題ニ関スル細目ノ取極フ締結シ且之ヲ実施スヘキ會議ヲ開催スルコトヲ約ス
右細目ノ取極ハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ前項ニ規定スル會議ノ開会後六月内ニ完了セラルヘン

第 12 条
両締約国政府ハ前条ニ規定スル會議ニ於テ支那国政府ト露西亞帝政政府トノ間ニ締結セラレタル一切ノ協約、条約、協定、議定書、契約等ヲ取消シ而シテ平等、相互及正義ノ基礎ニ於テ並ニ千九百十九年及千九百二十年ノ「ソヴィエト」政府ノ宣言ノ精神ニ基キ新ナル条約、協定等ヲ以テ之ニ代フルコトヲ約ス

第四 条

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ其ノ政策並ニ千九百十九年及千九百二十年ノ宣言ニ従ヒ前露西亞帝政政府ト第三国トノ間ニ締結セラレタル一切ノ条約、協定等ニンテ支那国ノ主權又ハ利益ニ影響スルモノハ無効ナルコトヲ宣言ス

宣言ス

| | 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 大九九

諸問題解決ノ為ノ大綱ニ関スル協定

一九一四年五月三日北京ニ於テ署名
一九一四年五月三日ヨリ実施

支那共和国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ハ相互ニ正常ノ関係ヲ回復センコトヲ希望シ両国間ノ諸問題解決ノ為ノ大綱ニ關スル協定ヲ締結スルコトニ一致シ之カ為左ノ如ク其ノ全権委員ヲ任命セリ

支那共和国大總統閣下

顧 維 鈞

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府

右全権委員ハ互ニ其ノ全権委任状ヲ示シ之カ良好妥当ナルヲ認メタル後左ノ諸条ヲ協定セリ

第一条

本協定署名後直ニ両締約国間ノ正常ノ外交及領事關係ハ回復セラルヘン
支那共和国政府ハ先ニ露西亞帝政政府ニ属シタル公使館及領事館ノ建物ヲ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ニ引渡ス為必要ナル措置ヲ執ルコトヲ約ス

第二条

両締約国政府ハ将来何レノ政府モ他ノ締約国ノ主權又ハ利益ヲ侵害スル條約又ハ協定ヲ締結セサルヘキコトヲ宣言ス
「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ外蒙古カ支那共和国ノ構成部分タルコトヲ承認シ且外蒙古ニ於ケル支那ノ主權ヲ尊重ス
「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦軍隊全部ノ外蒙古撤退ニ関スル問題即チ右軍隊撤退ノ期限及国境ノ安全ノ為ニ執ルヘキ措置ニ關シ本協定第二条ニ規定スル會議ニ於テ協定成立スルトキハ直ニ外蒙古ヨリ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦軍隊全部ノ完全ナル撤退ヲ実行スヘキコトヲ宣言ス

第六 条

両締約国政府ハ何レモ他ノ締約国政府ニ対シ暴力行為ニ依リ抗争スルコトヲ目的トスル一切ノ機関又ハ団体ノ存在及又ハ活動ヲ各其ノ領土内ニ於テ許容セサルコトヲ相互ニ誓約ス
両締約国政府ハ何レモ他ノ締約国ノ政治上及社会上ノ制度ニ反対スル宣伝ヲ行ハサルコトヲ誓約ス

七一五

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六九九

七一六

第七条

両締約国政府ハ尚本協定第二条ニ規定スル會議ニ於テ両国ノ境界ヲ更ニ画定スルコト並ニ右画定ニ至ル迄ハ現在ノ境界ヲ維持スルコトヲ約ス

第八条

両締約国政府ハ前記會議ニ於テ両国国境ニ共通ナル河川、湖水及其他ノ水面ノ航行ニ関スル問題ヲ平等及相互ノ基礎ニ於テ規律スルコトヲ約ス

第九条

両締約国政府ハ前記會議ニ於テ左ニ規定スル原則ニ従ヒ東支鉄道問題ヲ解決スルコトヲ約ス

(一)両締約国政府ハ東支鉄道カ純然タル商業的企業ナルコトヲ宣言ス

両締約国政府ハ東支鉄道ノ直接ノ管理ノ下ニ在ル營業ニ属スル事項ヲ除キ支那共和国ノ中央政府及地方政府ノ権利ニ影響スル一切ノ他ノ事項例へハ司法事項並ニ民政、軍政、警察、市政、課稅及土地（該鐵道ノ必要トスル土地ヲ除ク）ニ関スル事項ノ如キハ支那國官憲ニ依リ處理セラルヘキコトヲ相互ニ宣言ス

モノハ之ヲ維持スヘシ

第十一条

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ露西亞帝政政府カ各種ノ協約、條約、協定等ニ依リ取得セル支那国内ニ於ケル一切ノ利權ニ関スル特殊権利及特權ヲ拋棄スルコトヲ約ス

第十二条

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ治外法權及領事裁判權ヲ拋棄スルコトヲ約ス

第十三条

両締約国政府ハ本協定第二条ニ規定スル會議ニ於テ通商条約ヲ締結スルト同時ニ平等及相互ノ原則ニ従ヒ両締約国ノ関税率ヲ作成スルコトヲ約ス

第十四条

両締約国政府ハ前記會議ニ於テ損害賠償請求ニ関スル問題ヲ討議スルコトヲ約ス

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六九九

(二)「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ支那共和国政府カ支那ノ資本ヲ以テ東支鉄道及一切ノ付属財産ヲ回収スルコト並ニ該鐵道ノ一切ノ株券及社債券ヲ支那ニ引渡スコトヲ約ス

（三）両締約国政府ハ本協定第二条ニ規定スル會議ニ於テ東支鉄道回収ノ価額及条件並ニ引渡手続ヲ決定スヘシ

四「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ一千九百十七年三月九日ノ革命前ニ生シタル東支鉄道ノ株主、社債權者及債權者ノ請求權ノ全部ニ対シ責任ヲ負フコトヲ約ス

(五)両締約国政府ハ東支鉄道ノ将来ハ何レノ第三國ヲモ除外シ支那共和国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ニ依リ決定セラルヘキコトヲ相互ニ約ス

(六)両締約国政府ハ本条第(三)号ニ規定スル問題ノ決定ニ至ル迄東支鉄道ノ暫行管理ノ為取極ヲ作成スルコトヲ約ス
(七)東支鉄道ニ關スル各種問題カ本協定第二条ニ規定スル會議ニ於テ解決セラルニ至ル迄東支鉄道ノ建設及經營ニ關スル千八百九十六年九月八日（露曆八月二十七日）ノ契約ヨリ生スル両国政府ノ權利ニシテ本協定及同鐵道ノ暫行的管理協定ニ抵触セス且支那國ノ主權ヲ侵害セサル

第十五条

本協定ハ署名ノ日ヨリ効力ヲ生スヘシ

右証拠トシテ各全權委員ハ英吉利語ニ依ル二通ノ本協定ニ署名調印セリ

支那共和国十三年五月三十日即チ一千九百二十四年五月三十日北京ニ於テ作成ス

東支鉄道暫行管理協定

一九二四年五月三一日北京ニ於テ署名

一九二四年五月三一日ヨリ実施

支那共和国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ハ東支鉄道カ露西亞帝政政府ニ依リ供給セラレタル資本ヲ以テ建設セラレ且全然支那國ノ版図内ニ於テ建造セラレタルヲ以テ該鐵道ハ純然タル商業的企業ナルコト及該鐵道自体ノ營業ニ属ス事項ヲ除キ其ノ他一切ノ事項ニシテ支那國中央及地方政府ノ權利ニ影響スルモノハ支那國官憲ニ依リ處理セラルヘキモノナルコトヲ相互ニ承認シ千九百二十四年五月三十日付支那共和国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ諸問題解決ノ為ノ大綱ニ關スル協定ノ第二条ニ掲クル会

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六九九

七一八

議ニ於テ最終的ニ解決セラル迄該鉄道ノ管理ヲ共同ニ実行スルノ目的ヲ以テ該鉄道ノ暫行管理ノ為ノ協定ヲ締結スルコトニ一致シ之カ為左ノ如ク其ノ全権委員ヲ任命セリ
支那共和国大總統閣下

顧 緯 鈞

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府

「レフ、ミハイロヴィチ、カラハン」

右各全権委員ハ其ノ全権委任状ヲ示シ之カ良好妥当ナルヲ認メ左ノ諸条ヲ協定セリ

第一 条

東支鉄道ハ同鉄道ニ關スル一切ノ事項ノ討議及決定ノ為ニ十名ヨリ成ル理事会ヲ設クヘク其ノ内五名ハ支那共和国政府ニ依リ他ノ五名ハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ニ依リ任命セラルヘシ

支那共和国政府ハ支那国理事中ノ一名ヲ理事会会長トシテ

任命スヘク右會長ハ同時ニ理事長タルヘシ

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ露西亞國理事中ノ一名ヲ理事会副會長トシテ任命スヘン

右副會長ハ同時ニ副理事長タルヘシ理事会ハ七名ヲ以テ定

第二 条

東支鉄道ハ支那共和国政府ニ依リ任命セラルヘキ二名ノ支那國監事及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ニ依リ任命セラルヘキ三名ノ露西亞國監事即チ五名ヨリ成ル監事會ヲ設クヘシ

監事會會長ハ支那國監事中ヨリ選任セラルヘシ

第三 条

東支鉄道ニハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦國民タル一名ノ支配人ヲ置ク支那共和国國民及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦國民タル各一名ノ副支配人ヲ置クヘシ

第七 条

右役員ハ理事会ニ依リ任命セラルヘク且右任命ハ各其ノ政府ニ依リ確認セラルヘシ

支配人及副支配人ノ職權及職務ハ理事会ニ依リ定メラルヘシ

第四 条

東支鉄道ノ各部ノ部長及副部長ハ理事会ニ依リ任命セラルヘシ

理事会ハ審議及承認ヲ求ムル為東支鉄道ノ見積及予算ヲ理事業会及監事會ノ共同會議ニ提出スヘシ

第八 条

東支鉄道ノ全純益ハ理事会ニ依リ保管セラレ且本鉄道問題力最終的ニ解決セラル迄使用セラレサルヘシ

第九 条

理事会ハ一千八百九十六年十一月四日露西亞帝政政府ニ依リ承認セラレタル東支鉄道公社ノ定款ヲ本協定及支那共和国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ諸問題解決ノ為ノ大綱ニ関スル一千九百二十四年五月三十一日ノ協定ニ從ヒ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ理事会構成ノ日ヨリ六月内ニ改正スヘシ

前記定款ハ其ノ改正ニ至ル迄ハ支那共和国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ諸問題解決ノ為ノ大綱ニ関スル本協定ニ抵触セス且支那共和国ノ主權ヲ害セサル限り引続キ遵守セラルヘシ

第六 条

東支鉄道ノ各部ニ於ケル職員ノ任用ハ支那共和国國民及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦國民間ニ於ケル均等代表ノ原則ニ從フヘシ

本協定第七条ニ定ムル見積及予算ヲ除キ其ノ他ノ一切ノ事項ニシテ理事会カ之ニ關シ一致スルニ至ラサルモノハ解決

一 中ソ協定及ビ奉ソ協定關係 六九九

足數トス理事会ノ一切ノ決定ハ之カ實行ニ先チ六名以上ノ承諾ヲ經ヘシ

理事長及副理事長ハ理事会ノ事務ヲ共同ニ処理シ且同会ノ一切ノ書類ニ共ニ署名スヘシ

理事長又ハ副理事長在ラサルトキハ各其ノ政府ハ理事長又ハ副理事長トシテ職務ヲ執ルヘキ他ノ一名ノ理事ヲ任命スルコトヲ得（理事長ノ場合ニ於テハ支那國理事中ノ一名ヲ以テシ又副理事長ノ場合ニ於テハ露西亞國理事中ノ一名ヲ以テス）

第十 条

本協定ハ東支鉄道問題カ支那共和国及「ソヴィエト」社会主義共和国ノ政府ニ付託セラルヘシ

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六九九

七二〇

主義共和国連邦間ノ諸問題解決ノ為ノ大綱ニ闕スル千九百二十四年五月三十一日ノ協定第二条ニ規定スル会議ニ於テ最終的ニ解決セラルト同時ニ効力ヲ失フヘシ

第十一 条

本協定ハ署名ノ日ヨリ効力ヲ生スヘシ
右証拠トシテ両国全權委員ハ英吉利語ニ依ル一通ノ本協定ニ署名調印セリ

支那共和国十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

顧 維 鈞(印)

顧 維 鈞(印)

支那共和国十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

エル、エム、カラハン(印)

エル、エム、カラハン(印)

支那共和国十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

宣言書(一)

宣言書(一)

支那共和国政府及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ千九百二十四年五月三十一日付支那共和国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ大綱ニ闕スル協定ノ署名ノ後直ニ前露西亞帝政政府及支那國ノ所有ニ係ル一切ノ動産及不動産ニシテ各自ノ領土内ニ在ルモノヲ相互ニ夫々引渡スヘキコトヲ宣言ス之力為各政府ハ右引渡サルヘキ財產ノ表

支那共和国政府及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ現ニ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ニ属スル露西亞正教教会ノ建物及土地ニ闕シ之カ引渡又ハ其ノ他適當ナル処分ニ闕スル問題ハ千九百二十四年五月三十一日付支那共和国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ大綱ニ闕スル協定第二条ニ規定スル会議ニ於テ内地ニ於ケル財產保有ニ闕スル支那國現行ノ国内法令及規則ニ從ヒ共同ニ決定セラルヘシトノ了解ナルコトヲ茲ニ宣言ス現ニ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ニ属スル在北京及在八大処露西亞正教教会ノ建物及財產ニ闕シテハ支那國政府ハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府カ支那國ノ個人又ハ団

体ヲ指示スルトキハ直ニ内地ニ於ケル財產保有ニ闕スル支那國現行ノ法令及規則ニ從ヒ之カ引渡ノ手段ヲ執ルヘシ其ノ間支那共和国政府ハ一切ノ右建物及財產ヲ保護シ且現ニ之ニ居住スル者ヲ總テ退去セシメンカ為ニ直ニ措置ヲ執ルヘシ

尚右了解ノ表明ハ大綱ニ闕スル前記協定中ニ包含セラルル

一般的宣言ト同一ノ効力ヲ有スルモノトス

右証拠トシテ両締約国政府ノ各全權委員ハ英吉利語ニ依ル

二通ノ本宣言書ニ署名調印セリ

支那共和国十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

宣言書(二)

宣言書(二)

顧 維 鈞(印)

顧 維 鈞(印)

宣言書(三)

宣言書(三)

エル、エム、カラハン(印)

エル、エム、カラハン(印)

宣言書(四)

宣言書(四)

支那共和国政府及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ千九百二十四年五月三十一日付支那共和国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ大綱ニ闕スル協定第十条ニ依リ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ノ拋棄シタル特権利及特權ハ其ノ一部又ハ全部ヲ支那共和国政府ニ於テ第三国又ハ外国機関ニ譲渡セサルヘントノ了解ナルコトヲ共同ニ宣言ス尚右ノ了解ノ表明ハ大綱協定中ニ包含セラル一般的声明ト同一ノ効力ヲ有スルモノトス

支那共和国政府及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ハ千九百二十四年五月三十一日付支那共和国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間ノ大綱ニ闕スル協定第四条ニ闕シ支那共和国政府ハ露西亞帝政時代以来露西亞國ト第三國トノ間ニ締結セラレタル條約、協定等ニシテ支那共和国ノ

ヲ他方ニ提供スヘン
右証拠トシテ両締約国政府ノ各全權委員ハ英吉利語ニ依ル二通ノ本宣言書ニ署名調印セリ

支那共和国十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

宣言書(五)

宣言書(五)

支那共和国十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

宣言書(五)

宣言書(五)

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六九九

七二二

右証拠トシテ両締約国政府ノ各全権委員ハ英吉利語ニ依ル
二通ノ本書ニ署名調印セリ

支邦共和国十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三
十一日北京ニ於テ作成ス

支那共和国政府及「ソヴィエト」社会主义共和国連邦政府
ハ千九百二十四年五月三十一日付支那共和国「ソヴィエ
ト」社会主义共和国連邦間ノ大綱ニ関スル協定第十二条ニ
關シ左ノ通り了解成立セルコトヲ共同ニ宣言ス

一 「ソヴィエト」社会主义共和国連邦政府ノ拠棄スル團
匪賠償金ノ露西亞國ノ取前ハ之ヲ担保トスル一切ノ優先
債務ヲ償却シタル後全部之ヲ支那國人民ノ教育振興資金
ノ創設ニ充当セラルヘシ

二 前記資金ノ管理及割当ノ為特別委員会設置セラルヘシ
右委員会ハ三名ヨリ成リ内二名ハ支那共和国政府之ヲ任
命シ一名ハ「ソヴィエト」社会主义共和国連邦政府之ヲ
任命ス前記委員会ノ決定ハ全会一致ノ表決ニ依ル

ス

右証拠トシテ両締約国政府ノ各全権委員ハ英吉利語ニ依ル
二通ノ本書ニ署名調印セリ

支那共和国十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三
十一日北京ニ於テ作成ス

顧 維 鈞 (印)
エル、エム、カラハン (印)

宣言書 (乙)

支那共和国政府及「ソヴィエト」社会主义共和国連邦政府
ハ千九百二十四年五月三十一日付支那共和国及「ソヴィエ
ト」社会主义共和国連邦間ノ大綱ニ関スル協定ニ署名ヲ了
シタルニ付「ソヴィエト」社会主义共和国連邦ノ人民及支
那共和国ノ人民ノ就職上ノ均等代表ノ原則ニ規定スル同日
付東支鐵道暫行管理協定第五条ノ説明トシテ右原則ノ適用
ハ露西亞國国籍ヲ有スル現在ノ從事員ヲ右原則ヲ励行スル
唯一ノ目的ノ為ニ解職スヘキコトヲ意味スルモノト了解セ
ラレサルヘキコトヲ茲ニ約ス尚一切ノ地位ハ両締約国ノ人
民ニ均等ニ開放セラルヘク何レノ国籍ニ對シテモノ特殊ノ優
先的取扱ヲ為ササルヘク且右地位ハ志望者ノ能力並ニ技術

付属交換公文

顧外交總長発「カラハン」代表宛往翰

以書翰致啓上候陳者本日貴下トノ間ニ支那共和国及「ソヴィエト」社会主义共和国連邦間ノ諸問題解決ノ為ノ大綱ニ
関スル協定ニ署名ヲ了シタルニ付支那共和国政府ハ支那國ノ軍隊及警察隊ニ現ニ使用セラル一切ノ前露西亞帝國ノ
臣民ハ其ノ存在又ハ活動ニ依リ「ソヴィエト」社会主义共和国及「ソヴィエト」社会主义共和国連邦間ノ友誼ノ為ニ之カ使
用ヲ繼續セサルヘキコトヲ本官ハ茲ニ本国政府ノ名ニ於テ
宣言スルノ光榮ヲ有シ候貴下ニ於テ右人名表ヲ我政府ニ提

三 前記資金ハ増殖スルニ從ヒ前記該委員会ニ依リ指定セ
ラルヘキ銀行ニ隨時之ヲ預金ス

尚右ノ了解ノ表明ハ大綱ニ関スル協定中ニ包含セラルル一般的宣言書ト同一ノ効力ヲ有スルモノトス

右証拠トシテ両締約国政府ノ各全権委員ハ英吉利語ニ依ル
二通ノ本書ニ署名調印セリ

支那共和国十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三
十一日北京ニ於テ作成ス

顧 維 鈞 (印)
エル、エム、カラハン (印)

宣言書 (丙)

支那共和国政府及「ソヴィエト」社会主义共和国連邦政府
ハ千九百二十四年五月三十一日付支那共和国及「ソヴィエ
ト」社会主义共和国連邦間ノ大綱ニ関スル協定第二条ニ規
定スル會議ニ於テ同協定第十二条ニ依ル治外法權及領事裁
判權ノ拠棄ニ基キ「ソヴィエト」社会主义共和国連邦政府
ノ人民ニ對シ新ニ生シタル地位ヲ規律スル為公平ナル規定
ヲ設クヘキコトヲ但シ「ソヴィエト」社会主义共和国
連邦政府ノ國民ハ支那國ノ司法權ニ完全ニ從フヘキモノト

宣言書 (丙)

顧 維 鈞 (印)
エル、エム、カラハン (印)

上及教育上ノ資格ニ応シテ充サルヘキモノトス

右証拠トシテ両締約国政府ノ各全権委員ハ英吉利語ニ依ル
二通ノ本書ニ署名調印セリ

支那共和国十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三
十一日北京ニ於テ作成ス

顧 維 鈞 (印)
エル、エム、カラハン (印)

宣言書 (丁)

支那共和国政府及「ソヴィエト」社会主义共和国連邦政府
ハ千九百二十四年五月三十一日付支那共和国及「ソヴィエ
ト」社会主义共和国連邦間ノ大綱ニ關スル協定ニ署名ヲ了
シタルニ付「ソヴィエト」社会主义共和国連邦ノ人民及支
那共和国ノ人民ノ就職上ノ均等代表ノ原則ニ規定スル同日
付東支鐵道暫行管理協定第五条ノ説明トシテ右原則ノ適用
ハ露西亞國国籍ヲ有スル現在ノ從事員ヲ右原則ヲ励行スル
唯一ノ目的ノ為ニ解職スヘキコトヲ意味スルモノト了解セ
ラレサルヘキコトヲ茲ニ約ス尚一切ノ地位ハ両締約国ノ人
民ニ均等ニ開放セラルヘク何レノ国籍ニ對シテモノ特殊ノ優
先的取扱ヲ為ササルヘク且右地位ハ志望者ノ能力並ニ技術

二 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六九九

七二三

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七〇〇

七二四

供セラルルニ於テハ關係官憲ニ対シ必要ナル措置ヲ執ルヘキ旨訓令可致候 敬具

千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ

支那共和国外交總長

顧 維 鈞

在北京

支那共和国駐在「ソヴィエト」

社会主義共和国連邦特命全権代表

「エル、エム、カラハン」殿

「カラハン」代表発顧外交總長宛復翰

以書翰致啓上候陳者本代表ハ本日付左記貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候

「本日貴下トノ間ニ支那共和国及「ソヴィエト」社会主義

共和国連邦間ノ諸問題解決ノ為ノ大綱ニ関スル協定ニ署名ヲ了シタルニ付支那共和国政府ハ支那國ノ軍隊及警察隊ニ現ニ使用セラルル一切ノ前露西亞帝国ノ臣民ハ其ノ存在又ハ活動ニ依リ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ安全ニ

対スル脅威ト為ルヲ以テ支那共和国及「ソヴィエト」社会派要人ト会食会談ノ機会ヲ得タルカ其ノ時ノ印象並各方面

ノ情報ヲ綜合スルニ往電第一二六号ノ如ク胡漢民、廖仲愷等所謂元老派ノ擡頭ニ対シテハ少壯派及資本派ノ反対ヲ買ヒタルカ同時ニ劉成禹、馮自由ノ如キ反共產派モ正面ヨリ国民党内ノ共產派ニ対シテ起チ其ノ同志ヨリ成ル廣東建国宣伝団ハ六月二十三日孫文ニ対シ曩ニ「ボロヂン」ハ勞農

政府カ北京政府ト締結スヘキ露支協約ハ国民党大会ノ宣言ト背反セサルモノナリト声明（往電第八二号参照）セルニ

拘ハラス今回ノ露支協約ハ曹錕政府ヲ承認セルノミナラス

其ノ第六条ハ明ニ南方政府ノ存在及地位ヲ無視スルモノナルカ故ニ勞農露西亞ニ抗議センコトヲ要求シ同時ニ同意味ノ通電ヲ「カラハン」「ボロヂン」其ノ他各地国民党同志ニ發セリ張繼、謝持等ノ來粵ハ表面ハ上海大學ノ基金募集ト称スルモ実ハ国民党ノ共產化ヲ防止センカ為ニシテ六月九日來着以來孫文及各要人ノ間ヲ奔走切ニ努メツツアリ一二二日「ボロヂン」ノ來粵ハ右ニ対スル説明ヲ試ミンカ為孫文ヨリ電招シタル為ナリト伝ヘラル胡漢民、廖仲愷、戴天仇等ノ一派ハ廣東ト勞農露西亞トノ間ハ所謂兄弟ノ間柄ナル故ニ勞農露西亞カ北京ト如何ナル協定ヲ結フモ其ノ広

主義共和国連邦間ノ友誼ノ為ニ之カ使用ヲ繼續セサルヘキコトヲ本国政府ノ名ニ於テ宣言スルノ光榮ヲ有シ候若シ貴下ニ於テ右人名表ヲ我政府ニ提供セラルルニ於テハ關係官憲ニ対シ必要ナル措置ヲ執ルヘキ旨訓令可致候

本代表ハ右貴翰ヲ領承シ且右ニ記載セラルル提案ニ同意スルコトヲ本国政府ノ名ニ於テ回答致候 敬具

千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ

支那共和国駐在「ソヴィエト」

社会主義共和国連邦特命全権代表

「エル、エム、カラハン」

編註 右協定書訳文ハ昭和十四年三月外務省條約局編『ソ連邦諸外國間条約集』ヨリ採録ス

七〇〇 六月二十六日 在廣東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

中ソ協定成立ニ対スル廣東政府ノ意向ニツキ

報告ノ件

第一三七号 （六月二十七日接受）
久シ振リノ帰任ト張繼、汪兆銘等來（脱）ノ為過般關係各

東ニ対スル關係ニ変更ヲ与フルコトナント弁（脱）ス孫文ノ意見ハ露西亞ニ対スル關係ニ於テハ元老派ニ近キモ只管党内ノ内訂防遏ニ努メ居レリ共產主義ヲ中心トスル国民党内ノ内（脱）ハ今後益々発（展）セントスル傾向アリ在支公使ニ転電シ奉天、上海ニ暗送セリ

七〇一 七月一日 在中國太田臨時代理公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

中ソ細目會議ノ延期事情ニツキ報告ノ件

第五六三号

七月一日開会ノ筈ナリシ露支細目會議ハ延期トナレリ右ニ就キ「シユワルサロン」ハ島田ニ対シ実ハ會議ニ列スヘキ補佐員未タ到着セサル為露國側ヨリ延期ヲ申込ミタル次第ナルカ露國側トシテハ別段取急キ會議ヲ進メタキ意向モナシト語レル趣ナルカ一方支那側ヨリ得タル情報ニ拠レハ実ハ支那側ニ於テモ張作霖トノ誤解其他主要問題ニ就キ準備未タ完成シ居ラス旁々實際上開会延期ノ外ナカリシモノノ如シトノコトナリ

奉天、哈爾賓へ暗送セリ

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 壱〇二 壱〇三 壱〇四

七〇一 七月四日

在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ハ中ソ協定ニ妨害ノ意志ナキモ東三省
ノ関係事項ハ奉天ニ正式會議開催ノ上決シタ

ナ旨述ベタル件

第二一四号

在支公使発本官宛電報第四七号

新聞報道ニ依レハ王廷璋ハ重不テ張作霖ト接合ノ為メ貴地ニ赴キタリトノコトナリ尚一面ノ情報ニ依レハ過般張作霖ト会合ノ際張ハ王ニ対シ「アントノフ」ノ説明ニ依リ露支協定ニ格段ノ秘密条項ナキコトヲ知レリ民國ノ外交ニ対シ殊更ニ之ヲ妨害スル意志ナキモ唯奉天ニ於テ正式會議ヲ開催スルカ若ハ事東三省ニ関スル限り奉天ニ於テ之ヲ決スル

カニ付北京政府ノ考慮ヲ求メタシトノ趣旨ヲ述ヘタルヤノ

趣ナリ御参考迄

外務大臣ヘ転電アリタン

七〇二 七月十二日

在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉ソ交渉ニ對スル奉天派首腦ノ觀測ニツキ報

告ノ件

総領事 山内 四郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

奉天側ノ露支正式會議開始ニ對スル条件ニ關シ

報告ノ件

ツキ報告ノ件

第一五八号

(七月十八日接受)

露支正式會議開始ニ對シテ過般奉天側カ提起シタリト称セラル条件ニ關シ當地支那新聞ノ伝フル處ニ依レハ(一)露國ハ覺書ヲ以テ現在及将来東三省ノ内政ニ干渉セサルコト(二)東支鐵道新經營實行ノ際同鐵道現行ノ原則ヲ變更セス純粹タル商業的性質ニ違反セサルコト(三)東支鐵道ノ警備ハ現行規定ニ準拠シ現職員ノ更迭ヲ行ハサルコト(四)露國ハ東支鐵道ニ關シ予メ關係列國ト國際關係ヲ明白ニ商定シ置クコト(五)奉天會議ニ於テ予メ東支鐵道ノ回収弁法ヲ決定シ置クコトノ五個条ナル趣ニ有之候

前記ノ事項ハ果シテ信ヲ措クニ足ルヤ否ヤハ目下ノ處観知シ難キモ不敢御参考迄右及報告候 敬具

本信写送付先 在支公使 在奉天總領事

七〇五 七月十七日 在廣東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中ソ協定成立ニ對スル国民党ノ宣言書要領二

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定關係 七〇五 七〇六

七二六

(七月十三日接受)

七〇一 七月四日

在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ハ中ソ協定ニ妨害ノ意志ナキモ東三省
ノ関係事項ハ奉天ニ正式會議開催ノ上決シタ

ナ旨述ベタル件

第二一四号

露支ノ關係ニ就キ七月十二日本庄顧問カ楊宇霆ト對談ノ結果得タル處ニ拠レハ当地ニ於ケル露支交渉カ頗ル進捗シ居ルカ如ク外間ニ伝ヘラレ居ルモ其突然ラス張作霖ハ今猶頑トシテ北京政府締結ノ協定ヲ承認セス其内露國側ヨリ奉天津派ニトリ更ニ有利ナル条件ニテ交渉ヲ申込ミ来ルナラムト待チ居ルモノノ如シ然レトモ張ノ部下ハ王省長ヲ始トシ楊宇霆等モ好イ加減ノ程度ニテ成ルヘク早ク露國トノ協定ノ成立セムコトヲ希望シ居ルモノ少カラサルヲ以テ若シ露國側カ愈々奉天側ト交渉ヲ開始スル時ハ或ハ案外速ニ落着ヲ見ルヤモ測リ難シトノコトナリ

北京、哈爾賓ヘ転電セリ

七〇四 七月十四日 在ハルピン山内總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

奉ソ會議開始ニ對スル奉天側提起ノ条件ニ關シ報道ノ件

七〇五 七月十四日

在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉ソ會議開始ニ對スル奉天側提起ノ条件ニ關シ報道ノ件

公第三七二号

(七月二十九日接受)

大正十三年七月十四日

在哈爾賓

第一五九号

在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

七二七

中ソ協定ニ対スル奉天派ノ態度情報報告ノ件

機密公第二六二号

(七月二十二日接受)

大正十三年七月十七日

在奉天

総領事 船津 辰一郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

露支交渉對奉天派ノ態度ニ関スル件

當館諜報者ノ得タル情報ニ依レハ今回ノ露支協定調印後奉天派カ反対ノ通電ヲナスニ至リタルハ主トシテ内争關係ニヨルモノニシテ必スシモ露支交渉ヲ以テ外交上ノ失敗トナスモノニアラス從テ奉天側トシテハ別段其對露外交方針ニ關シ確タル目的又ハ条件ト称スヘキモノヲ有スルニアラス寧口体面上權勢ヲ維持セントスルニ過ギス最近北京政府ハ屢々代表者ヲ奉天ニ派シ双互ノ意志疏通ヲ図リ又「カラハン」モ屢次「パロール」「アンントノフ」等ヲ派シ張作霖ト接洽セシメ意見ノ一致ニ努メ居ル模様ナリト右何等御参考迄報告申進候 敬具

本信写送付先 在支公使

第四四五号

七〇七 七月二十日(着) 在英國林大使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

中ソ協定ニ関スルタイムス社説要領報告ノ件

十九日ノ「タイムズ」ハ Bolsheviks in China ト題スル要領左ノ如キ社説ヲ掲ケタ

東洋ニ於ケル「ドワイヤン」ノ地位ハ榮職以上ノ意味カアリ殊ニ支那テハ支那政府ニ對シ列国共同ノ申入ヲ為ス場合カ多ク其事情ハ今テモ変ラナイ故ニ右共同通牒ノ發議及提出ノ義務ハ從来ノ慣例テ「ドワイヤン」ニ屬シ此ノ義務ハ屢々重大ナ結果ヲ生スルコトアルハ云フ迄モナイ列国ハ果シテ斯ル責任アル「デリケート」ナ職務ヲ「カラハン」ニ任スコトヲ默認スルダロウカ剩ヘ支那政府ハ外交團ニ對シ旧露國公使館ヲ「カラハン」ニ引渡方ヲ求メタ由タカ右財産ハ^(庚子)公使議定書ニ依リ列国ノ守備隊カ永久ニ武装占拠シテ居ル公使館區域中ニ在ルカ列国ハ列国ニ對スル支那ノ反感挑発ニ努メ居ル「カラハン」若ハ他ノ者カ公然支那政府ノ認ムル大使トシテ來タ場合ハ何ヲスルダロウトテ一方「カラハン」ノ支那ニ於ケル猛烈ナル反帝國主義宣伝ヲ排除シ

在支勞農使臣ニ閲連シ

(一) 「ドワイヤン」

(1) 公使館區域ニ於ケル露國公使館引渡

(一) ノ問題ヲ生シ居ルヤニ承知スル所本使トシテハ
(一) ノ問題ニ付テハ勞農政府ハ領事裁判権行使最終議定書ノ権利等ヲ包含スル支那ニ於ケル特權及支那主権拘束ノ一切ノ條約法規ヲ否認シタル次第ナルヲ以テ前頭最終議定書其他各地方領事団ノ申出ニ依リ列國及列國民ノ利益擁護ノ為メニ支那政府ト交渉スル地位ニ在ル「ドワイヤン」ノ地位ハ全ク列國ト支那ニ於ケル利害ノ關係ヲ異ニスル國ノ使臣ニ絶対ニ委任スルヲ得ス從テ右ノ如キ事項ニ閲シテハ勞農使臣ヲシテ「ドワイヤン」トシテ行動スルヲ許容スルヲ得ス他方單ニ儀礼上ノ事ニ閲シテハ先任大使タル以上之ニ「ドワイヤン」トシテ行動スルヲ許容スルノ外ナカラん

(1) ニ閲シテハ勞農政府ハ庚子(不明)破棄ヲ承認シタルヲ以テ同議定書ニ基ク公使館區域ニ閲スル一切ノ権利ハ之ヲ主張スルコトヲ許シ得サルモ同政府使臣ノ公使館区域ニ在住スル以上右区域ニ付隨スル一切ノ義務ハ之ヲ履行セシメサルヲ得スト思考スル處之等ノ問題ニ閲シテハ或ハ当

ノ unrepentant author カ首相トナリタル計リナルニ拘ハラス日貨排斥ノ度ヲ強メ以テ日本ヲ激セシメントシテ居ル愈々露支協定実施ノ担保細目交渉トナレハ支那ハ失望ヲスルニ極マツテ居ル云々

七〇八 七月二十一日(着)

在英國林大使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

在中国ソ連邦使臣ノ地位ニ閲シ申進ノ件

第四四九号

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七〇八

七二九

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七〇九 七一〇

七三〇

国政府ヨリ何等帝国政府ノ見解ヲ求メ来ルコトナシトモ限
ラレサルニ付本使心得迄ニ本件ニ対スル帝国政府ノ御見解
御回示ヲ乞フ

七〇九 七月二十三日 在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉ソ協定ニ関スル奉天側トソ連側ノ妥協条件

ニツキ情報報告ノ件

(七月二十四日接受)

露支協定ニ関スル奉天側ト露国側トノ妥協条件ナリトテ當
館譲報者ノ得タル情報左ノ如シ

(一) 東支鐵道ハ奉露合弁トシ全線所要ノ人員ハ露支各半
数トシ督弁ハ奉天側委員ノ支那人ヲ擧ヶ露人ヲ副トナシ局
長ハ露人ヲ以テシ支那人ヲ副トナス

(二) 松黒航行権ニ対シ嫩江ハ露支合弁トシテ自由ニ航行
セシメ境ヲ設ケス只碇泊場所ヲ一定ス

(三) 「ルーブル」ハ十ヶ年ノ猶予ヲ以テ三回ニ分ケテ回
収セシムルコトトシ若シ回収シ難キ場合ハ之等「ルーブ
ル」ヲ以テ贖路ニ充当ス

(四) 露軍蒙古ヲ撤退シタル時ハ奉天軍ヲ派遣シ之ニ交替

ヲ避ケントスルニ在リ而シテ一方露國代表ハ公使館領事館
ノ開館抄々シカラサル為會議ノ延期ヲ求メツアリト電報

シタルヤノ趣ニテ要スルニ外交部方面ノ努力ヲ吹聴セント
シツツアルカ如キモ一方「カラハン」ノ本官ニ漏セル所其
他ヲ綜合スルニ「カ」ハ顧外交總長ニ対スル不満ハ公使館
引繼問題等ニ依リ激成セラレ同總長ヲ相手トシ細目會議ヲ

開催スルヲ快シトセサルモノノ如ク少クトモ東支鐵道問題
ニ付テハ是非張作霖ト協定シタキ素志ヲ有シ現ニ奉天ニ於

ケル商議依然トシテ内密進行中ナルカ如ク尤モ奉天談判ノ
進捗モ意ノ如クナラサルハ事實ト見エ「カラハン」ハ十一

日本官ニ之ヲ漏シ且日本側方面ノ妨害運動アルコトヲモ語
ノノ如シ

リタルニ依リ本官ヨリ其蒙ヲ匡シタル次第ニテ要スルニ
「カ」ハ鉄道其ノモノハ如何ニシテモ把持スヘク其為ニハ
地方的ノ交渉ニ依リ相談ヲ經ムルコト最適當ト認メ居ルモ
ノノ如シ

七一 八月三日 在長春西領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ソ連代表委員一行ノ長春通過ノ件

(八月四日接受)

第四四号 一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七一

セシム
以上ハ已ニ草案ヲ作成済ミナリ云々^ミ
右ハ真偽不明ナルモ聞込ミノ儘不取敢電報ス
公使、哈爾賓へ転電セリ

七一〇 七月二十五日 在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北京外交部ノ中ソ協定ニ關スル細目會議促進

ノタメ張作霖ニ協力方要望並ビニ同會議ニ對

スルソ連側ノ意向等報告ノ件

第二三九号

在支公使発本官宛電報第四八号、本官発外務大臣宛電報第
五九六号、奉天發閣下宛第二二四号ニ閏シ
本官ノ得タル情報ヲ綜合スルニ外交部方面ニ於テハ王廷璋
ヲシテ張作霖ト接洽セシメタル結果既ニ其諒解ヲ得タリト
ナシ七月十日外交部ヨリ張作霖ニ対シ正式細目會議諸問題
ニ対スル張ノ意見ト外交部ノ主張ト大体一致スルカ如シ、
就テハ代表者ノ北京特派其会議促進ノ為協力ヲ希望スト
ノ電報ヲ發スルト同時ニ吳佩孚ニ対シテモ既ニ張作霖ノ諒
解ヲ得タリ唯張ノ欲スル所ハ中央ノ命令ヲ遵奉スルノ形式

本官発在支公使宛電報第三一号

八月二日夜(脱)一行当地通過北京ニ向ヘリ

在北京勞農公館員「ゼー・エヌ・ドッセル」
一・クルイシュ

同「エム・エム・ニコリスキー」
同「イー・アー・ガーベル」

同「クウエー・エス・フリードグード」

同「エム・エム・ニコリスキー」

同「イー・エム・(脱)ズニン」

同「デー・ペー・シュバーフ」

同「アーウエー・シシュコフ」

「クルイシユコ」ハ露支會議ニ勞農代表顧問トシテ参加ス
ルモノナリト又一説ニハ「ダフチャン」カ日本大使タルノ
曉其後任タルヘント称セラレ彼等一行ト欧露ヨリ同列車ニ
在リタル一婦人ノ語ル所ニ依レハ「ウエルフネウージンス
ク」齊多間ノ某駅付近ニ於テ列車ノ顛覆事故(反赤党ノ所
為ナラン)アリ若干ノ死傷者ヲ出シタリト此事故ニ鑑ミタ
ルモノカ一行ノ旅行ハ從來ニナク物々シキ警戒ヲセリ「ス
ドウ」等ノ出迎ヘアリ同日哈爾賓ヲ發シ東支技師「セル

七三一

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七一二 七三

七三二

「リ」及数名ノ支那將校ノ護衛ノ下ニ來長南行列車ノ出發
間際迄當市内ニ在リタリ

最初南下ニ際シテハ東支鐵道長春駅長ヲ通シ一車ノ買切り
ヲ満鉄ニ交渉セシカ料金ノ高額ニ上ルヲ以テ之ヲ見合ハセ
普通一等車ニ乗シ南行セリ

尚一行中ノ一員ハ語リテ曰ク現時「サウエート」露國諸般
ノ狀態ハ頗ル良好ニシテ飢餓等絶対ニナシ又國家經濟ノ如
キモ漸次良好ノ途ニ在リ若シ之ニ外債ヲ得ハ更ニ良好ニ赴

カン諸外國ノ勞農露國ヲ承認スルニ至ルハ近キ将来ニ在
リ、奉天カ承認ヲナスハ最モ近キ将来ニ在リ云々

大臣ヘ転電シ奉天、哈爾賓へ暗送セリ

大臣ヘ転電シ奉天、哈爾賓へ暗送セリ

七一二 九月二十二日 在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

奉ソ間協定ニ閏スル情報報告ノ件

第三三一号

露支交渉ニ閑シ當館諜報者ノ得タル情報ニ拠レハ直隸側ハ
「カラハン」トノ間ニ或ハ密約ヲ締結シ北滿一帯ヲ擾乱セ
シメントスル報道ニ接セル張作霖ハ當地代表委員ヲ經テ北
京「カラハン」ニ対シ急遽代表者派遣ヲ申入レシメタル處

公使館秘書官等三名ヲ当地ニ派遣シ來タレルヲ以テ至急鄭
総司令部秘書長ヲシテ露國側ヨリ蒙古ニ出兵シ直隸ヲ圧迫
スルニ於テハ其報酬トシテ東支鐵道ヲ挙ケテ露國ニ交付ス
ル旨ヲ提議セシメタルニ露國代表ハ直ニ其提議ニ贊同シタ
ルニ依リ張總司令ノ裁可ヲ經テ去ル二十日交通銀行内ニ於
テ仮調印ヲ了シタリト
右ハ真偽不明ニ属シ且下取調中ナルモ不取敢聞込ノ儘電報
ス
北京、哈爾賓ヘ転電セリ

七一三 九月二十二日（着） 在ハルビン山内總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

奉ソ間ニ協定調印ヲ見タル模様ナル旨ノ俞東
支鐵道督弁代理内話ノ件

第一三九号

本官發奉天宛電報第六七号

九月二十一日夜東支鐵道督弁代理翁人鳳カ本官ニ内話セル
処ニ依レハ九月二十日奉天ニ於テ支露両代表間ニ何等カ協
定ノ調印ヲ見タル模様ナルカ其内容ハ詳ラカナラサル由ナ
リ右果シテ事實ナリトスレハ當地方ニ重大ナル關係アルニ

付新協定ノ大綱ナリトモ承知致シタク至急何分ノ御回電ヲ

請フ
大臣、支、吉林、長春ヘ転電シ齊々哈爾、滿州里ヘ暗送セ
リ

（鉄長春中繼九月二十二日前、一〇）

七一四 九月二十二日 在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

奉ソ間協定ノ調印ヲ了シタル旨ノ張作霖談話

報告ノ件

第三三三号

（九月二十三日接受）

往電第三三一号
二十二日午後張作霖ハ菊池少將ニ對シ「東支鐵道ニ閑シ露
國側ト協定成立シタルハ事實ニシテ本二十二日調印ヲ了シ

条件ハ我ニ有利ナリ今ハ露國側ハ我ト良シ」云々ト語り自
慢氣味ナリシト不取敢
公使、哈爾賓、關東長官、齊々哈爾、長春、吉林、滿州里
ヘ転電セリ

七一五 九月二十二日 在ハルビン山内總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

奉ソ間協定調印サレタル旨道尹公署ニ入電アリタルヲ以テ公署員

ヨリ之ヲ通報シタル由ニテ公館カ正式ニ承認サルルモ茲一

兩日以内ナラントノコトナリ

大臣、公使、吉林、長春、滿州里ヘ転電セリ

七一六 九月二十三日 在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

東支鐵道ニ閏スル奉ソ協定ノ内容ニツキ張作

霖ノ伝言報告ノ件

第三三八号

阪東顧問カ張總司令ヨリノ伝言ナリトテ語リタル所ニ依レ

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七一四 七一五 七一六

七三三

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七一七 七一八 七一九

ハ奉露交渉ハ双方委員間ニ於テ東支鐵道問題ヲ主トシテ協

議決定シ今回仮調印ヲ為シ露國委員ハ目下莫斯科政府ニ稟

報中右協定ノ内容ハ北京ニ於ケル協定ト略同様ナルモ奉天

側ニトリ更ニ有利ノ条件アリトノ事ナリ

在支公使、哈爾賓ヘ転電セリ

七一七 九月二十三日(着) 在ハルビン山内總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉ソ協定ノ成立ニ關シ新聞報道ノ件

第一四一号

本官発奉天宛電報

第六九号

往電第六八号ニ關シ

九月二十二日「カペイカ」新聞ハ号外ヲ以テ左ノ如ク報道

シ居レリ

張作霖ハ勞農政府ト協約ニ調印セリ二十一日午後二時蔡道

尹ハ勞農公館ヲ往訪シ「ラキイチン」氏ニ祝辞ヲ述ヘタリ

大臣、公使、吉林、長春、齊々哈爾、滿州里ヘ転電済

(長春中継九月二十三日後七、三五)

第一四三号

本官発奉天宛電報第七一号

奉露協定ノ内容ニ關シ蔡道尹及外交課長ノ荒書記生ニ内話セル處ニ依レハ東支鐵道及一切ノ付屬財産回収ノ期限ハ一八九六年ノ協定ヨリ二十年ヲ短縮シテ六十年トシ尚這般ノ北京協定付属第三声明書後段ノ所謂「現ニ支那國軍警機関ニ任官シツツアル前露國人民ノ職務ヲ停止ス云々」ハ之ヲ削除シタル外北京協定ト略同様ナルカ如シト

外務大臣、支、吉林、長春ヘ転電セリ
(長春中継九月二十三日後一〇、五〇分発)

第一三四一号

七一〇 九月二十四日 在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)
奉ソ協定ニ關スル張作霖ノ談話ニツキ報告ノ件

往電第三三八号ニ關シ

二十三日張作霖ハ本官ニ對シ左ノ通語レリ

奉露協定ハ二十二日調印ヲ了シ主トシテ東支鐵道ニ關スルモノニシテ北京ノ協定ト大差ナキモ行政、鐵路權、航行權等總テ北京協定ニ比シ有利ナリ尤モ大綱ノ決定ニ止リ追テ細目ヲ協定スヘク留問題ノ如キモ之ヲ細目協定ノ時ニ譲レ

七三四

七一八 九月二十三日(着) 在ハルビン山内總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉ソ協定ハ大体中ソ協定ト大差ナク航行權、

境界問題ニツキ規定ヲ異ニスル所アリトノ侯

東支鐵道理事内話ノ件

第一四二号

本官発奉天宛電報第七〇号

奉露協定成立ノ件ニ關シ九月二十二日東支鐵道理事候守仁カ当地滿鉄公所佐々木參事ニ極秘トシテ内話スル處ニ依レハ九月二十日奉天ニ於テ協定調印ノ趣翌二十一日奉天ヨリ東支鐵道幹部宛密電アリ其ノ内容詳細ハ記憶セサルモ大体北京協定ト大差無ク只航行權問題及境界問題ニ關シ規定ヲ異ニスル處アリタル様ナリトノ事ニテ當地勞農側カ公然承認セラルハ一兩日中ナランント云ヒ居ル由

大臣、公使、吉林、長春、齊々哈爾、滿州里ヘ転電セリ

(鉄長春經由二十三日後五、一〇)

七一九 九月二十四日(着) 在ハルビン山内總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉ソ協定ノ内容ニ關スル蔡道尹等ノ内話ノ件

第一四三号

リ北滿ニ於ケル警備ハ赤露ト協定シテ直軍ニ当ル筈ニテ其ノ代リ現ニ奉天軍ノ雇傭セル白党ニ対シテハ赤党ト事端ヲ醸ササル様奉天側ニ於テ全責任ヲ引受クルコトトシタリ奉露協定ノ全文ハ至急謄写ノ上送付スルコトトスヘシ

在支公使、哈爾賓及閏東長官ヘ転電セリ

七二一 九月二十五日 在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ヨリ入手セル奉ソ協定原文ノ概要報告ノ件

第一三四四号

奉露協約成立ノ件ニ關シ本二十四日本官張總司令ヲ往訪シ其原文ヲ入手シタルニ全文七ヶ条ヨリ成リテ其内容ハ大体本年五月三十日北京ニ於テ協定セラレタル(本年六月十四日付支那情報第一九号)モノト大差無キモ其概要左ノ通り

第一条 東支鐵道問題ヲ左ノ通解決ス

(一) 東支鐵道ハ純然タル商業ノ性質ヲ帶フル機関ト為ス事ヲ双方政府ニ於テ声明ス(北京ノ協定第九条第一項ト同様)

(二) 一八九六年九月八日締結セラレタル東支鐵道建築經營契約第十二条所載ノ期限八十年ヲ六十年トシ期限満了後

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七二一

七三六

ハ鉄道及一切ノ付属財産ハ無償ニテ支那ノ所有ニ帰センム但シ期限ノ短縮又ハ買収ニ対シテハ双方商議ノ上同意

ヲ経タル後決定ス

(3)東支鉄道公司ノ債務ニ關シテハ一九二四年五月三十一日北京ニ於テ調印セラレタル露支協定大綱第九条第四項ニ依リ決定ス

四(本項ハ北京ノ協定第九条第五項ト同一ナリ)

五一八九六年九月八日締結ノ東支鉄道契約ハ本協定調印後四ヶ月以内ニ本協定各条ニ照シテ修正完成セシムヘシ

右修正以前ハ本協定ニ抵触セス又ハ支那ノ主權ヲ害セサルモノハ繼續有効トス

(6)本鉄道ニ理事会ヲ設ケ議決機關トス(其内容ハ北京協定ノ東支鉄道管理協定第一条ト同様ナリ)

(7)本項ハ鉄道ノ管理会ノ件ニシテ(北京協定ノ東支鉄道管理協定第二条ト同様)

(8)本項ハ鉄道管理局ノ件ニシテ(北京ニ於テ為セル東支鉄道管理協定第三条ト同一ナリ)

(9)本鉄道各署々長副署長等ハ理事会ニ於テ委任派遣ス総務各署長ハ支那人ヲ副署長ハ露国人ヲ以テス(北京ニテ

為セル東支鉄道管理協定第四条ト同様ナリ)

(10)(11)(12)ノ各項ハ北京ニ於テ為セル東支鉄道協定第五、六、七、八条ト略同一ナリ

(13)本項モ大体ニ於テ東支鉄道管理協定第九条ト同様ナルモ六ヶ月ノ期間ヲ当地ニテハ四ヶ月トセルノミ

(14)本協定ハ無効トス(北京ニ於ケル管理協定第一〇条ト略同様ナリ)

ト略同様ナリ)

第二条 航行権

双方ハ何種ノ船ヲ論セス両国辺境ノ河川、湖及(脱)其他ハ其流域ハ國境ヲ以テ限リト為スコトニ同意ス航行問題ハ相互

平等ニテ各主權ヲ尊重スルヲ以テ原則トス各種解決セル問題ノ細則ハ双方ヨリ組織セル委員会ニ於テ本協定調印ノ日ヨリ二ヶ月以内ニ規定完成スヘシ支那側ハ黒龍江ヲ下リ海ニ通スル處ノ客貨ニ對シ巨大ニ利益關係アリ露國側ハ松花江ニ於テ哈爾賓ニ至ル客貨ニ對シ又巨大ノ利益關係ヲ有ス故ニ双方ハ委員会ニ於テ相互平等ノ原則ニ照シ討論シ此種ノ利益問題ヲ保障スルコトニ同意ス

第三条

双方ハ國境内ニ於テ各政府ニ反対シ暴行ヲ図ル各種機關ヲ作リ又ハ團体ヲ存在センメス且双方ハ相手國ニ反対スル政

治上及社會上ノ組織又ハ宣伝ヲ為ササルコト

第六条 委員会

本協定各条規定ノ各委員会ハ本協定調印後一ヶ月以内ニ開會シ着手シ一切ノ問題ハ速ニ解決スヘシ遲クモ六ヶ月ヲ超ユヘカラス但シ上記各条内ニ期限ノ定メアルモノハ此限りニ非ス

第七条

本協定ハ調印ノ日ヨリ効力ヲ生ス

(以上)

因ニ本協定ハ、支、露、英三ヶ國ノ文ヲ以テシ疑義アルモ

ノハ英文ニ依ルコトトセリ支那側全權ハ鄭謙(總司令秘書

北京、奉天へ転電セリ

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七二三

七三八

七二三 九月二十五日

在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

奉ソ協定ノ漢正文写送付ノ件

付属書 奉ソ協定書漢文
付記一 同右協定書和訳文

二

三

四

同右協定書宣言（英文）
同右協定書宣言和訳文

本信写送付先 在支公使、哈爾賓總領事、閔東府
編註 右協定書漢文ヲ付属書トシテ左ニ掲ゲルト共ニ参考ノタ
メ同協定書英文・同協定書和訳文、同協定書宣言英文及
ビ同宣言和訳文ヲ各々付記トシテ掲ゲタ。

（付属書）
奉ソ協定書漢文

機密公第三九四号（極秘）（九月二十九日接受）
大正十三年九月二十五日

在奉天

総領事 船津 辰一郎（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

露奉協定漢正文写送付ノ件

本件ニ關シテハ不取敢昨二十四日付往電第三四四号（転電

合第一一六号）ヲ以テ其大綱及報告置候処當該漢正文ハ別

添ノ通リニ有之候条御查閱相成度右訳文ハ至急追送可致候

尚張作霖ハ右協定文ヲ本官ニ手交スル際其内容カ絶対ニ外

間ニ洩レサル様懇々依頼ノ次第有之候間右様御取計相煩度

此段申進候 敬具

中華民国東三省自治省政府委派全權代表鄭謙呂榮寰鍾世銘
蘇維亞社會連邦政府委派全權代表庫茲聶措夫
雙方全權代表將所奉全權証書互相校閱均屬妥洽議定協定各
条如左

第一条 中國東省鐵路

締約雙方政府同意將東省鐵路問題解決如左

（一）締約雙方政府聲明東省鐵路純係商業性質之機關

締約雙方政府彼此声明除該路營業事務直轄於該路外所

有關係中華民國國家及地政府權利之各項事務如司法民

政軍務警務市政稅務地畝（除鐵路本身必需地皮外）等

概由中國官府辦理處置

由蘇連政府委派五人

（二）一八九六年九月二十七日訂立之建築經營東省鐵路合同第十
二條内所載之期限應由八十年減至六十年此項期滿後該
路及該路之一切付屬產業均歸為中國政府所有無須給價
經雙方同意時得將再行縮短上述期限（即六十年）之間
題提出商議

自本協定簽訂日起蘇連方面同意中國有權贖回該路贖
時應由雙方商定該路曾經實在價值若干並用中國資本以
公道價額贖回之

（三）蘇連政府允在雙方組織委員會中將東省鐵路公司債務問
題按照一千九百二十四年五月三十一日在北京簽訂之中
俄協定大綱第九條第四項決定

四締約雙方彼此同意東省鐵路之前途抵應由中國及蘇連兩
國取決不許第三者干涉

（四）一八九六年九月二十七日所訂建築經營東省鐵路合同由雙
方組織委員會在簽定本協定後四箇月以内按照本協定各

條修正完竣在未修正以前兩國政府根拠該項合同所有之
權利與本協定不相抵触不妨碍中國主權者繼續有效
（五）本鐵路設理事會為議決機關置理事十人由中國委派五人

生活及事務之進行即聘用兩國職員時應以各該員之經驗
任用

（六）本鐵路各處長副處長等理事會委派之如處長為華人時
副處長須用蘇連人處長為蘇連人時副處長須用華人

（七）本鐵路各處人員按照中華蘇連兩國人民平均分配之原則

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定關係 七二三〇

品學資格為標準

(乙)除預算及決算之問題應照本協定第一条第十二項辦理外

其余各項問題由理事會議決遇有不能解決時應呈報締約

雙方政府以和平公允方法解決

(丙)本鐵路之預算決算由理事會提交理事會及監事會之連席

會議審定

(丁)本鐵路所有純利由理事會保存在雙方組織之委員會未將

締約雙方分配純利問題解決以前不得動用

(戊)理事會應將前俄政府於一八九六年十二月四日批准之東

省鐵路公司章程按照本協定從速修正完竣至遲不得遲自

理事會成立之日起四箇月其未修正以前該項章程與本協

定不相抵觸暨不妨碍中國主權者繼續適用

(己)將來中國贖回東路之條件一經締約雙方商定時或該路於

本協定第一条第二項所載之期滿後帰回国時本協定所

有關於東路之各部分即失其効

第七条 航權

締約雙方同意將雙方無論何種船隻在兩國邊境江湖及他種

流域上以國界為限之航行問題按照平等相互及彼此尊重主

權之原則解決所有該問題之細目應在雙方組織之委員會自

上述各條內規定期限者不在此限

第七条

本協定自簽定日起即生效力

為此雙方全權代表將本協定華俄英三國之文各兩份各簽字蓋

印遇有疑義處以英文為準

中華民國十三年九月二十日即西曆一千九百一十四年九月二十一

十日訂於奉天

庫 兹 畢 指 夫 印

鄭 謙 印

呂 栄 實 印

鍾 世 銘 印

(右記)

奉ソ協定書英文

Agreement between The Govern-

ment of The Union of Soviet

Socialist Republics and The

Government of The Autono-

mous Three Eastern Prov-

inces of The Republic

of China.

七四〇

簽定本協定日起於兩箇月以內規定完竣因中國方面對於

黑龍江下游通海處之客貨有甚大利益之關係蘇連方面對

於松花江至哈爾濱之客貨亦有甚大利益之關係故雙方同

意在委員會中按照平等相互之原則討論保障此種利益之

問題

第三条 疆界

締約雙方允由雙方組織委員會將彼此疆界重行劃定在疆界

未行劃定以前允仍維持現有疆界

第四条 商約及關稅條約

締約雙方允由雙方組織之委員會中根拏平等相互之主義訂

立商約及關稅稅則

第五条 宣伝

締約雙方政府互相擔任在各該國境內不准有為圖謀以暴行

反對各該政府而成立之各種機關或團體之存在及舉動

締約雙方政府允認彼此不為予對方國政治上及社會上之組

織相反對之宣伝

第六条 委員會

本協定各條所規定之各委員會應在簽訂本協定後一箇月內

起首辦事所有一切問題迅速解決完竣至遲不得逾六箇月但

Signed at Mukden, September 20, 1924,

In force from September 20, 1924.

THE GOVERNMENT OF THE UNION OF SOVIET
SOCIALIST REPUBLICS AND THE GOVERNMENT OF THE
AUTONOMOUS THREE EASTERN PROVINCES OF THE
REPUBLIC OF CHINA, desiring to promote the friendly
relations and regulate the questions affecting the
interests of both Parties, have agreed to conclude
an Agreement between the two Parties, and to that
end named as their Plenipotentiaries, that is to say:

THE GOVERNMENT OF THE UNION OF SOVIET SO-

CIALIST REPUBLICS:

NIKOLAI KIRILLOVICH KOUZNETZOV;

THE GOVERNMENT OF THE AUTONOMOUS THREE
EASTERN PROVINCES OF THE REPUBLIC OF CHINA:

CHENG TSAN, LUI YUNG-HUAN and CHUNG

SHI-MING.

Who, having communicated to each other their
respective full powers, found to be in good and

due form, have agreed upon the following Articles:

ARTICLE 1.

THE CHINESE EASTERN RAILWAY.

The Governments of the two Contracting Parties agree to settle the question of the Chinese Eastern Railway as hereinafter provided;

1. The Governments of the two Contracting Parties declare that the Chinese Eastern Railway is a purely commercial enterprise.

The Governments of the two Contracting Parties mutually declare that with the exception of matters pertaining to the business operations which are under the direct control of the Chinese Eastern Railway, all other matters affecting the rights of the National and the Local Governments of the Republic of China, such as judicial matters, matters relating to civil administration, military administration, police, municipal government, taxation and landed property redeemed by China with Chinese capital at a fair price.

3. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees in a Commission to be organised by the two Contracting Parties to settle the question of the obligations of the Chinese Eastern Railway Company in accordance with Section 4 of Article 9 of the Agreement on General Principles for the Settlement of the Questions between the Union of Soviet Socialist Republics and the Republic of China signed on May 31th 1924, at Peking.

4. The Governments of the two Contracting Parties mutually agree that the future of the Chinese Eastern Railway shall be determined by the Union of Soviet Socialist Republics and China to the exclusion of any third party or parties.

5. The Contract for the Construction and Operation of the Chinese Eastern Railway of

(with the exception of lands required by the Chinese Eastern Railway for itself) shall be administered by the Chinese Authorities.

2. The time-limit as provided in Article 12 of the Contract for the Construction and Operation of the Chinese Eastern Railway of August 27th 1896, shall be reduced from eighty to sixty years, at the expiration of which the Government of China shall enter gratis into possession of the said Railway and its appurtenant properties.

Upon the consent of both Contracting Parties, the question of a further reduction of the said time-limit (that is, sixty years) may be discussed.

From the date of signing the present Agreement, the Union of Soviet Socialist Republics agrees that China has the right to redeem the Chinese Eastern Railway. At the time of redemption, the two Contracting Parties shall determine what the Chinese Eastern Railway had actually cost, and it shall be

August 27th 1896, shall be completely revised, in accordance with the terms specified in this Agreement, by a Commission of the two Contracting Parties in four months from the date of signing the present Agreement. Pending the revision, the rights of the two Governments arising out of this Contract, which do not conflict with the Present Agreement and which do not prejudice China's right of sovereignty, shall be maintained.

6. The Railway shall establish, for discussion and decision of all matters relating to the Chinese Eastern Railway, a Board of Directors to be composed of ten persons, of whom five shall be appointed by the Union of Soviet Socialist Republics and five by China.

China shall appoint one of the Chinese Directors as President of the Board of Directors, who shall be ex-officio the Director-General.

The Union of Soviet Socialist Republics shall

appoint one of the Russian Directors as Vice-President of the Board of Directors, who shall be ex-officio the Assistant Director-General.

Seven persons shall constitute a quorum, and all decisions of the Board of Directors shall have the consent of not less than six persons before they can be carried out.

The Director-General and the Assistant Director-General shall jointly manage the affairs of the Board of Directors, and they shall jointly sign all the documents of the Board.

In the absence of either the Director-General or the Assistant Director-General, their respective Governments may appoint another Director to officiate as the Director-General or the Assistant Director-General (in the case of the Director-General, by one of the Chinese Directors, and in that of the Assistant Director-General, by one of the Russian Directors).

9. The Chiefs and the Assistant Chiefs of the various departments of the Railway shall be appointed by the Board of Directors.

If the Chief of a department is a national of the Union of Soviet Socialist Republics, the Assistant Chief of that department shall be a national of the Republic of China, and if the Chief of a department is a national of the Republic of China, the Assistant Chief of that department shall be a national of the Union of Soviet Socialist Republics.

10. The employment of persons in the various departments of the Railway shall be in accordance with the principle of equal representation between the nationals of the Union of Soviet Socialist Republics and those of the Republic of China.

(Note:—In carrying out the principle of equal representation, the normal course of life and activities of the Railway shall in no case be interrupted or injured, that is to say, the employment of the people

of both nationalities shall be based in accordance with experience, personal qualifications and fitness of the applicants).

11. With the exception of the estimates and budgets as provided in Section 12 of Article 1 of the present Agreement, all other matters on which the Board of Directors cannot reach an agreement, shall be referred to the Governments of the Contracting Parties for a just and amicable settlement.

12. The Board of Directors shall present the estimates and budgets of the Railway to a joint meeting of the Board of Directors and the Board of Auditors for consideration and approval.

13. All the net profits of the Railway shall be held by the Board of Directors and shall not be used pending a final settlement, in a joint Commission, of the question of its distribution between the two Contracting Parties.

14. The Board of Directors shall make a complete

revision, as soon as possible, of the Statutes of the Chinese Eastern Railway Company approved on

December 4th, 1896, by the Tsarist Government in accordance with the present Agreement and not later than four months from the date of the constitution of the Board of Directors.

Pending their revision, the aforesaid Statutes, insofar as they do not conflict with the present Agreement and do not prejudice the rights of sovereignty of the Republic of China, shall continue to be observed.

15. As soon as the conditions of the redemption by China of the Chinese Eastern Railway are settled by both Contracting Parties, or as soon as the Railway reverts to China upon the expiration of the timelimits as stipulated in Section 2 of Article 1 of the present Agreement all parts of this Agreement concerning the same shall cease to have effect.

ARTICLE 2.

ARTICLE 3.

ARTICLE 4.

The Governments of the two Contracting Parties agree to redemarcate their boundaries through a Commission to be organized by both Parties, and, pending such redemarcation, to maintain the present boundaries.

any organizations or groups whose aim is to struggle by acts of violence against the Government of either Contracting Party.

The Government of the two Contracting Parties further pledge themselves not to engage in propaganda directed against the political and social systems of either Contracting Party.

ARTICLE 5.

COMMISSIONS.

The Governments of the two Contracting Parties agree to draw up a Customs Tariff and conclude a Commercial Treaty in a Commission to be organized by the said Parties on the basis of equality and reciprocity.

The Commissions as provided in the Articles of this Agreement shall commence their work within one month from the date of signing this Agreement, and shall complete their work as soon as possible and not later than six months. This does not apply to those Commissions, whose time-limits have been specified in the respective Articles of this Agreement.

ARTICLE 6.

The present Agreement shall come into effect from the date of signature.

NAVIGATION.

The Governments of the two Contracting Parties agree to settle, on the basis of equality, reciprocity and the respect of each other's sovereignty, the question relating to the navigation of all kinds of their vessels on those parts of the rivers, lakes, and other bodies of water, which are common to their respective borders, the details of this question to be regulated in a Commission of the two Contracting Parties within two months from the date of signing the present Agreement.

In view of the extensive freight and passenger interests of the Union of Soviet Socialist Republics on the River Sungari up to and including Harbin, and the extensive freight and passenger interests of China on the lower Amur River into the sea, both Contracting Parties agree, on the basis of equality and reciprocity, to take up the question of securing the said interests in the said Commission.

In witness whereof, the respective Plenipotentiaries have signed the present Agreement in duplicate in the Russian, Chinese and English languages, and have affixed thereto their seals.

In case of dispute, the English text shall be accepted as the standard.

Done at the City of Mukden this Twentieth Day of September, One Thousand Nine Hundred and Twenty-Four, which is the Twentieth Day of the Ninth Month of the Thirteenth Year of the Republic of China.

(L. S.) (Signed) N. KOUZNETZOV.

(L. S.) (Signed) CHENG TSIAN.

(L. S.) (Signed) LUI YUNG-HUAN.

(L. S.) (Signed) CHUNG SHI-MING.

中華民國東三省自治政府

鄭謙 呂榮寰 鍾世銘

因テ各全權委員ハ互ニ其ノ所持スル全權委任状ヲ示シ之カ
良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸条ヲ協定セリ

第一条 東支鐵道

兩締約国政府ハ東支鐵道問題ヲ左ノ如ク解決スルコトニ同意ス

一、兩締約国政府ハ純然タル商業上ノ企業タル
ニテ声明ス

〔編註 右協定書英文ハ昭和十四年二月外務省條約局編『ソ連諸
外国間条約集』より採録ス

(付記) 奉ソ協定書和訳文

両締約国政府ハ東支鐵道ニ於テ直轄スル該鐵道ノ營業事務ヲ除キ司法、民政、軍務、警務、市政、稅務、土地（鐵道自体ニ必要ナル土地ハ之ヲ除ク）ノ如キ凡テ中華民国國家及地方政府ノ權利ニ關係アル事項ハ支那國官庁ニ於テ辦理処置スルコトヲ互ニ声明ス。

二、一千八百九十六年九月二十七日付東支鐵道建設經營契約第十一条ニ規定スル期限八十年ヲ六十年ニ減ス右期限満了後ハ該鐵道及該鐵道ニ付属スル一切ノ財產ハ無償ニテ尽ク中國政府ノ所有ニ帰スヘン。

両締約国ノ同意アル時ハ前記期間（即チ六十年）ノ短縮ニ閑スル問題ヲ提出商議スルコトヲ得。

本協定調印ノ日ヨリ「ソヴィエト」社會主義共和国連邦ハ中國カ東支鐵道買収ノ権利ヲ有スルコトニ同意ス該鐵道買収ニ際シテハ両締約国ハ該鐵道ニ付曾テ費サレタル實際ノ費用幾何ナルヤラ議定シ且中國ノ資本ヲ用ヒ公平ナル価額ニテ之ヲ買収スヘン。

二、「ソヴィエト」社會主義共和国連邦政府ハ締約国雙方ニ於テ委員會ヲ組織シ東支鐵道公社債務問題ニ關シ千九百二十四年五月三十日北京ニ於テ締結セラレタル露文

「ソヴィエト」社會主義共和国連邦政府ト中華民國東三省自治政府トハ友誼ヲ增進シ及両國ノ利益ニ關スル諸問題ヲ規定センコトヲ欲シ之カ為協定ヲ締結スルコトニ決定シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

「ソヴィエト」社會主義共和国連邦政府

一九一四年九月一〇日奉天ニ於テ署名

一九一四年九月一〇日ヨリ實施

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七二三

七五〇

ヲ得ルニ非サレハ執行スルコトヲ得サルモノトス

督辦及会辦ニ事故アルキハ各本国政府ハ他ノ理事ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシム（督辦ハ支那人理事代理シ会辦ハ露西亞人理事代理ス）

七 本鉄道ニ監事會ヲ設ケ監事五人ヲ以テ之ヲ組織シ監事三人ハ「ソヴィエト」社会主义共和国連邦ヨリ任命シ二人ハ中国ヨリ任命ス（監事長ハ中国監事中ヨリ之ヲ選挙ス）

八 本鉄道ニ管理局長一人ヲ置キ「ソヴィエト」社会主义共和国連邦ノ人民ヲ之ニ任命シ副局長一人ヲ置キ「ソヴィエト」社会主义共和国連邦ノ人民及中国人各一人ヲ之ニ任命ス

前記吏員ハ理事会之ヲ任命シ各本国政府ノ認可ヲ受クヘキモノトス

局長及副局長ノ権利及義務ハ理事会ニ於テ之ヲ規定ス

九 本鉄道各処ノ處長及副處長ハ理事会之ヲ任命ス

処長カ「ソヴィエト」社会主义共和国連邦ノ人民ナル場

（註）本項ノ均分代表ノ原則ヲ實行スルニ當リテハ如何ナル場合ト雖モ該鉄道平常ノ活動及事務ノ進行ヲ妨碍スルコトヲ得ス即チ両国人職員ヲ聘用スルトキニハ各出願員ノ経験、器量及資格ヲ以テ標準ト為スヘシ

十 本鉄道各処ノ職員ノ使用ニ際シテハ「ソヴィエト」社会主义共和国連邦ノ人民タルヘキモノトス

十一 本協定第一条第十二項ニ規定セル予算及決算ヲ除キ理事会ニ於テ合意ヲ見ルコトヲ得サル一切ノ事項ハ両締約國政府ニ通告シ公平且友誼的解決ヲ受クヘシ

十二 本鉄道ノ予算及決算ハ理事会ヨリ理事会及監事會ノ連合會議ニ提出シテ之ヲ審定ス

十三 本鉄道ノ全純益ハ理事会之ヲ保存シ締約國雙方ノ組織スル委員會カ両國間ニ於ケル右純益ノ分配問題ヲ最終的ニ解決スル迄之ヲ流用スルコトヲ得サルモノトス

十四 理事會ハ前露西亞帝政政府カ千八百九十六年十二月

四日承認セル東支鐵道會社定款ヲ本協定ニ依リ出来得ル限り速ニ且遲クトモ理事会成立ノ日ヨリ四月ヲ超エサル期間内ニ修正ヲ了スヘシ

該修正前ニ於テハ定款ニシテ本協定ト相抵触セス且中国ノ主權ヲ毀損セサルモノハ引続キ之ヲ適用ス

十五 将來中国ノ東支鐵道買収条件ニシテ雙方ノ商議締約ヲ經タル場合又ハ該鉄道カ本協定第一条第二項所載ノ期間滿了後ニ於テ中国ニ帰属シタル場合ニ於テハ本協定ノ東支鐵道ニ關スル一切ノ部分ハ直ニ其ノ効力ヲ失フモノトス

第二条 航行権

兩締約國ハ船舶ノ種類ヲ問ハス両国邊境ノ江湖及其ノ他ノ種類ノ水面ノ両国國境ニ共通スル部分ニ於ケル航行問題ヲ平等、相互及主權ノ相互尊重ノ原則ニ照シテ解決スルコト

ニ同意ス凡テ本問題ノ細目ハ雙方ヨリ組織セル委員會ニ於テ本協定調印ノ日ヨリ二月内ニ規定セラルヘシ

「ソヴィエト」社会主义共和国連邦ハ松花江ヨリ哈爾賓（哈爾賓ヲ含ム）ニ至ル旅客貨物ニ對シ甚大ノ利益關係ヲ有シ、中國ハ黒竜江ヲ下り海ニ通スル旅客貨物ニ對シ甚大

ノ利益關係ヲ有スルヲ以テ両締約國ハ平等相互ノ原則ニ照シテ前記委員會ニ於テ此ノ種利益ノ保障問題ヲ討論スルコトニ同意ス

第三条 境界

兩締約國政府ハ雙方ヨリ組織スル委員會ニ依リ相互ノ境界ヲ画定シ右境界画定前ニ於テハ依然現在ノ境界ヲ維持スルコトニ同意ス

第四条 關稅及通商條約

兩締約國政府ハ雙方ヨリ組織スル委員會ニ於テ平等相互主義ニ準拠シ關稅稅則及通商條約ヲ締結スルコトニ同意ス

第五条 宣伝

兩締約國政府ハ各自ノ國境内ニ於テ締約國ノ何レカノ政府ニ暴行ヲ以テ反対ヲ企図スル為成立スル各種機關又ハ団体ノ存在及（又ハ）活動ヲ許容セサルコトヲ互ニ約ス

尚両締約國政府ハ相手國ノ政治及社會組織ニ反対スル宣伝ニ從事セサルコトヲ互ニ約ス

第六条 委員會

本協定各項ニ規定スル委員會ハ本協定調印後一月内ニ其ノ事業ヲ開始シ且出來得ル限り速ニ、遲クトモ六月内ニ之ヲ

根ハシハ本協定各条ノ期限ヲ規定シテ又ハ該國公
ニ在リ此ノ限ニ在リ

第七条

本協定ノ署名ノ日より其ノ効力ニ生リ

右誠摯ニシテ各全權委員ハ本協定ノ露文、叔那文及英文各

ノ通ニ署名調印セラ

茲義アルトキハ英文ニ拠シ

十九廿一十四年九月二十日中華民國十三年九月二十日奉天

ニ於ケ作成ス

ク バ ハ ベ ハ (臣)
鄭 謙 (臣)

丘 米 輓 (臣)
鍾 圭 銘 (臣)

璽印 右協定書和諒文、昭廿四年九月外務省條約司庫『八連

邦語外國間條約集』ニ採録ス

(支那)

奉ハ協定眞面(英文)

Declaration I.

The Government of the Union of Soviet Socialist

Month of the Thirteenth Year of the Republic of
China.

(L. S.) (Signed) N. KOUZNETZOV.

(L. S.) (Signed) CHENG TSIAN.

(L. S.) (Signed) LUI YUNG-HUAN.

(L. S.) (Signed) CHUNG SHI-MING.

Declaration II.

The Government of the Union of Soviet Socialist
Republics and the Government of the Autonomous
Three Eastern Provinces of the Republic of China
mutually declare that after the signing of the Agreement
of September 20, 1924, between the Governments of
the two Contracting Parties, if there are now on the
various governmental services of the Government of
the Union of Soviet Socialist Republics certain Chinese,
as they constitute by their presence and/or activities
the menace to the interests of the Autonomous Three
Eastern Provinces of the Republic of China, or if there
are now on the various governmental services of the

Government of the Autonomous Three Eastern
Provinces of the Republic of China the former subjects
of Russia, as they constitute by their presence and/or
activities the menace to the interests of the Union of
Soviet Socialist Republics, the respective Governments
will furnish each other with lists of such persons and
will instruct the authorities concerned to adopt
necessary actions to stop the activities or to discontinue
the services of the aforementioned persons.

In witness whereof, the respective Plenipotentiaries
have signed the present Declaration in duplicate in the
Russian, Chinese and English languages and have
affixed thereto their seals.

In case of dispute, the English text shall be accepted
as the standard.

Done at the City of Mukden this Twentieth Day of
September, One Thousand Nine Hundred and Twenty-
Four, which is the Twentieth Day of the Ninth
Month of the Thirteenth Year of the Republic of

China.

(L. S.) (Signed) N. KOUZNETZOV.

(L. S.) (Signed) CHENG TSIAN.

(L. S.) (Signed) LUI YUNG-HUAN.

宣 言 (二)

ク ブ ネ ザ フ (印)

鄭 謙 (印)

呂 栄 實 (印)

鍾 世 銘 (印)

編註 右協定書宣言ハ漢文ヲ欠クノデ英文ヲ昭和十四年(三月外務省条約局編)『ソ連邦諸外国間条約集』ヨリ採録ス**(付記四)**

奉ソ協定宣言和訳文

宣 言 (一)

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府及中華民国東三省自治政府ハ両国間ノ千九百二十四年九月二十日付協定ノ調印アリタル後直ニ中華民国東三省自治政府ハ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ニ前露西亞帝政政府ニ属シタル領事館建物ヲ移転スルコトヲ茲ニ宣言ス

右証拠トシテ各全権委員ハ本宣言ノ露文、支那文及英文各

二通ニ署名調印セリ

疑義アルトキハ英文ニ拠ル

千九百二十四年九月二十日中華民国十三年九月二十日奉天ニ於テ作成ス

「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府及中華民国東三省自治政府ハ両国間ノ千九百二十四年九月二十日付協定ノ調印アリタル後「ソヴィエト」社会主義共和国連邦政府ノ各部ニ中国人アリテ其ノ存在及(又ハ)活動ニ依リ中華民国東三省ノ利益カ脅威セラルル場合又ハ中華民国東三省自治政府ノ各部ニ前露西亞人アリテ其ノ存在及(又ハ)活動ニ依リ「ソヴィエト」社会主義共和国連邦ノ利益カ脅威セラルル場合ニハ各政府ハ相互ニ右人民ノ人名簿ヲ与へ且関係官庁ニ対シテ其ノ活動ヲ停止シ又ハ之ヲ解雇スルニ必要ナル手段ヲ取ルヘキコトヲ命令スヘキコトヲ互ニ宣言ス

右証拠トシテ各全権委員ハ本宣言ノ露文、支那文及英文各二通ニ署名調印セリ

疑義アルトキハ英文ニ拠ル

千九百二十四年九月二十日中華民国十三年九月二十日奉天ニ於テ作成ス

ニ於テ作成ス

不取敢

外務大臣及在支公使ヘ転電セリ

ク ブ ネ ザ フ (印)
鄭 謙 (印)
呂 栄 實 (印)
鍾 世 銘 (印)

七二五 九月二十六日 在ハルビン山内總領事ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

奉ソ協定成立ノ日付並ビニ北満警備ニ関スル
事項ノ有無ニツキ奉天總領事ニ問合セノ件

第一四六号

(九月二十七日接受)

本官發奉天宛電報第七四号

奉露協定成立ノ日付ニ關シ愈人鳳及李外交課長等カ九月二

十日説ヲ伝ヘタル根拠ハ當地護路軍總司令部、行政長官公署並東支鐵道督弁公署ニ対シ張作霖ヨリ「支露協定ハ九月二十日午後五時調印済ミ」ナル簡単ナル密電アリ当地満鉄事務所ノ手ニテ諜報者ヨリ電文入手シキタレル結果ト信ス

ル處(貴電第三六三号モ同様ノ情報アリ)其後張作霖ノ貴官ニ対スル談話ニ依レハ右ハ九月二十二日調印サレ居ルモノナルヲ以テ其以前何カ九月二十日ニ調印サレタルモノアレヤモ知レスト存セラルルカ右ハ或ハ大臣宛貴電第三四一号末段ノ北満警備ニ関スル協定カ何カニ非ラサルヤ其辺ノ御見込御回報ヲ請フ尚新協定成立ノ結果東支鐵道幹部ニ備

備云々ノ件ニ関シ具体的協定ノ有無ハ更ニ取調フヘキモ右

張作霖ハ菊池少将ニ対シ二十二日調印セル旨語リ(外務大臣宛電報第三三三号)又去ル二十三日夜張ハ本官ニ対シテ

モ昨日調印セル旨ヲ語リタルカ其ノ後張ヨリ入手シタル奉

露協定条文(昨二十五日貴官ヘモ郵送セリ)尚貴電北満警

備云々ノ件ニ関シ具体的協定ノ有無ハ更ニ取調フヘキモ右

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七二六

七五六

更ヲ生ス可ギニ付右ニ閲スル概要ノ御見込モ併セテ御電報
ヲ請フ

大臣、在支公使ヘ転電セリ

七二六 九月二十六日 在ハルビン大久保内務事務官ヨリ
広田欧米局長他宛

奉ソ協定ノ各方面ニ及ボス影響ニ閲シ観察ノ件
哈秘第一九二号 (十月三日外務省接受)

大正十三年九月二十六日

在哈爾賓 大久保内務事務官

広田欧米局長他宛(編註)

奉露協定ニ閲スル諸観察

既報ノ如ク奉露協定ハ本月二十二日奉天ニ於テ締結セラレタルカ本件ニ閲シ各方面ノ影響ヲ観察スルニ概不次ノ如クナルヘシ

其(一) 協定理由

今回突如トシテ協定セラレタル理由ハ大方左ノ如クナルヘシト思料セラル

(イ)張作霖ハ大体協定ノ案文ヲ作製シ置キ何レカ好機会ニ断行セントナシツツアリシハ事実ナリ要スルニ張ハ北京協

憂ヲ多少ニテモ断チタルコト及彼レカ露支細目協定ニ際シ

北京政府ト共ニ正式ノ發言權ヲ得タルコトニアルヘシ

反之露國側ノ利点ヲ見ルニ露支協定成立セルモ張ノ反対ニヨリ最モ利害關係ノ多キ滿州ニ於テ協定ノ実行ヲ為シ得サリシモノカ今後ハ之ヲ實行シ得ルニ至ルヘシ

其(二) 協定ノ諸影響

協定ニヨル張及露國側ノ利点ハ上述セルヲ以テ之ヲ省キ其他ノ影響ヲ考フルニ左ノ如クナルヘシ

(イ)現在滿州ニ於ケル露國ノ各種機關ハ正式ニ承認セラレタルヲ以テ今後ハ代表ノ名称ヲ領事ニ改ム可ク從ツテ從來

國旗ノ掲揚ヲ許ササリシモノカ今後正式ニ掲揚シ外交

團、領事團ニモ加入スルニ至ルヘシ現在哈爾賓ニ於テ總領事館ノ設ケアルハ日本ノミナルカ露國モ亦總領事館タラシムルニ至ルヘク從テ日本領事ノ不在等ノ場合ハ露國領事力首席タルニ至ルヘシ

(ロ)東支鐵道幹部ノ異動

露支暫定協約ニヨレハ東支鐵道ハ純然タル商業的企業ト

ナシ細目協定ノ成立迄ハ支那及露國側ヨリ委員ヲ出シ監督委員会ヲ組織スルノ内約ナルヲ以テ当然此等委員ノ任

定ニ比シ自己ノ面目ヲ多少ニテモ立テ得レハ満足ナリ
ニハ急遽露国ト妥協スルノ必要ヲ感シタルコトナリ

(ロ)奉直戰ニ際シ後顧ノ憂トナルハ露國ナリ故ニ此憂ヲ除ク
ヤ、グロデコウ地方ニ赤軍ノ増加配置ヲ為シ張作霖ニ對シテ一種ノ示威運動ヲ為シタルコトナリ

大体以上ノ如クナルヘシ

其(三) 協定内容

協定内容ニ閲シテハ秘密ニ付シ細目ヲ知ルニ困難ナルモ要スルニ主眼ハ北京ニ於ケル露支協定ノ正式承認ト張ノ面目ヲ立ツル範囲ノ讓歩ニアルカ如シ即チ大体ニ於テハ露支協定ト同様ニシテ其根本協定ヲ認メ東支鐵道、留紙幣、松花江航行、蒙古等ノ諸問題ニ閲シテハ後日ノ細目協定ニ讓レリ但シ東支鐵道ヲ支那側ニ無償返済スルハ八十年後ナリシヲ六十年ニ短縮シ各種問題解決ノ委員会ハ一ヶ月以内ニ組織シ六ヶ月以内ニ完成ス等ノ文句アル如キモ他ニ差シタル異点ヲ見ス

本協定ニヨル張作霖方ノ利点ヲ觀ルニ奉直戰ニ際シ後顧ノ異点ヲ見ス

命ヲ見ルヘク從ツテ現幹部ノ更迭ハ免レサルヘシ鐵道長官オストロモフモ從来赤派ト親交ヲ結ヒタルモ結局辭スルニ至ルヘク他ノ重要ナル人物モ亦然ルヘシ從ツテ人物任免ニ閲シ多少ノ物議ヲ惹起スルハ免レサル所ナルヘシ

(ハ)東支鐵道從業員ノ赤化

現在ニ於テモ從業員中職業組合ヲ組織シ幹部ニ黨員ヲ置キテ主義ノ宣伝ニ努メ來リタルモノナルカ今後ニ一層

赤化シ或ハ賃錢ノ値上ケニ、時間ノ短縮ニ、衛生設備ノ向上ニ、退職手当ノ増加ニ各種ノ問題ヲ惹起スルニ至ルヘク漸次露國ノ労働法規ヲ適用セシムルニ至ルヘシ

(二) 滿鉄トノ関係

現在ノ奉直戰ニ際シ露國ハ南滿ノ不安ヲ吹聴シテ物資ヲ浦塙ニ吸收セントシツツアリ若シ今後東支鐵道ノ要路ニ露國側ノ侵入シ来ルアラハ必スヤ物資ノ浦塙吸收ヲ策シ現在滿州線六分、浦塙線四分ノ割合ハ変化シ来ルモノト思料セラル

(イ)東支鐵道ノ國際的紛議

東支鐵道カ上叙ノ如ク變化ヲ見ルニ至ラハ利害關係ヲ有スル諸國ハ幾多ノ抗議ヲ出スニ至ルヘシ特ニ日、米、仏

ハ直接關係濃厚ナルヲ以テ此等ノ列國ト支、露両國トノ間ニハ各種ノ問題ヲ起スハ明白ナリ東支鐵道ノ直接持主ハ露亞銀行ニシテ同行ハ今仏國ニ所属セリ從來東支鐵道ノ理事ハ露亞銀行ノ推薦者ヲ以テスルヲ原則トナシ居リタルモノニシテ若シ露支両國カ勝手ニ理事ノ更迭等ヲ為サハ仏國トノ間ニ一問題ヲ起スモノト思料セラル

(イ)白派露人ノ脅威

当地及東支沿線ニハ約十万ノ白党露人アリ彼等ハ今回ノ協定ニヨリ一層脅威ヲ感シ或ハ家財ヲ纏メテ他ニ転スル者ナキニアラサルヘシ

其四 奉露協定ノ将来及軍事協定説

奉露協定ノ将来ヲ考フルニ更ニ北京カラハシモスコ一並ニ北京支那政府ノ了解ヲ必要トス可ク細目ノ協定モ何レノ日ニ行ハルルヤ不明ナリ殊ニ張作霖ニシテ勝ヲ得レハ格別敗ヲ取ルカ如キコトアラハ其前途如何ニナルヤ計ラレサル可シ從ツテ當地方モ細目協定ノ成立迄ハ差シタル變化ナカルヘシト観察スル者モアリ

尚今回ノ奉露協定ニ際シ北滿ノ警備ノ為メ露支両國カ軍事協定ヲ為シタリト説ク者アルモ是一種ノ想像ナルヘシ露国

側ヨリ觀察スルニ目下支那ノ動亂ハ張、吳何レカ勝ツヤ予想シ難ク從ツテ吳佩孚ノミヲ排シ張作霖ヲ援クルノ危険ハ敢テ犯ササル可ク且露国内ノ情勢又面白カラス南露、西伯利ニハ反乱アリ、飢饉アリ、ペテログラードニハ大洪水ノ慘害アリ國力ノ回復彼等ノ思フ様ニハナラス從ツテ今日兵力ヲ以テ張作霖ヲ援クルノ余裕ヲ有セサルヘシ或人ハ張作霖ノ戰況如何ニヨリテハ露国ハ赤軍ヲ北滿ニ侵入セシメテ武力東支線ヲ奪還ス可シト説クモノアルモ同一ノ理由ニヨリテ其実行ハ不可能ナルヘシセメテ國境ニ兵ヲ増加シテ示威ヲ為スカ馬賊又ハ鐵道從業者ヲ煽動スル位カ閻ノ山ナルヘシ故ニ露國カ張ト軍事協定ヲ為スノ理由ニ乏シト思料セラル一方張作霖方ト雖モ露國ノ赤軍ヲ利用シテ北滿ノ警備ヲ援助セシムラアランカ後日ノ危險ヲ考ヘサル可ラヌ要スルニ兩國ノ軍事協定ハ不可能ノ事實ナルヘク只奉露ノ協定ニ際シテ座談的ニ北滿ニ於テハ張ニ妨害トナル行為ハナササル可シ等ノ談話ノ交換位ハアリタルモノト思料セラル

編註 本文書ニ宛名ナキモ、他文書ヨリ類推シテ記入セリ

七二七 九月二十七日 在中国芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

奉ソ協定ノ成立ニ對シ北京外交部ガソヴィエ

ト側ニ抗議ヲ提出セリトノ報道ニ閱スル件

(九月二十八日接受)

第九〇九号 本官發奉天宛電報第七七号

奉露協定問題ニ關シ九月二十六日ノ中美通信ハ外交部カ二十六日付ニテ勞農側ニ対シ叛徒タル張作霖トノ協定成立説ニシテ事實トセハ斯カル協定ハ之ヲ認メサルヘキ旨ノ抗議ヲ提出セル趣ヲ報シ居レル處同日ノ「ロスター」ハ奉天側トノ諒解ニ(於テ)内容ハ北京ニテ調印セル東支鐵道ノ暫行管理弁法ト殆ト同様ナリト述ヘタル上同鐵道ヨリ速ニ白党ヲ駆逐スル事並ニ北京協定所定ノ如ク露支均等ノ基礎ニ於テ東支鐵道「マネージメント」ノ組織ヲ緊要事ト認メタル理由ハ外國干渉ノ危険ヲ考慮セルカ為ニシテ現ニ某々國カ同鐵道問題ニ關シ抗議ヲ為セル事情ニ顧ミル時ハ今次奉直ノ戰争ハ干渉実現ノ好辞柄ヲ与フルニ至ル無キヲ保セス而モ斯ル干渉ノ場合ニハ同鐵道モ白党必ス之ニ協力スヘシ云々ト述ヘ居レリ右郵送ス

七二八 九月二十七日 在ハルビン山内總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉ソ協定成立ニ閱連シ朱慶瀾將軍ノ処遇振り 一二 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七二八

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七二九 七三〇

七六〇

当方ニ与リ知ラシメサルヤモ知レス云々

外務大臣、公使へ転電セリ

第九二二号

(十月一日接受)

七二九 九月二十九日 在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉ソ協定ニ対スル外交部ノ抗議ニ関シカラハ

ンノ反駁ノ談話ニツキ報道ノ件

第三一九号 本官発在支公使宛電報

第一七九号

二十八日当地新聞報其他一二漢字新聞紙ハ奉露東支鐵道協定ニ關スル外交部抗議ニ対シ「カラハン」ハ本協定ハ専ラ日本カ支那ノ内乱ニ乘シ東支鐵道ヲ侵シ南滿州鐵道ノ勢力ヲ哈爾賓ニ伸長セムトスル野心ヲ防止セムトスルモノナレハ支那ニトリテハ莫大ノ利益ナリ依テ此趣旨ヲ以テ反駁スルニ決シタル旨語リタリ云々ノ北京發電ヲ掲載セリ

外務大臣ヘ転電セリ

争終了迄之カ実施ヲ延期スル様張作霖ニ申入ルコト適当ト信スルモ張ニ對シテハ日本ニ於テ最密接ナル關係ヲ有スル次第ナルニ付仏國側申入レノ場合本使ヨリモ仏國ト同意見ナル旨ノ申入レヲ為シ得ラレマシキヤ幸ヒニ本使ノ同意ヲ得ルニ於テハ或ハ英、米代表者ニモ相談シタキ考ナル旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ仏國政府ノ訓令ニ基クニアラスヤト念ヲ推シタルニ敢テ訓令ヲ有スル次第ニハ非サルモ自分ヨリ申出ツルニ於テハ直ニ承認ヲ得ヘキヲ信スト申シ居リタリ(多分訓令ニ基クモノト察ス)依テ本使ハ同代理公使所說ノ第一点ハ事実ナルヘキモ第二点ハ必シモ然リト断言スルヲ得サルヘク今後ノ模様ヲ見サレハ判明セス尤モ仏國

カ張作霖ニ単独ニ申入レヲ為スコトハ日本トシテ固ヨリ何等異議ヲ述フヘキ筋合ニ非サルモ本使ヨリ同様ノ申入レヲ為スコトニ付テハ政府ノ訓令ヲ仰キタル上ニ非ナレハ何トモ確言スルヲ得スト述ヘタルニ同代理公使ハ仏國側トシテモ張作霖ヘハ種々物資ヲ売込ミ居ル關係モアリ親密ノ間柄ニテ其ノ感情ヲ害スルカ如キコトハ成ルヘク之ヲ避ケタキ意向ナル旨語リ且本件ニ關スル日本政府ノ意向ヲ問合セ貰ヒタキ希望ヲ述ヘ引取リタリ就テハ何分ノ儀御回示アランコトヲ請フ

奉天ヘ暗送セリ

七三〇 九月三十日 在中國芳沢公使宛(電報)

奉直戰爭終結マデ奉ソ協定ノ實施延期方張作

道問題ニ關シテハ既ニ本年六月七日付ヲ以テ露支協定又ハ今後露支両政府間ニ行ハルヘキ協定事項ニ依リ我方ノ保有スル権利利益ハ何等影響ヲ受クルモノニアラサルコトヲ留保スル旨露支双方へ正式ニ申入済ナルヲ以テ我方権利利益ノ留保ニ關シテハ一応手続ヲ了シ居ル次第ニモアリ殊ニ此際張作霖ニ対シ何等申入ヲ為スコトハ之ヲ避クル方可然ト思考ス就テハ仏國側ヨリ重不テ問合セ来ル場合ニハ右御含ノ上可然回答シ置カレタシ

貴電第九二一号及第九六六号ニ関シ

第六二五号

奉ソ協定ノ実施延期方ニ關シ仏國側ノ張作霖

二対スル共同申入レ要請ニツキ回訓ノ件

七三一 十月十日 币原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

北京政府ノ奉ソ協定不承認ノ声明ニ対シカラ
ハンハ不可ナル旨言明ノ件

坂電第二二一号(十月十一日外務省接受)

駐仏陳公使ハ金法飛行機等交渉問題ノ困難ト病氣ノ故ヲ以テ去六日以来屢々辭職ヲ願ヒ出テタルニ依リ顧總長ハ駐墺公使黃榮良ヲシテ其後任ニ擬シ閣議ニ提出ノ筈ナリト「カラハン」ハ支那政府ノ奉露協定不承認ノ声明ニ対シ八日公文ヲ以テ該交渉ハ既ニ數ヶ月ヲ費セシモノニシテ顧總長襄ニ成立セシメタル大綱ニ悖ラサル限り不可ナシト言明

置ヲ執ルコトハ此際之ヲ避クルヲ適當トスヘク一方東支鉄

七六一

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 七三三 七三四

セラレンモノナリ「ソヴェット」政権ヲ以テセハ奉天政府ハ中央政府ニ比シ寧ロ露支協調ニ忠実ナルモノナリ云々トテ中央政府ノ反省ヲ促セリト

上海、天津、奉天済

七三三 十月二十八日 帽原外務大臣ヨリ
在ハルピン山内総領事宛（電報）

東支鐵道ノ新幹部ト個人的又ハ非公式ニ接触
方差支工ナキ旨回訓ノ件

第六九号

貴電第一七九号ニ閑シ

奉露協定ニ閑スル枢密院ニ於ケル目賀田男質問ニ對シテハ本大臣ヨリ張作霖カ独立國ノ主權者タラサルニ顧ミ國際法上正式ノ條約協定ヲ締結スルノ權能ヲ有スルモノト言フヲ得サルニ依リ我方トシテハ奉露協定ヲ無視シ然ルヘキ旨ヲ答ヘ置ケル次第ナルカ尚本件ニ閑シテハ曩ニ在北京仏國公使ヨリ奉露協定ノ實施ヲ奉直戦争終了迄延期スル様張作霖ニ申入レタキ處日本側ニテハ右ニ同意セラレ間敷ヤト我方態度ヲ問合ハセ来リタル趣ヲ以テ在支公使ヨリ請訓アリタルニ対シ別電第七〇号ノ通リ同公使宛往電第六二五号ヲ以

テ回訓シタル次第モアルニ付右参照アリタク要スルニ露奉協定ニ閑スル正式ノ措置ハ今後事態ノ成行ヲ見極メタル上必要ニ応シテ之ヲ決定シタキ意向ナルニ付貴官ハ右御含ミノ上差当リ事實上ノ措置トシテハ東支鐵道ノ新幹部トノ間ニ個人的又ハ非公式ニ接触ヲ保タルルコトトセラレ差支ナシ

本電別電第七〇号トモニ奉天へ転電アリタシ
シ

七三四 十一月十三日 帽原外務大臣宛（電報）

中ソ間ノ細目協定會議ノ開会予定ニ閑シ観察

ノ件

第一一七一号 （十一月十四日接受）

露支間ノ細目協定會議ニ閑シ新内閣ハ十一月三日ノ第一回閑議ニ於テ速ニ開会センコトヲ決議シ王正廷ヨリ「カラハノ」ニ此旨ヲ通シ同時ニ在莫斯科李家鑒ハ「チチエリン」ニ向ヒ同様ノ提議ヲ試ミ居タル結果同政府ハ七日頃「カ」ニ會議応諾ノ電訓ヲ与ヘタルニ依リ支那政府ハ十一月十八日ヲ開幕日トスヘキ旨提議シ「カ」ハ之ニ對シ未タ同意ヲ与ヘサル模様ナルモ支那側ハ相當急^{セキ}込ミ居ルモノノ如ク既

二會議準備委員嚴鶴齡ヲ任命シ目下段祺瑞及張作霖ニ相談

中ナルヲ以テ何レ遠カラス開會ノ運ニ至ルカトモ觀察セラル御参考迄

七三五 十一月二十七日 帽原外務大臣ヨリ
在奉天船津總領事宛（電報）

奉ソ協定ニ閑スル細目會議開催ニツキ探査方

一八三号

最近奉露協定ニ閑スル細目會議開催セラルヘキヤノ聞込アル處何等似寄ノ事實アリトセハ其動機等探査ノ上電報アリ度シ

右訓令トシテ北京へ転電アリ度シ

七三六 十一月二十九日 在奉天船津總領事ヨリ
帽原外務大臣宛（電報）

奉天側幹部等ノ北京方面ニ赴ケル留守中ニ奉

ソ協定細則ヲ協議スルコト絶対ナキ旨王省長

語リタル件

第四五六号

（十一月三十日接受）

貴電第一八三号ニ閑シ

二十八日王省長カ本官ニ語ル所ニ依レハ現ニ張作霖ヲ初メ鍾交渉員其他奉天側ノ幹部全部カ北京方面ニ赴ケル留守中当地若ハ哈爾賓ニ於テ奉露協定細則ヲ協議スルカ如キコト絶対ニナシ但シ北京ニ於テ「カラハン」ト張作霖トノ間ニ如何ナル交渉ヲナン居レルヤ否ヤハ自分ノ全ク聞知セサル所ナリ云々

在支公使ニ転電セリ